



# **Cisco Unified Presence アドミニストレーション ガイド**

Release 6.0(1)

**【注意】この文書はお客様の便宜のために作成された参考和訳であり、お客様とシスコシステムズとの間の契約を構成するものではありません。正式な契約条件は、弊社担当者、または弊社販売パートナーにご確認ください。**

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。見当たらない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB ( University of California, Berkeley ) パブリック ドメイン パーミッションとして、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved.Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、すべてのマニュアルおよび上記各社のソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記各社は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、または取り扱い、使用、または取り引きによって発生する、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルの使用またはこのマニュアルを使用できないことによって起こる制約、利益の損失、データの損傷など間接的で偶発的に起こる特殊な損害のあらゆる可能性がシスコまたは代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負いかねます。

CCVP, the Cisco Logo, and the Cisco Square Bridge logo are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, GigaStack, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networking Academy, Network Registrar, Packet, PIX, ProConnect, RateMUX, ScriptShare, SlideCast, SMARTnet, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0601R)

*Cisco Unified Presence アドミニストレーション ガイド*  
Copyright © 2007 Cisco Systems, Inc.  
All rights reserved.



## CONTENTS

<b>このマニュアルについて</b>	<b>xiii</b>
目的	xiii
対象読者	xiii
マニュアルの構成	xiv
関連マニュアル	xiv
表記法	xv
技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン	xvi
シスコ製品のセキュリティの概要	xvi

---

### PART 1

---

## Cisco Unified Presence

---

### CHAPTER 1

<b>はじめに</b>	<b>1-1</b>
概要	1-1
製品の説明	1-2
機能および利点	1-3
標準ベースの SIP/SIMPLE ネットワーク インターフェイス	1-3
Cisco Unified Personal Communicator のネットワーク インターフェイス	1-3
IP Phone Messenger のネットワーク インターフェイス	1-3
Cisco Unified Presence の管理ページの参照	1-4
Web ブラウザ	1-4
Cisco Unified Presence の管理ページへのログイン	1-4
Cisco Unified Presence の管理ページからのログアウト	1-5
Hypertext Transfer Protocol Over Secure Sockets Layer (HTTPS)	1-5
Cisco Unified Presence の管理ページにおける Internet Explorer および HTTPS の使用	1-6
Cisco Unified Presence の管理ページにおける Netscape および HTTPS の使用	1-7
Cisco Unified Presence の管理アプリケーションのナビゲート	1-9
Cisco Unified Communications Manager パブリッシュリンク	1-9
このリリースの最新情報	1-10
移行の手順	1-10
アクセシビリティ	1-11

参考情報	1-11
関連項目	1-11

PART 2

システムの設定

CHAPTER 2

<b>サーバの設定</b>	2-1
サーバの検索	2-2
サーバの設定	2-4
サーバの削除	2-5
サーバの設定値	2-6
関連項目	2-6

CHAPTER 3

<b>サービスパラメータの設定</b>	3-1
サーバのサービスに対するサービスパラメータの設定	3-2
サービスパラメータの表示	3-4
関連項目	3-5

CHAPTER 4

<b>ライセンスファイルのアップロード</b>	4-1
ライセンスファイルの取得	4-2
エンドユーザのライセンス	4-3
必要なエンドユーザライセンス数の計算	4-3
エンドユーザライセンスのアップロード	4-3
ユーザへのライセンスの割り当て	4-3
ライセンスファイルの内容	4-4
ライセンスファイルのアップロード	4-6
関連項目	4-7

CHAPTER 5

<b>ライセンスユニットレポート</b>	5-1
ライセンスユニットレポートの生成	5-1
関連項目	5-1

CHAPTER 6

<b>ステータス</b>	6-1
システムステータスの表示	6-1
ライセンス済ユーザの検索	6-3

CHAPTER 7

<b>設定トラブルシュータ</b>	7-1
設定トラブルシュータの使用	7-2

PART 3

Cisco Unified Presence の設定

## CHAPTER 8

<b>Cisco Unified Presence の設定値</b>	8-1
Cisco Unified Presence の設定値の設定	8-1
Cisco Unified Presence の設定値	8-2
関連項目	8-3

## CHAPTER 9

<b>プレゼンス ゲートウェイ</b>	9-1
プレゼンス ゲートウェイの検索	9-1
プレゼンス ゲートウェイの設定	9-2
プレゼンスゲートウェイの設定値	9-3
プレゼンス ゲートウェイの削除	9-4
関連項目	9-4

## CHAPTER 10

<b>ユーザ エージェントの設定</b>	10-1
ユーザ エージェントの検索	10-1
ユーザ エージェントの設定	10-3
ユーザ エージェントの設定値	10-3
ユーザ エージェントの削除	10-4
ユーザ エージェントのコピー	10-4
関連項目	10-5

## CHAPTER 11

<b>プロキシ サーバの設定</b>	11-1
プロキシ サーバ設定値の設定	11-1
プロキシ サーバの設定値	11-2
プロキシ サービスの再起動	11-2
関連項目	11-2

## CHAPTER 12

<b>スタティック ルート</b>	12-1
スタティック ルートの検索	12-1
スタティック ルートの設定	12-3
スタティック ルートの設定値	12-4
スタティック ルートの削除	12-5
関連項目	12-5

## CHAPTER 13

<b>メソッド/イベント ルーティング</b>	13-1
メソッド/イベント ルートの検索	13-1
メソッド/イベント ベースのルートの設定	13-3
メソッド/イベント ベースのルートの設定値	13-4
メソッド/イベント ルートの削除	13-4
関連項目	13-5

CHAPTER 14

<b>着信 ACL</b>	14-1
着信 ACL エントリの検索	14-1
着信 ACL の設定	14-3
着信 ACL の設定値	14-3
着信 ACL エントリの削除	14-4
関連項目	14-4

CHAPTER 15

<b>発信 ACL</b>	15-1
発信 ACL エントリの検索	15-1
発信 ACL の設定	15-3
発信 ACL の設定値	15-3
発信 ACL エントリの削除	15-4
関連項目	15-4

CHAPTER 16

<b>TLS コンテキストの設定</b>	16-1
TLS コンテキストの検索	16-1
TLS コンテキストの設定	16-3
TLS コンテキストの設定値	16-4
TLS コンテキストの削除	16-5
関連項目	16-5

CHAPTER 17

<b>TLS ピア サブジェクト</b>	17-1
TLS ピア サブジェクトの検索	17-1
TLS ピア サブジェクトの設定	17-3
TLS ピア サブジェクトの設定値	17-3
TLS ピア サブジェクトの削除	17-4
関連項目	17-4

CHAPTER 18

<b>AXL 設定</b>	18-1
AXL 設定値の設定	18-1

CHAPTER 19

<b>トランスポート リスナー</b>	19-1
トランスポート リスナーの検索	19-1
トランスポート リスナーの設定	19-3
トランスポート リスナーの設定値	19-4
トランスポート リスナーの削除	19-5
関連項目	19-5

CHAPTER 20

<b>クラスタ間ピア</b>	20-1
クラスタ間ピアの検索	20-1

クラスタ間ピアの設定	20-3
クラスタ間ピア設定の設定値	20-3
クラスタ間ピアの削除	20-4
関連項目	20-4

## PART 4

**アプリケーションの設定**

## CHAPTER 21

**Cisco Unified Personal Communicator の設定** 21-1

Cisco Unified Personal Communicator の設定値の設定	21-1
---------------------------------------------	------

## CHAPTER 22

**ユーザ設定** 22-1

ユーザの検索	22-1
ユーザの設定	22-3
ユーザの設定値	22-4
ユーザの削除	22-5
関連項目	22-5

## CHAPTER 23

**Unity サーバ** 23-1

Cisco Unity サーバの検索	23-1
Cisco Unity ホストの設定	23-3
Cisco Unity サーバの設定値	23-4
Cisco Unity サーバの削除	23-5
関連項目	23-5

## CHAPTER 24

**Unity プロファイル** 24-1

Cisco Unity プロファイルの検索	24-1
Cisco Unity プロファイルの設定	24-3
Cisco Unity プロファイルの設定値	24-4
Cisco Unity プロファイルの削除	24-5
関連項目	24-5

## CHAPTER 25

**MeetingPlace サーバ** 25-1

Cisco MeetingPlace サーバの検索	25-1
Cisco MeetingPlace サーバの設定	25-2
Cisco MeetingPlace サーバの設定値	25-3
Cisco MeetingPlace サーバの削除	25-3
関連項目	25-4

## CHAPTER 26

**MeetingPlace プロファイル** 26-1

Cisco MeetingPlace プロファイルの検索	26-1
------------------------------	------

Cisco MeetingPlace プロファイルの設定	26-3
Cisco MeetingPlace プロファイルの設定値	26-4
Cisco MeetingPlace プロファイルの削除	26-5
関連項目	26-5

CHAPTER 27

<b>CTI ゲートウェイ サーバ</b>	<b>27-1</b>
CTI ゲートウェイ サーバの検索	27-1
CTI ゲートウェイ サーバの設定	27-3
CTI ゲートウェイ サーバの設定値	27-3
CTI ゲートウェイ サーバの削除	27-4
関連項目	27-4

CHAPTER 28

<b>CTI ゲートウェイ プロファイル</b>	<b>28-1</b>
CTI ゲートウェイ プロファイルの検索	28-1
CTI ゲートウェイ プロファイルの設定	28-3
CTI ゲートウェイ プロファイルの設定値	28-4
CTI ゲートウェイ プロファイルの削除	28-5
関連項目	28-5

CHAPTER 29

<b>LDAP サーバ</b>	<b>29-1</b>
LDAP サーバの検索	29-1
LDAP サーバの設定	29-2
LDAP サーバの設定値	29-3
LDAP サーバの削除	29-3
関連項目	29-4

CHAPTER 30

<b>LDAP プロファイル</b>	<b>30-1</b>
LDAP プロファイルの検索	30-1
LDAP プロファイルの設定	30-3
LDAP プロファイルの設定値	30-4
LDAP プロファイルの削除	30-5
関連項目	30-5

CHAPTER 31

<b>プロキシ プロファイル</b>	<b>31-1</b>
プロキシ プロファイルの検索	31-1
プロキシ プロファイルの設定	31-3
プロキシ プロファイルの設定値	31-4
プロキシ プロファイルの削除	31-5
関連項目	31-5



CHAPTER 32	<b>CTI ゲートウェイの設定</b>	32-1	
	CTI ゲートウェイの設定値の設定		32-1
	関連項目	32-2	
CHAPTER 33	<b>MOC 割り当て</b>	33-1	
	MOC 割り当ての検索および設定		33-1
	一括割り当ての使用	33-3	
	関連項目	33-4	
CHAPTER 34	<b>IP Phone Messenger のステータス</b>	34-1	
	IP Phone Messenger のエンドユーザ ステータスの検索		34-1
	IPPM エンドユーザのログアウト	34-2	
	ブロードキャストメッセージの送信	34-3	
	関連項目	34-3	
CHAPTER 35	<b>IP Phone Messenger の設定</b>	35-1	
	IPPM 設定値の設定	35-1	
CHAPTER 36	<b>IP Phone 応答メッセージ</b>	36-1	
	応答メッセージの検索	36-1	
	応答メッセージの設定	36-3	
	応答メッセージの削除	36-4	
	関連項目	36-4	
CHAPTER 37	<b>会議通知の設定</b>	37-1	
	会議通知の設定値の設定	37-1	
CHAPTER 38	<b>プラグインの設定</b>	38-1	
	プラグインのインストール	38-1	
	プラグインの URL の更新	38-3	
	プラグイン URL の更新の設定値	38-3	
PART 5	<b>ユーザ管理</b>		
CHAPTER 39	<b>アプリケーション ユーザの設定</b>	39-1	
	アプリケーション ユーザの検索	39-2	
	アプリケーション ユーザの設定	39-3	
	アプリケーション ユーザの設定値	39-4	
	アプリケーション ユーザ パスワードの変更	39-6	
	アプリケーション ユーザの信用証明書情報の管理	39-7	

アプリケーション ユーザの信用証明書の設定値およびフィールド	39-8
関連項目	39-9

CHAPTER 40

<b>権限の設定</b>	40-1
権限の検索	40-2
権限の設定	40-3
権限の削除	40-4
権限の設定値	40-5
関連項目	40-6

CHAPTER 41

<b>ユーザグループの設定</b>	41-1
ユーザグループの検索	41-2
ユーザグループの設定	41-4
ユーザグループの削除	41-5
ユーザグループへのアプリケーション ユーザの追加	41-6
ユーザグループからのユーザの削除	41-7
ユーザグループへの権限の割り当て	41-8
ユーザの権限、ユーザグループ、およびユーザのアクセス権の表示	41-10
関連項目	41-11

PART 6

**Bulk Administration (一括管理)**

CHAPTER 42

<b>ファイルのアップロードとダウンロード</b>	42-1
概要	42-1
ファイルの検索	42-2
ファイルのダウンロード	42-3
ファイルのアップロード	42-4
ファイルの削除	42-5
関連項目	42-5

CHAPTER 43

<b>ジョブのスケジューリング</b>	43-1
Bulk Provisioning Service のアクティブ化	43-2
BPS の開始 / 停止 / 再起動	43-3
BPS の無効化	43-4
ジョブの検索	43-5
ジョブのスケジューリング	43-7
関連項目	43-8

CHAPTER 44

<b>CUP ユーザの更新</b>	44-1
Cisco Unified Presence のユーザの更新	44-1

関連項目 44-2

---

CHAPTER 45

**Cisco Unified Presence ユーザのエクスポート** 45-1

ユーザ レコードのエクスポート 45-1

関連項目 45-2

---

INDEX

**索引**





# このマニュアルについて

---

ここでは、このマニュアルの目的、対象読者、構成、および表記法、そして関連資料の入手方法について説明します。

次のトピックについて取り上げます。

- [目的 \(P.xiii\)](#)
- [対象読者 \(P.xiii\)](#)
- [マニュアルの構成 \(P.xiv\)](#)
- [関連マニュアル \(P.xiv\)](#)
- [表記法 \(P.xv\)](#)
- [技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン \(P.xvi\)](#)

## 目的

『Cisco Unified Presence アドミニストレーション ガイド』は、Cisco Unified Presence の管理について説明します。このマニュアルでは、Cisco Unified Presence の管理ページを使用して実行する操作の手順についても説明します。

## 対象読者

『Cisco Unified Presence アドミニストレーション ガイド』は、Cisco Unified Presence システムの管理を担当するネットワーク管理者を対象としています。テレフォニーおよび IP ネットワーキングテクノロジーに関する知識が必要です。

## マニュアルの構成

次の表は、このマニュアルの構成を示しています。

パート	説明
Part 1	「Cisco Unified Presence」 Cisco Unified Presence の設定および運用に関連する一般的なトピックを取り上げます。
Part 2	「システムの設定」 [ Cisco Unified Presence の管理 ] の [ システム ] メニューの各項目を設定する方法について説明します。
Part 3	「Cisco Unified Presence の設定」 Cisco Unified Presence のコールルーティング機能を設定する方法について説明します。
Part 4	「アプリケーションの設定」 プラグイン アプリケーションおよびアプリケーション インターフェイスを設定する方法について説明します。
Part 5	「ユーザ管理」 アプリケーション ユーザ、権限、およびユーザ グループを設定する方法について説明します。
Part 6	「Bulk Administration (一括管理)」 Cisco Unified Presence の Bulk Administration (一括管理) について説明します。

## 関連マニュアル

Cisco IP テレフォニー関連のアプリケーションおよび製品の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- *Cisco Unified Presence インストレーション ガイド*
- *Cisco Unified Presence 相互運用性ガイド*
- *Cisco Unified Presence 導入ガイド*
- *Release Notes for Cisco Unified Presence Release 6.0(1)*
- *Cisco IP Phone Messenger for Cisco Unified Presence ユーザ ガイド*
- *Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーション ガイド for Cisco Unified Presence*
- *Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド for Cisco Unified Presence*
- *Cisco Unified Serviceability アドミニストレーション ガイド for Cisco Unified Presence*

Cisco Unified Personal Communicator に関連するマニュアルには、次のリンクからアクセスしてください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/tsd\\_products\\_support\\_series\\_home.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/tsd_products_support_series_home.html)

## 表記法

このマニュアルは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは、 <b>太字</b> で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、 <i>イタリック体</i> で示しています。
[ ]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x y z }	必ずどれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[ x y z ]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
ストリング	引用符を付けない一組の文字。ストリングの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングとみなされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、 <code>screen</code> フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の <code>screen</code> フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の <code>screen</code> フォントで示しています。
→	例の中で重要なテキストを強調しています。
^	^ 記号は、Ctrl キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。

(注) は、次のように表しています。



(注) 「*注釈*」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイント アドバイスは、次のように表しています。



ワンポイント・アドバイス

*時間を節約する方法*です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

*便利なヒント*です。

注意は、次のように表しています。

**注意**

「**要注意**」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。

**警告**

「**危険**」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策をとるよう努めてください。

## 技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン

技術情報の入手、サポートの利用、技術情報に関するフィードバックの提供、セキュリティ ガイドライン、推奨するエイリアスおよび一般的なシスコのマニュアルに関する情報は、月刊の『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。ここでは、新規および改訂版のシスコの技術マニュアルもすべて記載されています。次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

### シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

シスコの暗号化製品に適用される米国の法律の概要については、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/wwl/export/crypto/tool/stqrg.html>

何かご不明な点があれば、[export@cisco.com](mailto:export@cisco.com) まで電子メールを送信してください。





## **PART 1**

### **Cisco Unified Presence**





## はじめに

---

この章では、Cisco Unified Presence システムの概要について説明し、Cisco Unified Presence がサポートしている Cisco Unified IP Phone のリストを示します。

この章では、次のトピックについて説明します。

- [概要](#)
- [製品の説明](#)
- [機能および利点](#)
- [Cisco Unified Presence の管理ページの参照](#)
- [Cisco Unified Presence の管理アプリケーションのナビゲート](#)
- [このリリースの最新情報](#)
- [アクセシビリティ](#)
- [参考情報](#)
- [関連項目](#)

## 概要

Cisco Unified Presence は、Cisco Unified Communications 環境の価値を最大限に引き出すために不可欠なコンポーネントです。特定の時間に電話機などの通信装置を使用しているかどうかなど、ユーザのアベイラビリティ ステータスに関する情報を収集します。また、Web コラボレーションやテレビ会議が有効かどうかなど、ユーザの通信機能に関する情報も収集します。Cisco Unified Presence によって収集されるユーザ情報を使用して、コラボレーション通信の最も効果的な方法を判断することにより、ユーザどうしの効率的な接続を支援するなど、Cisco Unified Personal Communicator や Cisco Unified Communications Manager などのアプリケーションによる生産性を向上させることができます。

音声通信や IP 通信の製品で構成される Cisco Unified Communication システムは、組織のビジネス プロセスの統合、適切なリソースへのすばやいアクセス、収益性の向上などを図り、組織のより効率的な通信を支援します。Cisco Unified Communication 製品は、Cisco Business Communication ソリューションを代表する重要なコンポーネントです。Cisco Business Communication ソリューションは、ネットワーク インフラストラクチャ、セキュリティ、ネットワーク管理製品、ワイヤレス通信、ライフ サイクル サービス アプローチなどを含む、あらゆる規模の組織に対応するソリューションで、柔軟な展開オプションや外注管理オプション、エンドユーザおよびパートナーの財務パッケージ、サードパーティ通信アプリケーションなども備えています。

## 製品の説明

Cisco Unified Presence は、新たな音声サービスを企業環境でサポートするための、Session Initiation Protocol (SIP) テクノロジーを展開するために役立ちます。SIP により、さまざまな機能やサービスに適用できる、セッションの確立および管理に関する一連の主要な動作を提供することで、音声ネットワークが強化されます。Cisco Unified Presence では、SIP コアをサポートするだけでなく、SIP for Instant Messaging and Presence Leveraging Extensions (SIMPLE) テクノロジーを採用することで、インスタントメッセージ (IM) とプレゼンスの両方をサポートします。

Cisco Unified Presence には、SIP プレゼンス エンジンと SIP プロキシ機能があります。プレゼンス エンジンでは、ユーザのプレゼンス情報 (話し中、アイドル、不在、または応対可能のステータス) だけでなく、ユーザの機能 (音声、画像、IM、Web コラボレーションなどのサポート機能) に関する情報を収集し、ユーザ単位でリポジトリにデータを蓄積します。ユーザが採用するアプリケーションや機能からリポジトリへ個別にアクセスできます。各ユーザが独自のユーザ ルールおよびプライバシーを適用することで、許可されたアプリケーションおよびユーザだけがプレゼンス情報へアクセスできるようになっています。SIP プロキシ機能により、プレゼンス情報と一般的な SIP メッセージの両方を、企業全体で効率的かつ正確にルーティングできます。

さまざまなデスクトップ クライアントやアプリケーションと強力に統合された Cisco Unified Presence を使用すると、Cisco のエンタープライズ デスクトップ クライアントである Cisco Unified Personal Communicator で、クリック ツー ダイアルや電話機制御、音声、ビデオ、Web コラボレーションなど、さまざまな機能を実行できます。さらに、Cisco Unified Presence では、Cisco Unified Communications Manager に接続される Cisco Unified IP Phone のコアとなる IM サービスを提供します。また、Cisco Unified Presence では、IBM Sametime や Microsoft Office Communicator など、エンタープライズ デスクトップ アプリケーションとの相互運用性もサポートしています。この相互運用性により、Cisco Unified Communications Manager でサポートされる Cisco Unified IP Phone とともに、これらのデスクトップ アプリケーションを運用できます。

## 機能および利点

この項では、Cisco Unified Presence の主な機能と利点について説明します。

### 標準ベースの SIP/SIMPLE ネットワーク インターフェイス

Cisco Unified Presence は、SIP または SIMPLE に対応するアプリケーションおよびネットワークに標準ベースのピアリング環境を提供します。ステータスおよびプレゼンスの共有に IETF 標準を採用することで、事実上、ユーザは Cisco Unified Presence に保存されている任意のユーザ ステータスを要求できます。これらの SIP および SIMPLE 標準では、受信したメッセージを定義することで、ステータスの要求を開始および維持し、適切な応答を提供します。Cisco Unified Presence は、展開したサービスのニーズに応じて、ステータス情報を収集および配布できます。

このようなインターフェイスを実装することにより、さまざまな シスコ パートナーとの相互運用の方法を標準化し、Cisco Unified Communication 顧客向けの付加価値サービスを構築できます。

### Cisco Unified Personal Communicator のネットワーク インターフェイス

Cisco Unified Presence では、Cisco Unified Personal Communicator のコアとなる、ユーザのステータス、機能、個人のルールや設定などを含む、個人データの保存機能をサポートする必要があります。また、Cisco Unified Presence では、Cisco Unified Personal Communicator の電話機制御やクリック ツーダイアル サービスの監視を有効にすることもできます。高度に安全な環境により、ユーザのパスワードからネットワーク接続情報や個人の連絡先リストまで、さまざまな個人情報の完全性を保証できます。

### IP Phone Messenger のネットワーク インターフェイス

Cisco Unified Presence に含まれる Cisco IP Phone Messenger サービスは、プレゼンス対応の連絡先リストを完備した IM クライアントを Cisco Unified IP Phone に提供します。また、このサービスのリアルタイム コラボレーション機能により、電話機ユーザが PC から離れていても、他のユーザのプレゼンス ステータスを瞬時にチェックできます。また、簡単なテキスト メッセージを送受信することも可能です。これらのメッセージの多くは、フレーズや完全文のリストから使用できるため、電話機のキーを押して入力する必要がありません。メッセージの受信者は、そのメッセージに直接応答するか、または [ダイヤル] ソフトキーを押してコールバックできるため、電話番号を検索したりダイヤルしたりする必要がありません。

## Cisco Unified Presence の管理ページの参照

Cisco Unified Presence の管理プログラムには、Web サーバでない PC および Cisco Unified Presence がインストールされていない PC からアクセスします。サーバにブラウザソフトウェアはありません。サーバの参照に関する詳細は、P.1-4 の「Web ブラウザ」を参照してください。

### 追加情報

P.1-11 の「関連項目」を参照してください。

## Web ブラウザ

Cisco Unified Presence の管理ページでは、次の Microsoft Windows オペレーティング システムのブラウザがサポートされています。

- Microsoft Internet Explorer ( IE ) 6.1
- Netscape 7.2 以降

ネットワーク内のユーザの PC から、Cisco Unified Presence の管理ページを実行しているサーバを参照し、管理者権限でログインします。



(注)

多数のユーザが Cisco Unified Presence の管理ページに同時にログインすると、パフォーマンスが低下する場合があります。同時にログインするユーザおよび管理者の数を制限してください。

## Cisco Unified Presence の管理ページへのログイン

次の手順で Cisco Unified Presence の管理ページにログインします。

### 手順

次の手順でサーバを参照し、Cisco Unified Presence の管理ページにログインします。

**ステップ 1** 任意のブラウザを起動します。

**ステップ 2** ブラウザのアドレスバーに次の URL を入力します (大文字と小文字は区別されます)。

https://<サーバ名>

<サーバ名> は、サーバの名前または IP アドレスです。

**ステップ 3** Cisco Unified Presence の管理ページにログインするには、[ Cisco Unified Presence Administration ] リンクをクリックします。

**ステップ 4** [ セキュリティの警告 ] ダイアログボックスが表示されます。適切なボタンをクリックします。

**ステップ 5** [ ログイン ] ウィンドウに、Cisco Unified Presence のインストール時に指定したアプリケーションユーザのパスワードを入力して、[ ログイン ] をクリックします。

[ Cisco Unified Presence の管理 ] ウィンドウが表示されます。



(注) セキュリティ上の目的で、30 分後に Cisco Unified Presence の管理ページから自動的にログアウトされるため、引き続き使用する場合は再度ログインする必要があります。

#### 追加情報

P.1-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco Unified Presence の管理ページからのログアウト

### 手順

次の手順で Cisco Unified Presence の管理ページからログオフします。

**ステップ 1** [ Cisco Unified Presence の管理 ] のメインウィンドウで、右上にある [ ログオフ ] ボタンをクリックします ( [図 1-1](#) を参照してください )。

**ステップ 2** [ ログイン ] ウィンドウが表示されます。

### 追加情報

P.1-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Hypertext Transfer Protocol Over Secure Sockets Layer (HTTPS)

ブラウザクライアントと Web ブラウザ ( Microsoft Windows ユーザの場合 ) の通信をセキュリティで保護する HTTP over Secure Sockets Layer ( SSL ) では、証明書と公開鍵を使用して、インターネット上を流れるデータを暗号化します。また、HTTPS では、Web 上でユーザのログイン パスワードがセキュリティで保護された状態で送信されます。一部の Cisco Unified Communications Manager アプリケーションでは HTTPS がサポートされているため、サーバの識別が保証されます。これらのアプリケーションには、Cisco Unified Communications Manager の管理、Cisco Unified Communications Manager Serviceability、Cisco Unified Communications Manager ユーザ オプション、トレース収集ツール、Real-Time Monitoring Tool ( RTMT )、XML ( AXL ) アプリケーション プログラミング インターフェイスがあります。

自己署名証明書は、インストール時に Web サーバ上で生成されます ( アップグレード時にはこの証明書が移行されます )。



(注) ホスト名を使って Web アプリケーションにアクセスし、信頼できるフォルダに証明書をインストールした後、ローカルホストまたは IP アドレスを使ってそのアプリケーションにアクセスしようとする、セキュリティ証明書の名前とサイトの名前が一致しないことを示す [ セキュリティの警告 ] ダイアログボックスが表示されます。

ローカルホスト、IP アドレス、またはホスト名を URL で使って HTTPS 対応アプリケーションにアクセスする場合、URL の種類 ( ローカルホスト、IP アドレスなど ) ごとに信頼できるフォルダに証明書を保存する必要があります。このようにしないと、それぞれの種類で [ セキュリティの警告 ] ダイアログボックスが表示されます。

## Cisco Unified Presence の管理ページにおける Internet Explorer および HTTPS の使用

ここでは、信頼できるフォルダに CA のルート証明書を保存する方法について説明します。この操作により、Web アプリケーションへアクセスするたびに [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されなくなります。管理者またはユーザが、ブラウザ クライアントから Cisco Unified Presence の管理ページに初めてアクセスする場合、サーバを信頼するかどうかを確認するための [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスが表示された場合、次のいずれかのタスクを実行する必要があります。

- [はい] をクリックすると、現在の Web セッションの間に限り証明書を信頼することになります。現在のセッションに限り証明書を信頼する場合、アプリケーションにアクセスするたびに [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。つまり、信頼できるフォルダに証明書をインストールするまでこのダイアログボックスが表示されるということです。
- [証明書の表示] > [証明書のインストール] をクリックして、証明書のインストールのタスクを実行し、証明書を常に信頼することを示します。証明書を信頼できるフォルダにインストールすると、Web アプリケーションへアクセスするたびに [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されることがなくなります。
- [いいえ] をクリックすると、作業がキャンセルされます。認証が行われないため、Web アプリケーションにアクセスできません。Web アプリケーションにアクセスするには、[はい] をクリックするか、または [証明書の表示] > [証明書のインストール] をクリックして証明書をインストールする必要があります。

[セキュリティの警告] ダイアログボックスで実行できるその他の作業については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** Web サーバのアプリケーションを参照します。

**ステップ 2** [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されたら、[証明書の表示] をクリックします。

**ステップ 3** [証明書] ペインで [証明書のインストール] をクリックします。

**ステップ 4** [次へ] をクリックします。

**ステップ 5** [証明書をすべて次のストアに配置する] オプション ボタンをクリックし、[参照] をクリックします。

**ステップ 6** [信頼されたルート証明機関] を参照します。

**ステップ 7** [次へ] をクリックします。

**ステップ 8** [完了] をクリックします。

**ステップ 9** 証明書をインストールするには、[はい] をクリックします。

インポートの完了を示すメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

**ステップ 10** ダイアログボックスの右下にある [OK] をクリックします。

**ステップ 11** 証明書を信頼し、再度ダイアログボックスを表示させないようにするには、[はい] をクリックします。





(注) ローカルホスト、IP アドレス、またはホスト名を URL で使って HTTPS 対応アプリケーションにアクセスする場合、URL の種類（ローカルホスト、IP アドレスなど）ごとに信頼できるフォルダに証明書を保存する必要があります。このようにしないと、それぞれの種類で [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。

### 追加情報

P.1-11 の「関連項目」を参照してください。

## Cisco Unified Presence の管理ページにおける Netscape および HTTPS の使用

Netscape で HTTPS を使用する場合、証明書の資格情報を表示する、証明書を 1 回のセッションに限り信頼する、有効期間中証明書を信頼する、証明書を信頼しないなどの選択が可能です。



### ヒント

単独セッションに限り証明書を信頼する場合、HTTPS 対応アプリケーションにアクセスするたびに、次の手順を繰り返す必要があります。証明書を信頼しない場合、アプリケーションにアクセスできません。

証明書を信頼できるフォルダへ保存するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco Unified Presence の管理ページなど、アプリケーションを Netscape を使って参照します。

認証局のダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかのオプション ボタンをクリックします。

- この証明書をこのセッションのために一時的に受け入れる
- この証明書を受け入れない / この Web サイトに接続しない
- この証明書を永続的に受け入れる



(注) 証明書を受け入れないオプションを選択した場合、アプリケーションが表示されません。



(注) 証明書の資格情報を表示してから続行する場合、[証明書を調査] をクリックします。資格情報を確認し、[閉じる] をクリックします。

**ステップ 3** [OK] をクリックします。

[セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

---

#### 追加情報

P.1-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco Unified Presence の管理アプリケーションのナビゲート

ログイン後、[ Cisco Unified Presence の管理 ] のメインウィンドウが表示されます。このウィンドウの右上隅に、[ ナビゲーション ] というドロップダウン リストが表示されます（図 1-1 を参照してください）。ドロップダウン リストボックスにあるアプリケーションへアクセスするには、目的のプログラムを選択して [ 移動 ] をクリックします。ドロップダウン リストボックスの選択肢には、次の Cisco Unified Presence アプリケーションが含まれています。

- Cisco Unified Presence の管理 : Cisco Unified Presence にアクセスすると、デフォルトが表示されます。Cisco Unified Presence の管理ページを使用して、システムのパラメータ、アプリケーションなどを設定します。
- Cisco Unified サービスアビリティ : トレース ファイルおよびアラームの設定やサービスの有効化 / 無効化などに使用する Cisco Unified Presence Serviceability メインウィンドウに移動します。
- 障害復旧システム : Cisco 障害復旧システムへ移動します。このプログラムは、データのフルバックアップおよび復元機能を、Cisco Unified Presence クラスタ内のすべてのサーバに提供します。
- Cisco Unified OS の管理 : [ ログイン ] ウィンドウへ移動します。このアプリケーションを使用して、Cisco Unified Presence プラットフォームを設定し、管理できます。

これらのアプリケーションは、追加のセキュリティで保護されているため、これらのプログラムへアクセスするには、ユーザ ID とパスワードを入力する必要があります。

図 1-1 Cisco Unified Presence の管理ページへのナビゲーション



## Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ リンク

Cisco Unified Presence の管理ページのメイン ウィンドウには、関連付けられている Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ サーバに直接移動するためのリンクがあります。Cisco Unified Communications Manager の管理にアクセスするには、[ Cisco Unified Communications Manager Publisher Address ] リンクをクリックします。

## このリリースの最新情報

Cisco Unified Presence の管理ページにログインすると、現在のリリースの新機能に関する情報が含まれるポップアップ ウィンドウが表示されます。この情報には、ウィンドウの右上隅にある [最新情報] リンクをクリックするか、[ヘルプ] > [最新情報] の順に選択すればアクセスできます。



(注) ポップアップ ウィンドウを無効化するには、[起動時にこのウィンドウを表示しない] チェックボックスをオンにします。

## 移行の手順

SIP パブリッシュ機能のサポートを通じて、Cisco Unified Communications Manager 6.0(1) はプレゼンス情報を Cisco Unified Presence 6.0(1) にプッシュできます。

Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ サーバを Release 6.0(1) 以降にアップグレードする場合、[最新情報] ウィンドウに表示される次の移行の手順を実行する必要があります。ただし、Cisco Unified Communications Manager を初めてインストールする場合は、移行の手順を実行する必要はありません。



(注) Cisco Unified Communications Manager を Release 6.0(1) にアップグレードする前に、Cisco Unified Presence を Release 6.0(1) にアップグレードする必要があります。Cisco Unified Communications Manager 6.0(1) を Cisco Unified Presence の以前のリリースと同期化することはできないためです。



### ヒント

Cisco Unified Presence 6.0(1) への移行の詳細および他の必要な設定手順については、『Cisco Unified Presence 導入ガイド』を参照してください。

1. 同期エージェント サービスを再起動します。同期エージェント サービスを再起動するには、Cisco Unified サービスアビリティ に移動し、[Tools] > [Control Center - Network Services] の順に選択します。
2. プレゼンスをサポートするために、ライン アピアランスをユーザにマッピングします。プライマリ内線とのライン アピアランス マッピングを行っても、Cisco Unified Presence 6.0(1) の基本的なプレゼンスは提供されません。
3. [Cisco Unified Presence 設定 (Cisco Unified Presence Settings)] ウィンドウで SIP トランクを有効にします。詳細については、第 8 章「Cisco Unified Presence の設定値」を参照してください。



(注) トランクをアクティブにするには、トランクの作成時に通常行うように、SIP トランクをリセットする必要があります。

4. Cisco Unified Presence の管理ページで、[システム] > [トラブルシュータ] の順に選択して設定を確認します。詳細については、第 7 章「設定トラブルシュータ」を参照してください。

### 追加情報

P.1-11 の「関連項目」を参照してください。

## アクセシビリティ

Cisco Unified Presence の管理ページおよび Cisco Unified Presence ユーザ オプション ページでは、ユーザがマウスを使わずにウィンドウでボタンにアクセスするための機能が提供されています。ウィンドウの任意の場所から次の手順を実行できるため、ユーザはさまざまなフィールドでのスクロールやタブなどの操作が不要になります。

### ウィンドウ内でのアイコンへのアクセス

Cisco Unified Presence の多くのウィンドウでは、保存するためのディスクのアイコンや追加を示すプラス(+)記号のアイコンなどが上部に表示されます。これらのアイコンへアクセスするには、次の手順を実行します。

1. **Alt** キー、**1** キー、**Tab** キーの順に押します。カーソルにより一番左側のアイコンが強調表示されます。次のアイコンへ移動するには、再度 **Tab** キーを押します。
2. **Enter** キーを押します。アイコンの機能（追加など）が実行されます。

### ウィンドウ内でのボタンへのアクセス

Cisco Unified Presence および Cisco PCA のウィンドウの多くでは、[保存] ボタンや[追加] ボタンなどが下部に表示されています。これらのボタンへアクセスするには、次の手順を実行します。

1. **Alt** キー、**2** キー、**Tab** キーの順に押します。カーソルにより一番左側のボタンが強調表示されます。次のボタンへ移動するには、再度 **Tab** キーを押します。
2. **Enter** キーを押します。ボタンの機能（保存など）が実行されます。

## 参考情報

- *Cisco Unified Serviceability アドミニストレーション ガイド for Cisco Unified Presence*
- *Cisco Unified Presence インストレーション ガイド Release 6.0(1)*
- *Cisco Unified Communications Operating System for Cisco Unified Presence アドミニストレーション ガイド*
- *Disaster Recovery System ガイド for Cisco Unified Presence*
- *Cisco Unified Presence 導入ガイド*

## 関連項目

- [概要](#)
- [製品の説明](#)
- [機能および利点](#)
- [Cisco Unified Presence の管理ページの参照](#)
- [Cisco Unified Presence の管理アプリケーションのナビゲート](#)
- [このリリースの最新情報](#)
- [アクセシビリティ](#)
- [参考情報](#)





## **PART 2**

### **システムの設定**







## サーバの設定

---

サーバの設定のウィンドウを使用して、Cisco Unified Presence がインストールされているサーバのアドレスを指定します。ネットワークでドメイン ネーム システム (DNS) サービスを使用している場合、サーバのホスト名を指定できます。ネットワークで DNS サービスを使用していない場合、サーバのインターネット プロトコル (IP) アドレスを指定する必要があります。

**(注)**

Cisco Unified Presence を設定するための情報を使用するには、適切な Cisco Unified Presence 名とアドレス情報を使って DNS サーバを更新する必要があります。

---

Cisco Unified Presence データベースでサーバのアドレスを追加、更新、または削除する方法については、[P.2-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

**(注)**

Cisco Unified Presence を新規にインストールする場合、Cisco Unified Presence の管理 ページの[サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウでセカンダリ サーバ (ノード) を定義してから、そのサーバに Cisco Unified Presence ソフトウェアをインストールする必要があります。後続のノードを定義するには、[P.2-4 の「サーバの設定」](#)で説明するとおり、[新規追加] をクリックしてサーバを設定します。セカンダリサーバを追加したら、Cisco Unified Presence ソフトウェアをそのサーバにインストールできます。

---

## サーバの検索

ネットワークにサーバが複数存在する場合があります。Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のサーバを検索することができます。特定のサーバを検索するには、次の手順を実行します。



**(注)** ブラウザセッションでの作業中、クライアントマシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

### 手順

**ステップ 1** [システム] > [サーバ] の順に選択します。

[サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#)に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リストボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リストボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



**(注)** 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



**(注)** 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから [選択項目の削除] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択] をクリックしてから [選択項目の削除] をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



**(注)** ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

---

#### 追加情報

P.2-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## サーバの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースで、サーバのアドレスを追加または更新する方法について説明します。

### 開始する前に

サーバを追加する場合、次のガイドラインを適用します。

- [サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウで各サーバが2度以上追加されていないことを確認します。ホスト名を使用してサーバを追加し、その後、IP アドレスを使用して同じサーバを追加すると、Cisco Unified Presence のアップグレード後に Cisco Unified Presence でそのサーバのコンポーネントのバージョンを正確に把握できない場合があります。同じサーバに対して、Cisco Unified Presence の管理ページに2つのエントリがある場合、アップグレード前にどちらかのエントリを削除する必要があります (P.2-5 の「[サーバの削除](#)」を参照してください)。

### 手順

---

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- サーバを追加するには、[システム]>[サーバ]の順に選択し、[新規追加]をクリックします。
- サーバを更新する場合、P.2-2 の「[サーバの検索](#)」の手順に従ってサーバを検索します。

[サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [表 2-1](#) の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** データを保存してサーバをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。



#### 注意

サーバの設定の変更を有効にするには、Cisco Unified Presence のプロキシ サーバを再起動する必要があります。再起動の間は、Cisco Enterprise SIP プロキシ サービスにより既存のトランザクションが停止されるため、新たな要求を受け付けることができなくなります。

**ステップ 4** [Cisco Unified Presence] > [プロキシ サーバ] > [設定] を選択します。

[プロキシの構成設定 (Proxy Configuration Settings)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 5** [すべてのプロキシサービスのリスタート] をクリックします。

**ステップ 6** 確認のウィンドウが表示されたら、[OK] をクリックしてプロキシ サービスを再起動します。

---

### 追加情報

P.2-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## サーバの削除

この項では、Cisco Unified Presence データベースからサーバを削除する方法について説明します。

### 開始する前に

システムで依存関係レコードの機能が有効でない場合、[ 依存関係レコード要約 ] ウィンドウにメッセージが表示されます。このメッセージには、依存関係レコードを有効にするのに必要な操作と、依存関係レコードの機能に伴う CPU 消費量の増大に関する情報が表示されます。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.2-2 の「[サーバの検索](#)」の手順に従いサーバを検索します。
  - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するサーバを選択します。
  - ステップ 3** サーバを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 選択項目の削除 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 選択項目の削除 ] ボタンをクリックします)。



### 警告

サーバの設定の変更を有効にするには、Cisco Unified Presence のプロキシ サーバを再起動する必要があります。再起動の間は、Cisco Enterprise SIP プロキシ サービスにより既存のトランザクションが停止されるため、新たな要求を受け付けることができなくなります。

- 
- ステップ 4** [ Cisco Unified Presence ] > [ プロキシ サーバ ] > [ 設定 ] を選択します。  
[ プロキシの構成設定 (Proxy Configuration Settings) ] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 5** [ すべてのプロキシサービスのリスタート ] をクリックします。
  - ステップ 6** 確認のウィンドウが表示されたら、[ OK ] をクリックしてプロキシ サービスを再起動します。



### 追加情報

P.2-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## サーバの設定値

表 2-1 で、サーバの設定値について説明します。関連する手順については、P.2-6 の「関連項目」を参照してください。

表 2-1 サーバの設定値

[サーバ情報 (Server Information)] のフィールド	説明
ホスト名 /IP アドレス	<p>ネットワークで DNS サービスを使用している場合、Cisco Unified Presence サーバのホスト名を入力できます。それ以外の場合、サーバの完全な IP アドレスを入力する必要があります。</p> <p></p> <p><b>(注)</b> ここで入力情報を使用するには、適切な Cisco Unified Presence 名とアドレス情報を使って DNS サーバを更新する必要があります。</p>
MAC アドレス (MAC Address)	<p>このオプションのエントリには、Cisco Unified Presence サーバのネットワーク インターフェイス カード (NIC) のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスを入力します。この MAC アドレスにより、NIC の固定ハードウェア アドレスが決まります。</p> <p></p> <p><b>ヒント</b> サーバを定期的にネットワーク上の別の場所へ移動する予定がある場合、ネットワーク上の他のサービスが常にそのサーバを識別できるように、MAC アドレスを入力する必要があります。サーバを移動する計画がない場合は、MAC アドレスを入力する必要はありません。</p>
説明	このオプションのエントリには、サーバの説明を入力します。

## 関連項目

- [サーバの検索 \(P.2-2\)](#)
- [サーバの設定 \(P.2-4\)](#)
- [サーバの削除 \(P.2-5\)](#)
- [サーバの設定値 \(P.2-6\)](#)



## サービスパラメータの設定

Cisco Unified Presence のサービスパラメータを使用すると、選択したサーバでさまざまなサービスを設定できます。[ サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration) ] ウィンドウで疑問符 (?) ボタンをクリックすると、パラメータのリストと説明を表示できます。特定のパラメータをクリックすると、そのパラメータを含むリストが先頭に表示されます。

Cisco Unified サービスアビリティを使用してサービスを無効にすると、Cisco Unified Presence で更新後のサービスパラメータ値が維持されます。サービスを再開すると、Cisco Unified Presence によりサービスパラメータが変更後の値に設定されます。

### 開始する前に

手順を進める前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- サーバが設定されている。詳細については、[P.2-1 の「サーバの設定」](#)を参照してください。
- サーバでサービスが使用可能である。[ サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration) ] ウィンドウに、使用可能なサービス (アクティブおよび非アクティブ) がすべて表示されます。



### 注意

サービスパラメータの一部を変更すると、システム障害を引き起こす場合があります。変更しようとしている機能を完全に理解している場合、または Cisco Technical Assistance Center (TAC) から変更の指定があった場合を除き、サービスパラメータを変更しないことをお勧めします。

サービスパラメータを設定または表示するには、次のトピックを参照してください。

- [サーバのサービスに対するサービスパラメータの設定 \(P.3-2\)](#)
- [サービスパラメータの表示 \(P.3-4\)](#)

## サーバのサービスに対するサービスパラメータの設定

特定のサーバのサービスに対するサービスパラメータを設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** [システム] > [サービスパラメータ] の順にクリックします。

**ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスからサーバを選択します。

**ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、更新するパラメータを含むサービスを選択します。



**(注)** [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウに、サービス (アクティブおよび非アクティブ) がすべて表示されます。

[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** 適切なパラメータ値を更新します。このサービスのインスタンスのサービスパラメータをすべてデフォルトの値に設定するには、[デフォルトに設定] ボタンをクリックします。



**(注)** Cisco IP Phone Messenger が正しく動作するためには、Cisco UP SIP プロキシサービスの HTTP Port パラメータ値は、関連付けられている Cisco Unified Communications Manager の Phone Service パラメータに一致する必要があります。

パラメータのリストと説明を表示するには、疑問符のボタンをクリックします (図 3-1 を参照)。特定のパラメータを持つリストを上部に表示するには、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウでそのパラメータをクリックします。



図 3-1 [ サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration) ] ウィンドウ



(注) 一部のサービスには、ほとんど変更されることのないサービスパラメータが含まれています。Cisco Unified Presence の管理ページでは、[ サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration) ] ウィンドウにアクセスしたとき、これらのパラメータは自動的に表示されません。すべてのパラメータを表示するには、[ 詳細設定 ] をクリックします。すべてのパラメータが表示されてから [ 簡易設定 ] をクリックすると、基本パラメータを再表示できます。[ 詳細設定 ] ボタンが無効な場合、デフォルトでそのサービスのパラメータがすべて表示されます。

**ステップ 5** [ 保存 ] をクリックします。

ウィンドウが更新され、ユーザが行った変更により、Cisco Unified Presence でサービスパラメータが更新されます。

#### 追加情報

P.3-5 の「関連項目」を参照してください。

## サービスパラメータの表示

クラスタ内のすべてのサーバで特定のサービスに属するサービスパラメータをすべて比較することが必要な場合があります。また、非同期のパラメータ（サーバ間で値が異なるサービスパラメータ）または提示された値から変更されているパラメータだけを表示することが必要な場合もあります。

クラスタ内のすべてのサーバで、特定のサービスに対するサービスパラメータを表示するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** [システム] > [サービスパラメータ] の順にクリックします。

**ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスからサーバを選択します。

**ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、クラスタ内のすべてのサーバでサービスパラメータを表示するサービスを選択します。



**(注)** [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウに、サービス（アクティブおよび非アクティブ）がすべて表示されます。

**ステップ 4** [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが表示されたら、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスの [すべてのサーバに対するパラメータ] を選択して、[移動] をクリックします。

[すべてのサーバに対するパラメータ] ウィンドウが表示されます。現在のサービスについて、リストにすべてのパラメータがアルファベット順に表示されます。各パラメータで、推奨される値がパラメータ名の隣に表示されます。各パラメータ名の下に、そのパラメータを含むサーバのリストが表示されます。各サーバ名の隣に、このサーバのパラメータの現在値が表示されます。

所定のパラメータで、サーバ名または現在のパラメータ値をクリックし、対応するサービスパラメータのウィンドウへリンクし、値を変更します。[前へ] および [次へ] をクリックすると、[すべてのサーバに対するパラメータ] ウィンドウ間を移動できます。

**ステップ 5** 非同期のサービスパラメータを表示する必要がある場合、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスの [すべてのサーバに対する同期外れパラメータ] を選択してから [移動] をクリックします。

[すべてのサーバに対する同期外れパラメータ] ウィンドウが表示されます。現在のサービスについて、サーバによって異なる値を持つサービスパラメータがアルファベット順で表示されます。各パラメータで、推奨される値がパラメータ名の隣に表示されます。各パラメータ名の下に、そのパラメータを含むサーバのリストが表示されます。各サーバ名の隣に、このサーバのパラメータの現在値が表示されます。

所定のパラメータで、サーバ名または現在のパラメータ値をクリックし、対応するサービスパラメータのウィンドウへリンクし、値を変更します。[前へ] および [次へ] をクリックすると、[すべてのサーバに対する同期外れパラメータ] ウィンドウ間を移動できます。

**ステップ 6** 提示された値から変更されているサービスパラメータを表示する必要がある場合、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスの [すべてのサーバに対する変更済パラメータ] を選択してから [移動] をクリックします。

[すべてのサーバに対する変更済パラメータ] ウィンドウが表示されます。現在のサービスについて、提示された値と異なる値を持つサービスパラメータがアルファベット順で表示されます。各パラメータで、推奨される値がパラメータ名の隣に表示されます。各パラメータ名の下に、提示された値と異なる値を持つサーバのリストが表示されます。各サーバ名の隣に、このサーバのパラメータの現在値が表示されます。

所定のパラメータで、サーバ名または現在のパラメータ値をクリックし、対応するサービスパラメータのウィンドウへリンクし、値を変更します。[前へ] および [次へ] をクリックすると、[すべてのサーバに対する変更済パラメータ] ウィンドウ間を移動できます。

#### 追加情報

[P.3-5 の「関連項目」](#) を参照してください。

## 関連項目

- [サービスパラメータの表示 \(P.3-4\)](#)
- [サーバのサービスに対するサービスパラメータの設定 \(P.3-2\)](#)





## ライセンス ファイルのアップロード

---

Cisco Unified Presence では、次の 2 種類のライセンス ファイルを取得し、アップロードする必要があります。

- サーバライセンス：サーバライセンスは、Cisco Unified Presence のノード用で、プレゼンス エンジンおよびプロキシ サービスのサービスをアクティブ化します。
- エンドユーザ ライセンス：エンドユーザ ライセンスは、Cisco Unified Presence ユーザおよび Cisco Unified Personal Communicator ユーザが使用します。詳細については、[P.4-3 の「エンドユーザのライセンス」](#)を参照してください。

ライセンス ファイルには、Cisco Unified Presence アプリケーションのライセンスを有効にするために必要な情報が含まれています。この章では、次のトピックについて説明します。

- [ライセンス ファイルの取得 \(P.4-2\)](#)
- [エンドユーザのライセンス \(P.4-3\)](#)
- [ライセンス ファイルの内容 \(P.4-4\)](#)
- [ライセンス ファイルのアップロード \(P.4-6\)](#)
- [関連項目 \(P.4-7\)](#)



(注)

このウィンドウを使用して Cisco プレゼンス エンジン と SIP プロキシ サーバのライセンスをアップロードします。また、[ Cisco Unified Communications Manager の管理 ] ウィンドウを使用して、適切なエンドユーザ ライセンスもアップロードする必要があります。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。

---

## ライセンスファイルの取得

Cisco Unified Presence の新規インストール用のライセンスファイルを取得するには、次の手順に従います。



**(注)** Cisco Unified Presence サーバにアップロードするライセンスは、プレゼンスエンジンおよびプロキシサービスのサービスを有効にするライセンスです。また、関連付けられている Cisco Unified Communications Manager サーバにエンドユーザライセンスをアップロードして、Cisco Unified Presence ユーザと Cisco Unified Personal Communicator ユーザが使用できるようにする必要もあります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

- 
- ステップ 1** シスコ デバイスの注文時に、シスコから Product Authorization Key (PAK) が供給されます。
- ステップ 2** CCO で提供される License Registration Web ツールを使用して、Cisco Unified Presence で受け取った PAK を登録します。
- ステップ 3** ライセンスを要求する Cisco Unified Presence の MAC アドレスと、有効な電子メール アドレスを入力する必要があります。ライセンスが必要なノードおよび電話機の台数も入力する必要があります。
- ステップ 4** CCO により、ライセンスを要求したユニット数に応じたライセンスファイルが生成されます。このライセンスファイルが、[ステップ 3](#) で入力した電子メール アドレスを使用して送信されます。
- ステップ 5** [ステップ 3](#) で入力した MAC アドレスと一致するサーバへライセンスファイルをアップロードする必要があります。[P.4-6](#) の「[ライセンスファイルのアップロード](#)」を参照してください。以降このサーバはライセンス マネージャの役割を果たします。



**(注)** 電話機を新しく購入した場合のライセンスの更新については、CCO で提供される License Registration Web ツールへ移動し、[3 ~ 5](#) の手順に従います。



**(注)** ライセンスファイルは、ライセンスファイルで指定されたバージョンが、クラスタ内で実行されている Cisco Unified Presence のバージョン以上である場合に限り、データベースへアップロードされます。バージョンチェックに失敗した場合はアラームが生成されます。正しいバージョンのライセンスファイルを新たに取得する必要があります。システムでは、主要なリリースだけに基づいてバージョンチェックを行います。



**(注)** ライセンスファイルで指定されたライセンスを使用できるのは、ライセンスファイルがアップロードされたクラスタ内に限ります。

### 追加情報

P.4-7の「関連項目」を参照してください。

## エンドユーザのライセンス

Cisco Unified Presence サーバのライセンスの取得およびアップロードに加えて、すべての Cisco Unified Presence ユーザおよび Cisco Unified Personal Communicator ユーザのライセンスも取得する必要があります。

### 必要なエンドユーザライセンス数の計算

ライセンスの目的上、Cisco Unified Presence ユーザはそれぞれ1つの電話デバイスユニットを使用し、Cisco Unified Personal Communicator ユーザ (Cisco Unified Presence ライセンスも必要) は、1人あたり2つの電話デバイスユニットを使用します。

ユーザは Cisco Unified Communications Manager の管理([システム]>[ライセンス]>[ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)]) のライセンスユニット計算の機能を使用して、必要なライセンス数を計算できます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ライセンスユニットの計算」の章を参照してください。

Cisco Unified Presence ユーザおよび Cisco Unified Personal Communicator ユーザに必要なライセンスユニットの合計数を計算したら、次に Cisco Unified Communications Manager のデバイスライセンスユニットの合計数にこれらのライセンス数を追加する必要があります。

### エンドユーザライセンスのアップロード

Cisco Unified Presence ユーザおよび Cisco Unified Personal Communicator ユーザに必要なライセンスを取得したら、次に、関連付けられている Cisco Unified Communications Manager サーバにこれらのライセンスをアップロードする必要があります。Cisco Unified Communications Manager の管理で、[システム]>[ライセンス]>[ライセンスファイルのアップロード]の順に選択します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ライセンスファイルのアップロード」の章を参照してください。

### ユーザへのライセンスの割り当て

Cisco Unified Communications Manager の管理では、Cisco Unified Presence ユーザおよび Cisco Unified Personal Communicator ユーザに対し、[機能割り当て] ウィンドウを使用して一人ずつまたは複数のユーザごとにライセンスを割り当てることができます。Cisco Unified Communications Manager の管理で、[システム]>[ライセンス]>[機能割り当て]の順に選択します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「機能割り当ての設定」の章を参照してください。

一括管理ツールを使用してライセンスを割り当てることもできます。Cisco Unified Communications Manager の管理で、[一括管理]>[CUP]>[CUP/CUPC ユーザの更新]の順に選択します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。

## ライセンスファイルの内容

ライセンスファイルには、次の情報が含まれています。

- ライセンスが供与される Cisco Unified Presence のノード数。お客様にライセンスを付与するクラスタ内の Cisco Unified Presence サーバの数を示します。



(注) Cisco Unified Presence Release 6.0(1) でサポートする最大ノード数は2です。

- サポートされる Cisco Unified Presence のバージョン。
- ライセンスが付与される電話機の台数。電話機の種類ごとに個別のライセンスを生成するのではなく、ユニットライセンスの概念が使用されます。個々の電話機の種類は、一定のライセンスユニット数に対応します。
- ライセンスファイルのインストール先となるサーバの MAC アドレス。

ライセンスサーバへライセンスファイルをアップロードする方法については、[P.4-6の「ライセンスファイルのアップロード」](#)を参照してください。

### ライセンスファイルのサンプル

次の例は、恒久 IP Phone ライセンスと、恒久 Cisco Unified Presence ノードライセンスのライセンスファイルを示したものです。

#### 例 4-1 恒久 IP Phone のライセンス

```
INCREMENT PHONE_UNIT cisco 5.0 permanent uncounted \

VENDOR_STRING=<Count>1000</Count><OrigMacId>000BCD4EE59D</OrigMacId><LicFileVersion>1.0</LicFileVersion> \
HOSTID=000bcd4ee59d OVERDRAFT=50 \
NOTICE="<LicFileID>20050826140539162</LicFileID><LicLineID>2</LicLineID> \
<PAK></PAK>" SIGN="112D 17E4 A755 5EDC F616 0F2B B820 AA9C \
0313 A36F B317 F359 1E08 5E15 E524 1915 66EA BC9F A82B CBC8 \
4CAF 2930 017F D594 3E44 EBA3 04CD 01BF 38BA BF1B"
```

このライセンスファイルには、次の情報が含まれています。

- キーワード permanent が示すとおり、このライセンスには有効期限がありません。
- このライセンスファイルは、1000 PHONE\_UNIT のライセンスを付与します。
- OVERDRAFT=50 は、1000 の 5% のライセンス超過が許可されていることを示します。ライセンス超過の値は、シスコが決定します。
- シスコ固有のフィールド LicFileID により、このライセンスファイルが識別されます。
- 1 つのライセンスファイルの同じ機能（電話機のユニットライセンスまたはノードライセンス）に対して複数の INCREMENT 行を追加することにより、ライセンス数を増やすことができます。INCREMENT 行は重複できません。署名も個別に行ってください。



**例 4-2 恒久 ENT\_PROXY NODE ライセンス**

```
INCREMENT ENT_PROXY_NODE cisco 1.0 permanent uncounted \  
  
VENDOR_STRING=<Count>2</Count><OrigMacId>001438bdeddd</OrigMacId><LicFileVersion>1.0</  
LicFileVersion> \  
HOSTID=001438bdeddd \  
NOTICE="<LicFileID>epas-yicding.lic</LicFileID><LicLineID>0</LicLineID> \  
<PAK>dummyPak</PAK>" SIGN="0B2A 49C3 54C9 5ECA CCDC 9005 E18D \  
8811 DB83 2CFC 69F1 9942 5D03 0F7F 3F05 0A57 D67B 5527 F8A7 \  
24C2 2705 CC91 54F8 5D04 FD43 2B77 6201 A28D EB55 C756"  
INCREMENT ENT_PE_NODE cisco 1.0 permanent uncounted \  
  
VENDOR_STRING=<Count>2</Count><OrigMacId>001438bdeddd</OrigMacId><LicFileVersion>1.0</  
LicFileVersion> \  
HOSTID=001438bdeddd \  
NOTICE="<LicFileID>epas-yicding.lic</LicFileID><LicLineID>1</LicLineID> \  
<PAK>dummyPak</PAK>" SIGN="099A 81AD EA5E 1F29 75A5 85C5 6C99 \  
B021 9B24 968C DD71 A723 D887 48BA B90B 1788 F652 DCC3 0788 \  
38D8 0FAA 349E F1BB F14B 083A 08BB B21F 3CD4 4023 302E"
```

このライセンスファイルには、次の情報が含まれています。

- キーワード `permanent` が示すとおり、このライセンスには有効期限がありません。
- シスコ固有のフィールド `LicFileID` により、このライセンスファイルが識別されます。
- 1つのライセンスファイルの同じ機能に対して複数の `INCREMENT` 行を追加することにより、ライセンス数を増やすことができます。INCREMENT 行は重複できません。署名も個別に行ってください。

**追加情報**

P.4-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ライセンスファイルのアップロード

Cisco Unified Presence ノードへライセンスファイルをアップロードするには、次の手順に従います。ライセンスファイルの入手方法については、P.4-2の「[ライセンスファイルの取得](#)」を参照してください。ライセンスファイルのロード先となる Cisco Unified Presence ノードが、ライセンスマネージャの役割を果たします。



(注) ライセンスファイルは、Cisco Unified Presence クラスタの最初のノードにだけアップロードします。

### 手順

**ステップ 1** [システム] > [ライセンス] > [ライセンスファイルのアップロード] の順に選択します。

[ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [既存ライセンスファイル (Existing License Files)] ドロップダウン リスト ボックスに、サーバへアップロード済のライセンスファイルが表示されます。



(注) 既存のファイルの内容を表示するには、[ファイルの表示] をクリックします。

**ステップ 3** アップロードする新しいライセンスファイルを選択するには、[ライセンスファイルのアップロード] をクリックします。

[ファイルのアップロード (File Upload)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** サーバへアップロードするライセンスファイルを参照して選択します。

**ステップ 5** [アップロード] をクリックします。

アップロード処理の完了後、[アップロード結果 (Upload Result)] ファイルが表示されます。

**ステップ 6** [閉じる] をクリックします。

**ステップ 7** [ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)] ウィンドウに、アップロード済ファイルのステータスが表示されます。

### 追加情報

P.4-7の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [ライセンスファイルの取得 \(P.4-2\)](#)
- [ライセンスファイルの内容 \(P.4-4\)](#)
- [ライセンスファイルのアップロード \(P.4-6\)](#)





## ライセンス ユニット レポート

---

ライセンス ユニット レポートを使用して、ライセンスの許容総数と使用中のライセンス数を表示します。このツールにより、使用可能なライセンスの合計数のリストを含むレポートが生成されます。

### ライセンス ユニット レポートの生成

使用可能なライセンス数のレポートを生成するには、次の手順に従います。

#### 手順

**ステップ 1** [システム] > [ライセンス] > [ライセンスユニットレポート] の順に選択します。

**ステップ 2** [Cisco UPS ライセンスユニットレポート (Cisco UPS License Unit Report)] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、次の基準でノードのライセンス数が表示されます。

- 使用可能なユニット数 (Units Available)
- 使用済ユニット数 (Units Used)
- 残りユニット数 (Units Remaining)

#### 追加情報

P.5-1 の「[関連項目](#)」を参照してください。

### 関連項目

- [ライセンス ファイルのアップロード \(P.4-1\)](#)





## ステータス

---

ステータスのウィンドウを使用して、Cisco Unified Presence のシステム ステータスを表示します。

### システム ステータスの表示

システム ステータスを表示するには、次の手順に従います。

#### 手順

---


**ステップ 1** [システム] > [ステータス] の順に選択します。

[Cisco Unified Presence システムステータス (Cisco Unified Presence System Status)]ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ステータス パラメータの説明については、[表 6-1](#) を参照してください。

---

表 6-1 システム ステータス パラメータ

パラメータ	説明
同期情報 (Sync Information)	同期が発生すると、この読み取り専用フィールドにパブリッシャサーバの IP アドレスが表示されます。
システム情報 (System Information)	<p>[ システム情報 (System Information) ] には、次の読み取り専用フィールドが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• エンドユーザ数 (No. End-users)</li> <li>• 電話デバイス数 (No. Phone Devices)</li> <li>• ライセンス済 CUP エンドユーザ数 (No. Licensed Cisco Unified Presence (CUP) End users)</li> <li>• ライセンス済 UPC エンドユーザ数 (No. Licensed UPC End-users)</li> <li>• 割り当て済 MOC エンドユーザ数 (No. Assigned MOC End-users)</li> <li>• クラスタ間ピアに関連付けられたエンドユーザ数 (No. End users Associated with Intercluster Peer)</li> </ul> <p> (注) クラスタ間ピアに関連付けられたエンドユーザ数は、[ クラスタ間ピア設定 (Intercluster Peer Configuration) ] ウィンドウでクラスタ間ピアを設定した後にのみ表示されます。詳細については、<a href="#">第 20 章「クラスタ間ピア」</a>を参照してください。</p>



## ライセンス済ユーザの検索

ライセンス済ユーザを検索するには、次の手順に従います。

### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Presence システムステータス (Cisco Unified Presence System Status) ] ウィンドウの最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの検索条件を選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

**ステップ 2** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[ 検索 ] をクリックします。



**ヒント** データベースに登録されているすべてのライセンス済ユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [ 検索 ] をクリックします。

検出されたライセンス済ユーザのリストが表示されます。検索結果のパラメータの説明については、表 6-2 を参照してください。

**ステップ 3** ユーザに関連付けられているデバイスを表示するには、[ デバイス ] リンクをクリックします。

表 6-2 システムステータスの検索結果パラメータ



パラメータ	説明
ユーザ ID(User ID)	ユーザ ID が表示されます。   <b>(注)</b> Cisco Unified Communications Manager ではユーザを作成できますが、Cisco Unified Presence では作成できません。
プライマリ内線 (Primary Extension)	このユーザに関連付けられているプライマリ内線が表示されます。
デバイス (Devices)	このユーザにリンクとして関連付けられているデバイスの合計数が表示されます。デバイスのリストを含むポップアップ ウィンドウを表示するには、リンクをクリックします。
連絡先 (Contacts)	このユーザにリンクとして関連付けられている連絡先の合計数が表示されます。連絡先のリストを含むポップアップ ウィンドウを表示するには、リンクをクリックします。ユーザは、Cisco Unified Presence エンドユーザの連絡先ウィンドウで連絡先を追加できます。

表 6-2 システムステータスの検索結果パラメータ (続き)

パラメータ	説明
ウォッチャ (Watchers)	<p>このユーザにリンクとして関連付けられているウォッチャの合計数が表示されます。ウォッチャのリストを含むポップアップ ウィンドウを表示するには、リンクをクリックします。</p>  <p><b>(注)</b> ウォッチャは、連絡先リストに特定のユーザを含むユーザを表し、事実上、このユーザを監視します。</p>
ライセンス済 UPC(Licensed UPC)	このユーザが Cisco Unified Personal Communicator の使用ライセンスを持っている場合、黒いチェック マークが表示されます。
MOC を使う (MOC Enabled)	このユーザが CTI Gateway Microsoft Office Communicator 機能の使用を許可されている場合、黒いチェック マークが表示されます。



## 設定トラブルシュータ

---

設定トラブルシュータのウィンドウを使用して、初期設定後または設定の変更時における、Cisco Unified Presence の設定に関する問題点を診断します。設定トラブルシュータでは、Cisco Unified Presence クラスタと Cisco Unified Communications Manager クラスタの両方で一連のテストを実行し、Cisco Unified Presence の設定を検証します。

設定トラブルシュータのテストが終了すると、各テストで次の3つのステータスがレポートされます。

- テスト合格 (Test Passed)
- テスト不合格 (Test Failed)
- テスト警告 (Test Warning、設定に問題がある可能性を示します)

不合格または警告となったテストごとに、問題点の説明と考えられる解決方法が示されます。

## 設定トラブルシュータの使用

設定トラブルシュータを利用するには、次の手順に従います。

### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Presence の管理 ] ウィンドウで、[ システム ] > [ トラブルシュータ ] の順に選択します。

[ 設定トラブルシュータ (Configuration Troubleshooter) ] ウィンドウが表示されます。設定トラブルシュータで実行されるテストのリストについては、[表 7-1](#) を参照してください。

**ステップ 2** 不合格または警告となった各テストの結果の表を検証します。

結果の表には、問題点の説明と推奨される解決策が提示されます。

**ステップ 3** 不合格または警告となったテストごとに、解決策の列で [ fix ] リンクをクリックし、Cisco Unified Presence の管理のウィンドウへ移動します。このウィンドウには、設定トラブルシュータにより見つかった問題点が表示されます。

**ステップ 4** 見つかった設定エラーを修正して、トラブルシュータを再度実行します。

表 7-1 トラブルシュータのテストと解決策

テストの説明	問題の説明	解決策
同期エージェントのテスト		
AXL 設定のエントリが存在することを確認します。	AXL 設定テーブルにエントリがありません。	AXL 設定ウィンドウで、有効な Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ アドレス、AXL ユーザ ID、パスワードを設定します。詳細については、 <a href="#">第 18 章「AXL 設定」</a> を参照してください。
AXL ユーザ ID が有効であることを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>AXL のユーザ ID 値が無効</li> <li>AXL パスワード値が無効</li> <li>パブリッシャ アドレス値が無効</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AXL 設定ウィンドウで、有効な AXL のユーザ ID を設定します。</li> <li>AXL 設定ウィンドウで、有効な AXL のパスワードを設定します。</li> <li>有効な Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ アドレスを設定します。</li> </ul> <p>詳細については、<a href="#">第 18 章「AXL 設定」</a> を参照してください。</p>
パブリッシャのアドレスが到達可能であることを確認します。次に、ログインして基本的なクエリを実行します。	指定の IP アドレスで Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードに接続できません。	AXL 設定ウィンドウのパブリッシャ アドレス、AXL ユーザ ID、および AXL パスワードが正しいことを確認します。詳細については、 <a href="#">第 18 章「AXL 設定」</a> を参照してください。
同期エージェントにより適切なデータ（デバイス、ユーザ、ライセンス情報など）が同期されていることを確認します。	同期エージェント サービスが有効なデータを同期したかどうかを確認できません。	同期エージェント サービスがアクティブであることを確認します。Cisco Unified サービスアビリティに移動し、[ Tools ] > [ Control Center - Network Services ] の順に選択します。

表 7-1 トラブルシュータのテストと解決策 (続き)

テストの説明	問題の説明	解決策
同期エージェント サービスが実行されていることを確認します。	同期エージェント サービスが現在実行されていません。Cisco Unified Presence サーバが正しく動作するには、同期エージェントが必要です。	同期エージェント サービスを起動するには、Cisco Unified サービスアビリティ に移動し、[ Tools ] > [ Control Center - Network Services ] の順に選択します。
<b>プレゼンス エンジンのテスト</b>		
Cisco Unified Communications Manager プレゼンス ゲートウェイのエントリが存在することを確認します。	Cisco Unified Communications Manager プレゼンス ゲートウェイのエントリがありません。	有効なプレゼンス ゲートウェイを設定するには、[ Cisco Unified Presence ] > [ プレゼンス エンジン ] > [ プレゼンス ゲートウェイ ] の順に選択します。詳細については、第 9 章「プレゼンス ゲートウェイ」を参照してください。
プレゼンス エンジン サービスが実行されていることを確認します。	プレゼンス エンジン サービスが現在実行されていません。	プレゼンス エンジン サービスを起動するには、Cisco Unified サービスアビリティ に移動し、[ Tools ] > [ Service Activation ] の順に選択します。
プレゼンス エンジンの OAM エージェント サービスが実行されていることを確認します。	プレゼンス エンジンの OAM エージェント サービスが現在実行されていません。	プレゼンス エンジンの OAM エージェント サービスを起動するには、Cisco Unified サービスアビリティ に移動し、[ Tools ] > [ Control Center - Network Services ] の順に選択します。
プレゼンス エンジン データベース サービスが実行されていることを確認します。	プレゼンス エンジン データベース サービスが現在実行されていません。	プレゼンス エンジン データベース サービスを起動するには、Cisco Unified サービスアビリティ に移動し、[ Tools ] > [ Control Center - Network Services ] の順に選択します。
Cisco Unified Communications Manager プレゼンス ゲートウェイが有効であることを確認します (到達可能であることをチェックします)。	無効なプレゼンス ゲートウェイが存在します。	有効なプレゼンス ゲートウェイを設定するには、[ Cisco Unified Presence ] > [ プレゼンス エンジン ] > [ プレゼンス ゲートウェイ ] の順に選択します。詳細については、第 9 章「プレゼンス ゲートウェイ」を参照してください。
Cisco Unified Communications Manager サーバに有効な SIP トランクが存在することを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cisco Unified Communications Manager に有効な SIP トランクが存在しません。</li> <li>Cisco Unified Communications Manager 上で SIP トランクが失われている可能性があります。Cisco Unified Presence サーバごとに、対応する SIP トランクを設定する必要があります (DNS SRV が有効になっている場合を除く)。存在しない可能性のあるエントリは、次のとおりです。x.x.x.x、x.x.x.x、...</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有効な SIP トランクを Cisco Unified Communications Manager に設定します。</li> <li>クラスタ内の Cisco Unified Presence サーバごとに、Cisco Unified Communications Manager で有効な SIP トランクを設定したことを確認します。DNS SRV を使用している場合、トラブルシュータは現在 DNS SRV エントリを解決できないので、このことが問題にならない可能性があります。</li> </ul>

表 7-1 トラブルシュータのテストと解決策 (続き)

テストの説明	問題の説明	解決策
SIP パブリッシュ モデルが正しいことを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>SIP パブリッシュ設定に、次のいずれかのエラーがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>SIP パブリッシュが Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications Manager のどちらにも設定されていない</li> <li>SIP パブリッシュが Cisco Unified Communications Manager には設定されているが、Cisco Unified Presence サーバには設定されていない</li> <li>SIP パブリッシュが Cisco Unified Presence サーバには設定されているが、Cisco Unified Communications Manager には設定されていない</li> </ul> </li> <li>Cisco Unified Communications Manager に、現在ライン アピアランスが存在しません。</li> <li>Cisco Unified Communications Manager の SIP パブリッシュ トランクのポートが、Cisco Unified Presence サーバの Cisco SIP プロキシ リスナーに設定されているいずれのポートにも一致しません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[ Cisco Unified Presence 設定 (Cisco Unified Presence Settings) ] ウィンドウで SIP パブリッシュを有効にします。詳細については、第 8 章「Cisco Unified Presence の設定値」を参照してください。</li> <li>SIP パブリッシュが正常に動作するためには、Cisco Unified Communications Manager にライン アピアランスが存在する必要があります。</li> <li>Cisco Unified Communications Manager 上の SIP パブリッシュ トランク ポート ([ デバイス ] &gt; [ トランク ]) を変更して、Cisco SIP プロキシ用のポート値のいずれか ([ Cisco Unified Presence ] &gt; [ トランスポートリスナー ]) と一致するようにします。詳細については、第 19 章「トランスポートリスナー」を参照してください。</li> </ul>
<b>プロキシ サーバのテスト</b>		
SIP プロキシサービスのプロキシドメインサービスパラメータの値が有効であることを確認します。	無効なプロキシドメイン サービスパラメータ値が存在します (値が空か、デフォルトに設定されています)。	有効なプロキシドメイン サービスパラメータ (SIP プロキシ サービス) を設定します。
メソッド / イベントルートが存在することを確認します。	メソッド / イベント ルートがありません。デフォルトのルートが削除されています。正常に機能するためには、Cisco Unified Presence にルートが必要です。	これらの要求をプレゼンス エンジンにルーティングするには、少なくとも 2 つのメソッドルート (パブリッシュ、サブスクリプト) を設定する必要があります。詳細については、第 13 章「メソッド / イベントルーティング」を参照してください。
プロキシ着信 ACL が設定されていることを確認します。	プロキシ着信 ACL が未設定であることをシステムが示しています。	着信 ACL エントリを追加します。[ Cisco Unified Presence ] > [ プロキシサーバ ] > [ 着信 ACL ] の順に選択し、[ 新規追加 ] をクリックします。詳細については、第 14 章「着信 ACL」を参照してください。
プロキシ発信 ACL が設定されていることを確認します。	プロキシ発信 ACL が未設定であることをシステムが示しています。	発信 ACL エントリを追加します。[ Cisco Unified Presence ] > [ プロキシサーバ ] > [ 発信 ACL ] の順に選択し、[ 新規追加 ] をクリックします。詳細については、第 15 章「発信 ACL」を参照してください。

表 7-1 トラブルシュータのテストと解決策 (続き)


テストの説明	問題の説明	解決策
SIP プロキシサービスが実行されていることを確認します。	SIP プロキシ サービスが現在実行されていません。	SIP プロキシ サービスを開始するには、サービスアビリティ アプリケーションを使用します。
設定エージェントサービスが実行されていることを確認します。	設定エージェント サービスが現在実行されていません。	SIP プロキシ サービスを開始するには、サービスアビリティ アプリケーションを使用します。
<b>IPPM テスト</b>		
IPPM 設定のエントリが存在することを確認します。   <b>(注)</b> Cisco Unified Presence の管理ページで IPPM を有効にした場合のみ、トラブルシュータで IPPM がテストされます。IPPM を有効にするには、[アプリケーション] > [IP Phone Messenger] > [設定] の順に選択します。	IPPM 設定テーブルに消失エントリは表示されません。	有効なアプリケーションのユーザ名とパスワードを設定するには、[アプリケーション] > [IP Phone Messenger] > [設定] の順に選択します。
IPPM アプリケーションのユーザ名が有効であることを確認します。	無効な IPPM アプリケーション ユーザ名が存在します。	有効なアプリケーションのユーザ名とパスワードを設定するには、[アプリケーション] > [IP Phone Messenger] > [設定] の順に選択します。
IPPM アプリケーションのパスワードが有効であることを確認します。	無効な IPPM アプリケーション パスワードが存在します。	有効なアプリケーションのユーザ名とパスワードを設定するには、[アプリケーション] > [IP Phone Messenger] > [設定] の順に選択します。
Cisco Unified Presence の IPPM アプリケーションのユーザ名とパスワードが、設定済の Cisco Unified Communications Manager アプリケーションのユーザ名およびパスワードと一致することを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>IPPM アプリケーションのユーザ名の不一致が存在する</li> <li>IPPM アプリケーションのパスワードの不一致が存在する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cisco Unified Communications Manager サーバで有効な IPPM アプリケーション ユーザ名の値を設定して、Cisco Unified Presence サーバでの IPPM アプリケーション ユーザ名と一致するようにします。</li> <li>Cisco Unified Communications Manager サーバで有効な IPPM アプリケーション パスワード値を設定して、Cisco Unified Presence サーバでの IPPM アプリケーション パスワード値と一致するようにします。</li> </ul>
IPPM サービスがアクティブであることを確認します。	IPPM サービスが現在非アクティブに切り替えられていることをシステムが示しています。	IPPM サービスをアクティブにするには、IPPM 設定ウィンドウを使用します。
IPPM サービスが実行されていることを確認します。	IPPM サービスが現在実行されていません。	IPPM サービスを起動するには、サービスアビリティ アプリケーションを使用して SIP プロキシ サービスを起動します。

表 7-1 トラブルシュータのテストと解決策 (続き)


テストの説明	問題の説明	解決策
<b>CTI ゲートウェイのテスト</b>		
CTI ゲートウェイ設定のエントリが存在することを確認します。	CTI ゲートウェイ設定テーブルにエントリがないことをシステムが示しています。	 (注) CTI ゲートウェイの設定値を設定するには、[アプリケーション]>[CTI ゲートウェイ]>[設定]の順に選択します。
CTI ゲートウェイサービスがアクティブであることを確認します。	CTI ゲートウェイ サービスが現在非アクティブに切り替えられていることをシステムが示しています。	CTI ゲートウェイ サービスをアクティブにするには、[CTI ゲートウェイ設定]ウィンドウを使用します。
Cisco Unified Presence のアプリケーションのユーザ名とパスワードが、現在設定されている Cisco Unified Communications Manager アプリケーションのユーザ名およびパスワードと一致することを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>CTI ゲートウェイのアプリケーション ユーザ ID の不一致が存在する</li> <li>CTI ゲートウェイのアプリケーション パスワードの不一致が存在する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cisco Unified Communications Manager サーバで有効な CTI ゲートウェイ アプリケーション ユーザ名の値を設定して、Cisco Unified Presence サーバでの CTI ゲートウェイ アプリケーション ユーザ名の値と一致するようにします。</li> <li>Cisco Unified Communications Manager サーバで有効な CTI ゲートウェイ アプリケーション パスワード値を設定して、Cisco Unified Presence サーバでの CTI ゲートウェイ アプリケーション パスワード値と一致するようにします。</li> </ul>
CTI ゲートウェイサービスが実行されていることを確認します。	CTI ゲートウェイ サービスが現在実行されていません。	CTI ゲートウェイ サービスを開始するには、サービスアビリティ アプリケーションを使用して SIP プロキシ サービスを起動します。
現在 Microsoft Office Communicator (MOC) が割り当てられているユーザがいるかどうかを確認します。	現在 MOC 割り当て済になっているユーザが存在しないことをシステムが示しています。	MOC 機能をユーザに割り当てるには、[アプリケーション][CTI ゲートウェイ][MOC 割り当て]の順に選択します。詳細については、第 33 章「MOC 割り当て」を参照してください。
<b>会議通知のテスト</b>		
予定表連携用プレゼンス ゲートウェイが存在するかどうかを確認します。	予定表連携用プレゼンス ゲートウェイが複数存在します。	Cisco Unified Presence 内でプロビジョニングできる予定表連携用プレゼンス ゲートウェイは 1 つだけです。
IP Phone Messenger アプリケーションが有効であることを確認します。	Cisco IP Phone Messenger アプリケーションは現在無効になっていると表示されています。電話機に会議通知が正しく表示されるようにするには、このアプリケーションが必要です。	IPPM 設定ウィンドウで Cisco IP Phone Messenger アプリケーションを有効にします。
SIP プロキシ サービスが実行されていることを確認します。	SIP プロキシ サービスが現在実行されていません。会議通知アプリケーションが正しく実行されるようにするには、このサービスが必要です。	SIP プロキシ サービスをアクティブにするには、Cisco Unified サービスアビリティ に移動し、[Tools]>[Service Activation]の順に選択します。



表 7-1 トラブルシュータのテストと解決策 (続き)

テストの説明	問題の説明	解決策
MeetingPlace が適切に設定されていることを確認します (会議参加コールバック機能をサポートするため)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>このテストでトラブルシュータに内部エラーが発生しました。</li> <li>MeetingPlace の設定が無効であることをシステムが示しています (MeetingPlace のアドレスをチェックしてください)。会議参加コールバック機能が適切に動作するには、MeetingPlace を正しく設定する必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラブルシュータは内部エラーのためこのテストを実行できませんでした。システム管理者にすぐに連絡してください。</li> <li>[ 会議通知の設定 (Meeting Notification Settings) ] ウィンドウで MeetingPlace を設定してください。</li> </ul>
MeetingPlace の信頼される証明書がロードされていることを確認します。	MeetingPlace の信頼証明書ファイルが現在ロードされていないか、件名 CN (Common Name) の不一致が存在することをシステムが示しています。MeetingPlace の参加コールバック機能が正常に動作するには、この証明書が必要です。	MeetingPlace 用の有効な証明書をロードして、MeetingPlace の信頼証明書件名 CN ([ 会議通知の設定 (Meeting Notification Settings) ] ウィンドウで設定) が、ロードされた証明書ファイルの信頼証明書件名 CN と一致することを確認してください。証明書は、Cisco Unified OS の証明書の一覧ウィンドウ ([ <b>セキュリティ</b> ] > [ <b>証明書の管理</b> ]) からロードできます。
Microsoft Exchange の信頼される証明書がロードされていることを確認します。	Microsoft Exchange の信頼証明書ファイルが現在ロードされていないか、件名 CN (Common Name) の不一致が存在します。CUP および Exchange が安全な方式で通信できるようにするには、この証明書が必要です。	Microsoft Exchange 用の有効な証明書をロードして、信頼証明書件名 CN ([ プレゼンスゲートウェイ ] ウィンドウで設定) が、ロードされた証明書ファイルの信頼証明書件名 CN と一致することを確認してください。証明書は、Cisco Unified OS の証明書の一覧ウィンドウ ([ <b>セキュリティ</b> ] > [ <b>証明書の管理</b> ]) からロードできます。
<b>クラスタ間テスト</b>		
任意のクラスタ間ピアが存在することを確認します。	このテストでトラブルシュータに内部エラーが発生しました。	トラブルシュータは内部エラーのためこのテストを実行できませんでした。システム管理者にすぐに連絡してください。
クラスタ間同期エージェントサービスが実行されていることを確認します。	クラスタ間同期エージェント サービスが現在実行されていません。	クラスタ間同期エージェント サービスをアクティブにするには、Cisco Unified サービスアビリティ に移動し、[ <b>Tools</b> ] > [ <b>Control Center - Network Services</b> ] の順に選択します。
クラスタ間ピアが有効かどうか (到達可能であるかどうか) を確認します。	無効なクラスタ間ピアが存在します。	有効なクラスタ間ピアを設定するには、[ Cisco Unified Presence ] > [ <b>クラスタ間設定</b> ] の順に選択します。詳細については、 <a href="#">第 20 章「クラスタ間ピア」</a> を参照してください。
到達可能な各クラスタ間ピアの AXL の接続性を確認します。	無効なクラスタ間ピアが存在します。システムが、リストされているピアに (AXL インターフェイス経由で) 接続できません。	各クラスタ間ピアのアドレスおよび関連付けられている信用証明書を確認します。このエラーは、AXL ユーザ名 / パスワードに不一致があるか、AXL サービスがリモートピア上で実行されていないことを示している場合があります。

表 7-1 トラブルシュータのテストと解決策 (続き)

テストの説明	問題の説明	解決策
各クラスタ間ピアがクラスタ間接続をサポートしていることを確認します。	無効なクラスタ間ピアが存在します。リストされているピアがクラスタ間接続をサポートしていません。	各クラスタ間ピアがクラスタ間接続をサポートしていることを確認します。このエラーは、指定のピアとバージョンが一致していないことを示している場合があります。
各クラスタ間ピアにユーザが関連付けられている (同期を取っている) ことを確認します。	クラスタ間ピアが無効です。リストされているピアに、ユーザが関連付けられていません。	各クラスタ間ピアのアドレスおよび信用証明書を確認します。クラスタ間ピアに関連付けられている (同期を取っている) ユーザがない場合、設定に問題がある可能性があります。



## **PART 3**

### **Cisco Unified Presence の設定**





## Cisco Unified Presence の設定値

---

Cisco Unified Presence の設定のウィンドウを使用して、Cisco Unified Presence のすべてのサービスとアプリケーションに関するグローバルパラメータの設定値を設定します。

### Cisco Unified Presence の設定値の設定

この項では、Cisco Unified Presence の設定値を設定する方法について説明します。

#### 手順

---

**ステップ 1** [ Cisco Unified Presence ] > [ 設定 ] の順に選択します。

[ Cisco Unified Presence 設定 (Cisco Unified Presence Settings) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [表 8-1](#) の説明に従って Cisco Unified Presence の設定値を設定します。





**ステップ 3** 設定を保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 保存 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 保存 ] ボタンをクリックします)。

---

## Cisco Unified Presence の設定値

表 8-1 で、Cisco Unified Presence の設定値について説明します。関連する手順については、P.8-3 の「関連項目」を参照してください。

表 8-1 Cisco Unified Presence の設定値

フィールド	説明
[ インスタントメッセージを有効にする (Enable Instant Messaging、クラスタ全体) ] チェックボックス	このチェックボックスをオンにすると、この Cisco Unified Presence クラスタでインスタントメッセージが有効になります。この設定は、Cisco IP Phone Messenger サービス、SIP プロキシ、Cisco Unified Personal Communicator に影響します。  デフォルト設定：有効
[ CUCM で SIP パブリッシュを有効にする (Enable Publish to Cisco Unified Communications Manager) ] チェックボックス   (注) このフィールドは、Cisco Unified Communications Manager Release 6.0 以上に接続した場合にのみ表示されます。	このチェックボックスをオンにすると、該当する Cisco Unified Communications Manager へのパブリッシュが有効になります。この設定は IP Phone Messenger サービス、SIP プロキシ、Cisco Unified Personal Communicator に影響します。  デフォルト設定：無効
CUCM SIP パブリッシュトランク (Cisco Unified Communications Manager SIP Publish Trunk)   (注) このフィールドは、Cisco Unified Communications Manager Release 6.0 以上に接続する場合にのみ表示されます。	ドロップダウン リストから該当する SIP パブリッシュトランクを選択すると、Cisco Unified Presence で Cisco Unified Communications Manager の電話機ステータスを監視できます。   (注) このパラメータを有効にするには、[ CUCM で SIP パブリッシュを有効にする (Enable Publish to Cisco Unified Communications Manager) ] チェックボックスをオンにする必要があります。   (注) このパラメータは、Cisco Unified Communications Manager の SIP パブリッシュトランクを変更します。これに加えて、Cisco Unified Communications Manager で SIP パブリッシュトランクのパラメータを変更すると、両者は接続しているため、この設定も変更されます。  デフォルト設定：AXL から読み込んだ現在の Cisco Unified Communications Manager SIP パブリッシュトランクの設定

### 追加情報

P.8-3 の「関連項目」を参照してください。

## 関連項目

- [Cisco Unified Presence の設定値の設定 \( P.8-1 \)](#)
- [Cisco Unified Presence の設定値 \( P.8-2 \)](#)







# プレゼンス ゲートウェイ

プレゼンス ゲートウェイのウィンドウを使用して、プレゼンス エンジンがプレゼンス情報を受信するために必要なゲートウェイを設定します。

## プレゼンス ゲートウェイの検索

ネットワークにプレゼンス ゲートウェイが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のゲートウェイを検索することができます。特定のプレゼンス ゲートウェイを検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

### 手順

**ステップ 1** Cisco Unified Presence > [ **プレゼンスエンジン** ] > [ **プレゼンスゲートウェイ** ] の順に選択します。

[ **プレゼンスゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Presence Gateways)** ] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、**ステップ 3** に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- ドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注)

検索条件を追加するには、[ + ] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[ - ] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[ **フィルタのクリア** ] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

## ■ プレゼンスゲートウェイの設定

**ステップ3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



(注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択]をクリックしてから[選択項目の削除]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.9-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## プレゼンスゲートウェイの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースでプレゼンスゲートウェイを追加または更新する方法について説明します。

#### 手順

**ステップ1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- プレゼンスゲートウェイを追加するには、Cisco Unified Presence > [プレゼンスエンジン] > [プレゼンスゲートウェイ] の順に選択し、[新規追加] をクリックします。
- プレゼンスゲートウェイを更新する場合、P.9-1 の「[プレゼンスゲートウェイの検索](#)」の手順に従ってプレゼンスゲートウェイを検索します。

[プレゼンスゲートウェイの設定 (Presence Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ2** [表 9-1](#) の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ3** データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。


#### 追加情報

P.9-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## プレゼンスゲートウェイの設定値

表 9-1 で、プレゼンスゲートウェイの設定値について説明します。関連する手順については、P.9-4 の「関連項目」を参照してください。

表 9-1 プレゼンスゲートウェイの設定値

フィールド	説明
プレゼンスゲートウェイタイプ (Presence Gateway Type)	<p>ドロップダウン リストから、次のゲート タイプを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CUCM : Cisco Unified Communications Manager ゲートウェイ</li> <li>Outlook : Outlook カレンダーの Microsoft Exchange ゲートウェイ</li> </ul> <p> (注) Cisco Unified Presence の管理ページに、選択したゲートウェイ タイプの該当するフィールドが表示されます。</p>
説明 (Description)	<p>このパラメータは、プレゼンスゲートウェイの説明を指定します。</p> <p>最大文字数 : 255</p>
プレゼンスゲートウェイ (Presence Gateway)	<p>このパラメータは、関連付けられたゲートウェイの完全修飾ドメイン名または IP アドレスを指定します。</p>
アカウント名 (Account Name) (Outlook のみ)	<p>このパラメータは、Cisco Unified Presence が Microsoft Exchange サーバに接続するために使用するグローバルアカウント名を指定します。</p>
アカウントパスワード (Account Password) (Outlook のみ)	<p>このパラメータは、Microsoft Exchange サーバのアカウントパスワードを指定します。</p>
パスワードの確認 (Confirm Password) (Outlook のみ)	<p>このパラメータは、Microsoft Exchange サーバのアカウントパスワードを確認します。Account Password エントリと一致する必要があります。</p>
プレゼンスゲートウェイポート (Presence Gateway Port) (Outlook のみ)	<p>このパラメータは、Microsoft Exchange サーバに接続するポートを指定します。</p> <p>デフォルト値 : 443</p>
信頼証明書件名 CN(Trust Certificate Subject CN) (Outlook のみ)	<p>このパラメータは、信頼証明書の Common Name の値を指定します。</p>

## プレゼンス ゲートウェイの削除

この項では、プレゼンス ゲートウェイの削除方法を説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.9-1 の「[プレゼンス ゲートウェイの検索](#)」の手順に従いゲートウェイを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するゲートウェイを選択します。
- ステップ 3** ゲートウェイを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ [選択項目の削除](#) ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ [選択項目の削除](#) ] ボタンをクリックします)。

ゲートウェイが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。ゲートウェイが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

---

### 追加情報

P.9-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [プレゼンス ゲートウェイの検索 \(P.9-1\)](#)
- [プレゼンス ゲートウェイの設定 \(P.9-2\)](#)
- [プレゼンス ゲートウェイの削除 \(P.9-4\)](#)



## ユーザ エージェントの設定

ユーザ エージェントの設定のウィンドウを使用すると、クライアント ユーザ エージェントごとにリーチャビリティ バージョンを設定できます。リーチャビリティ バージョンを設定すると、Cisco Unified Personal Communicator の旧バージョンとの下位互換性を提供できます。デフォルトでは、特別に設定されていないすべてのユーザ エージェントはリーチャビリティ バージョン 2 を使用し、この値は RFC 4479 に準拠しています。

### ユーザ エージェントの検索

Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のユーザ エージェントを検索できます。特定のユーザ エージェントを検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Presence ] > [ プレゼンスエンジン ] > [ ユーザ - エージェント設定 ] の順に選択します。

[ ユーザ - エージェントの検索と一覧表示 (Find and List User-Agent) ] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- ドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

### ステップ3 [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



(注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択] をクリックしてから[選択項目の削除] をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

### ステップ4 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.10-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザエージェントの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースでユーザエージェントを追加または更新する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- ユーザエージェントを追加するには、[ Cisco Unified Presence ] > [ プレゼンスエンジン ] > [ ユーザ - エージェント設定 ] の順に選択し、[ 新規追加 ] をクリックします。
- ユーザエージェントを更新するには、P.10-1 の「ユーザエージェントの検索」の手順に従ってユーザエージェントを検索します。

[ ユーザ - エージェントの設定 (User-Agent Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 表 10-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 保存 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 保存 ] ボタンをクリックします)。

### 追加情報

P.10-5 の「関連項目」を参照してください。

## ユーザエージェントの設定値

表 10-1 で、ユーザエージェントの設定値について説明します。関連する手順については、P.10-5 の「関連項目」を参照してください。

表 10-1 ユーザエージェントの設定値

フィールド	説明
クライアントユーザ - エージェントバージョン (Client User-Agent Version)	このパラメータは、クライアントユーザエージェントのヘッダーを指定します。 最大文字数：255
リーチャビリティバージョン (Reachability Version)	このパラメータは、クライアントがプレゼンスドキュメントで使用するリーチャビリティバージョンを次のとおり指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - draft-ietf-simple-simple-rpid-07</li> <li>• 2 - RFC 4479</li> </ul>

## ユーザエージェントの削除

この項では、ユーザエージェントの削除方法を説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.10-1 の「[ユーザエージェントの検索](#)」の手順に従いユーザエージェントを検索します。
  - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するユーザエージェントを選択します。
  - ステップ 3** ユーザエージェントを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ [選択項目の削除](#) ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ [選択項目の削除](#) ] ボタンをクリックします)。

ユーザエージェントが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。ユーザエージェントが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

---

### 追加情報

P.10-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザエージェントのコピー

この項では、ユーザエージェントをコピーする方法について説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.10-1 の「[ユーザエージェントの検索](#)」の手順に従いユーザエージェントを検索します。
  - ステップ 2** 一致するレコードのリストからコピーするユーザエージェントを選択します。
  - ステップ 3** ユーザエージェントをコピーするには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ [コピー](#) ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ [コピー](#) ] ボタンをクリックします)。

[ ユーザ - エージェントの設定 (User-Agent Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 4** [表 10-1](#) の説明に従って適切な設定を入力します。
  - ステップ 5** [ [保存](#) ] をクリックします。
- 

### 追加情報

P.10-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。



## 関連項目

- [ユーザエージェントの検索 \(P.10-1\)](#)
- [ユーザエージェントの設定 \(P.10-3\)](#)
- [ユーザエージェントの削除 \(P.10-4\)](#)





## プロキシ サーバの設定

---

プロキシ サーバの設定のウィンドウを使用して、SIP プロキシ サーバの設定を行います。

### プロキシ サーバ設定値の設定

この項では、Cisco Unified Presence のプロキシ サーバを設定する方法について説明します。

#### 手順

- 
- ステップ 1** [ Cisco Unified Presence ] > [ プロキシ サーバ ] > [ 設定 ] を選択します。  
[ プロキシの構成設定 (Proxy Configuration Settings) ] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** [ メソッド / イベントルーティングのステータス (Method/Event Routing Status) ] で [ オン ] または [ オフ ] を選択します。
  - ステップ 3** 表 11-1 の説明に従って、適切な [ 優先プロキシリスナー (Preferred Proxy Listener) ] を選択します。
  - ステップ 4** 設定を保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 保存 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 保存 ] ボタンをクリックします)。
- 

#### 追加情報

P.11-2 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## プロキシ サーバの設定値

表 11-1 で、プロキシ サーバの設定値について説明します。関連する手順については、P.11-2 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 11-1 プロキシ サーバの設定値

フィールド	説明
メソッド/イベントルーティングのステータス (Method/Event Routing Status)	このパラメータは、SIP プロキシ サーバでメソッド / イベントルーティング モジュールを有効にするか無効にするかを指定します。
優先プロキシリスナー (Preferred Proxy Listener)	このパラメータは、どの SIP プロキシ リスナーを優先リスナーとみなすかを指定します。ドロップダウン リストには、トランスポートリスナーのウィンドウで定義した SIP プロキシ サーバのリスナーが含まれています。

## プロキシ サービスの再起動

Cisco Unified Presence の管理ページで行う変更を有効にするのに、SIP プロキシ サービスの再起動が必要な場合があります。次の変更では、SIP プロキシ サービスの再起動が必要です。

- システム サーバの追加、削除、または変更
- SIP プロキシ サーバ設定の変更
- トランスポートリスナーの追加、削除、または変更
- TLS コンテキストおよび TLS ピア サブジェクトの追加、削除、または変更

プロキシ サービスを再起動するには、次の手順に従います。



### 警告

プロキシ サービスを再起動する間、Cisco Enterprise SIP プロキシサービスにより既存のトランザクションが停止されるため、新たな要求を受け付けることができなくなります。

### 手順

- ステップ 1** [ Cisco Unified Presence ] > [ プロキシ サーバ ] > [ 設定 ] を選択します。  
[ プロキシの構成設定 (Proxy Configuration Settings) ] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ すべてのプロキシサービスのリスタート ] をクリックします。
- ステップ 3** 確認のウィンドウが表示された場合は [ OK ] をクリックします。

## 関連項目

- [プロキシ サーバ設定値の設定 \(P.11-1\)](#)
- [プロキシ サーバの設定値 \(P.11-2\)](#)



## スタティック ルート

スタティック ルートのウィンドウを使用して、SIP プロキシ サーバで使用するスタティック ルートを設定します。ダイナミック ルートは、ルーティング プロトコルとルーティング更新メッセージに従って自動的に計算されるネットワーク経由のパスを表します。スタティック ルートは、明示的に設定するネットワーク経由の固定パスを表します。スタティック ルートは、ダイナミック ルートよりも優先されます。

### スタティック ルートの検索

ネットワークに複数のスタティック ルートが存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のスタティック ルートを検索することができます。特定のスタティック ルートを検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Presence ] > [ プロキシ サーバ ] > [ スタティックルート ] の順に選択します。

[ スタティックルートの検索と一覧表示 (Find and List Static Routes) ] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



(注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択] をクリックしてから[選択項目の削除] をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.12-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## スタティック ルートの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースでスタティック ルートを追加または更新する方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- スタティック ルートを追加するには、[ Cisco Unified Presence ] > [ プロキシサーバ ] > [ スタティックルート ] の順に選択し、[ 新規追加 ] をクリックします。
- サーバを更新する場合、P.12-1 の「スタティック ルートの検索」の手順に従ってサーバを検索します。

[ スタティックルートの設定 (Static Route Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 表 12-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** データを保存してスタティック ルートをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 保存 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 保存 ] ボタンをクリックします)。

---

### 追加情報

P.12-5 の「関連項目」を参照してください。

## スタティック ルートの設定値


表 12-1 で、スタティック ルートの設定値について説明します。関連する手順については、P.12-5 の「関連項目」を参照してください。

表 12-1 スタティック ルートの設定値

フィールド	説明
宛先パターン	<p>このフィールドでは、着信番号のパターンを指定します。</p> <p>ドット (.) を任意の 1 文字を表すワイルドカードとして使用できます。アスタリスク (*) は任意の複数の文字列を表すワイルドカードとして使用できます。</p> <p>ダッシュまたはハイフン (-) もパターン内の任意の場所で使用できます。</p> <p><b>ワイルドカードの使用方法</b></p> <p>電話機の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ドットはパターン内の任意の場所に使用できます。</li> <li>アスタリスクは末尾だけに使用できます。</li> </ul> <p>IP アドレスおよびホスト名の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アスタリスクはホスト名の一部として使用できます。</li> <li>ドットはホスト名のリテラル値の役割を果たします。</li> </ul> <p>エスケープ文字とアスタリスクの連続 (\*) は、リテラル (*) と一致するもので、任意の場所で使用できます。</p>
説明	このパラメータは、特定のスタティック ルートの説明を指定します。
ネクストホップ	このパラメータは、着信先 (ネクスト ホップ) のドメイン名または IP アドレスを指定するもので、完全修飾ドメイン名 (FQDN) またはドット付き IP アドレスを指定できます。
ネクストホップポート (Next Hop Port)	<p>このパラメータは、着信先 (ネクスト ホップ) のポート番号を指定します。</p> <p>デフォルト : 5060</p>
ルートタイプ (Route Type)	このパラメータは、ルート タイプ (ユーザまたはドメイン) を指定します。
プロトコルタイプ (Protocol Type)	このパラメータは、このルートに対するプロトコル タイプ (TCP、UDP、または TLS) を指定します。
プライオリティ	<p>このパラメータは、ルートのプライオリティ レベルを指定します。小さな値はプライオリティが高いことを示します。</p> <p>値の範囲 : 1 ~ 65535</p>
重み付け	<p>このパラメータは、ルートの重み付けを指定します。このパラメータは、複数のルートのプライオリティが同じ場合に限り使用します。大きな値は、ルートのプライオリティが高いことを示します。</p> <p>値の範囲 : 1 ~ 65535</p>



表 12-1 スタティック ルートの設定値 (続き)

フィールド	説明
固有性の低いルートを許可 (Allow Less-Specific Route)	このパラメータは、固有性の低いルートを許可することを示します。
インサービス (In Service)	このパラメータは、ルートをアウト オブ サービスにするかどうかを指定します。   <b>(注)</b> このパラメータを使用すると、管理者は効率的にルートをアウト オブ サービスにすることができます (完全に削除してから再度追加する必要がありません)。
[ ルートのブロック ]チェックボックス (Block Route Check Box)	ルートをブロックする場合、このチェックボックスをオンにします。  デフォルト値：オフ

## スタティック ルートの削除

この項では、スタティック ルートの削除方法を説明します。

### 手順

- ステップ 1** P.12-1 の「[スタティック ルートの検索](#)」の手順に従いスタティック ルートを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するスタティック ルートを選択します。
- ステップ 3** スタティック ルートを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ [選択項目の削除](#) ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ [選択項目の削除](#) ] ボタンをクリックします)。

スタティック ルートが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。スタティック ルートが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

### 追加情報

P.12-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [スタティック ルートの検索 \(P.12-1\)](#)
- [スタティック ルートの設定 \(P.12-3\)](#)
- [スタティック ルートの削除 \(P.12-5\)](#)





## メソッド/イベントルーティング

メソッドベースまたはイベントベースのルーティングのウィンドウを使用して、SIP プロキシ サーバを設定し、SIP メッセージを内容に応じてルーティングします。

### メソッド/イベントルートの検索

ネットワークに複数のメソッド/イベントベースのルートが存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のメソッド/イベントベースのルートを検索することができます。特定のメソッド/イベントベースのルートを検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザセッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索/一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Presence ] > [ プロキシサーバ ] > [ メソッド/イベントルーティング ] の順に選択します。

[ メソッド/イベントベースルーティングの検索と一覧表示 (Find and List Method/Event-Based Routing Entries) ] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



(注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択] をクリックしてから[選択項目の削除] をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.13-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## メソッド/イベントベースのルートの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースでメソッド/イベントベースのルートを追加または更新する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- メソッド/イベントベースのルートを追加するには、[ Cisco Unified Presence ] > [ プロキシサーバ ] > [ メソッド/イベントルーティング ] の順に選択し、[ 新規追加 ] をクリックします。
- メソッド/イベントベースのルートを更新するには、P.13-1 の「メソッド/イベントルートの検索」の手順に従いルートを検索します。

[ メソッド/イベントベースルーティングの設定 (Method/Event-Based Routing Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 表 13-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** データを保存してスタティック ルートをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 保存 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 保存 ] ボタンをクリックします)。

### 追加情報

P.13-5 の「関連項目」を参照してください。

## メソッド/イベントベースのルートの設定値

表 13-1 で、メソッド/イベントベースのルートの設定値について説明します。関連する手順については、P.13-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 13-1 メソッド/イベントルートの設定値

フィールド	説明
名前	このパラメータは、特定のメソッドベースまたはイベントベースのルートに関連付けられている名前を指定します。
説明	このパラメータは、特定のメソッド/イベントルートの説明を指定します。
コンテンツトークン (Content Token)	このパラメータは、SIP メッセージのルーティングに使用するコンテンツ検索文字列を指定します。 PUBLISH や SUBSCRIBE などがその例です。
コンテンツカテゴリ (Content Category)	このパラメータは、メソッドベースまたはイベントベースのいずれかのコンテンツカテゴリを指定します。
着信先アドレス	このパラメータは、SIP メッセージの送信先となる、着信先 (ネクストホップ) のドメイン名または IP アドレスを指定します。
着信先ポート	このパラメータは、着信先 (ネクストホップ) のポート番号を指定します。 デフォルトポート : 5060
プロトコルタイプ (Protocol Type)	このパラメータは、SIP メッセージを転送する場合に使用するプロトコルタイプ (TCP、UDP、または TLS) を指定します。

## メソッド/イベントルートの削除

この項では、メソッド/イベントベースのルートを削除する方法について説明します。

### 手順

- ステップ 1** P.13-1 の「[メソッド/イベントルートの検索](#)」の手順に従いメソッド/イベントルートを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するルートを選択します。
- ステップ 3** ルートを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ **選択項目の削除** ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ **選択項目の削除** ] ボタンをクリックします)。

メソッド/イベントルートが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。メソッド/イベントルートが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

### 追加情報

P.13-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [メソッド/イベントルートの検索 \(P.13-1\)](#)
- [メソッド/イベントベースのルートの設定 \(P.13-3\)](#)
- [メソッド/イベントルートの削除 \(P.13-4\)](#)







## 着信 ACL

アクセスコントロールリスト (ACL) では、Cisco Unified Presence へアクセスできるホストおよびドメインを制御するパターンを設定できます。

### 着信 ACL エントリの検索

ネットワークに ACL エントリが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の着信 ACL エントリを検索することができます。特定の ACL エントリを検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザセッションでの作業中、クライアントマシンの cookie により、検索/一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Presence ] > [ プロキシサーバ ] > [ 着信 ACL ] の順に選択します。

[ 許可されている着信ホストの検索と一覧表示 (Find and List Allowed Incoming Hosts) ] ウィンドウが表示されます。アクティブ(優先)クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- ドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注)

検索条件を追加するには、[ + ] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[ - ] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[ フィルタのクリア ] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



(注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択]をクリックしてから[選択項目の削除]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.14-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 着信 ACL の設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースで着信 ACL 情報を追加または更新する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- 着信 ACL エントリを追加するには、[ Cisco Unified Presence ] > [ プロキシサーバ ] > [ 着信 ACL ] の順に選択し、[ 新規追加 ] をクリックします。
- 着信 ACL エントリを更新するには、P.14-1 の「[着信 ACL エントリの検索](#)」の手順に従い ACL エントリを検索します。

[ プロキシアクセスコントロールリストの設定 (Proxy Access Control List Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [表 14-1](#) の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 保存 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 保存 ] ボタンをクリックします)。

### 追加情報

P.14-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 着信 ACL の設定値

[表 14-1](#) で、着信 ACL の設定値について説明します。関連する手順については、P.14-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

**表 14-1 着信 ACL の設定値**

フィールド	説明
説明 (Description)	このパラメータは、ACL エントリの一般的な説明を指定します。
アドレスパターン (Address Pattern)	このパラメータは、着信ホストまたはドメインのアドレスやパターンを、IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名のいずれかで指定します。

## 着信 ACL エントリの削除

この項では、着信 ACL エントリの削除方法について説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [P.14-1 の「着信 ACL エントリの検索」](#)の手順に従い ACL エントリを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する ACL エントリを選択します。
- ステップ 3** ACL エントリを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ **選択項目の削除** ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ **選択項目の削除** ] ボタンをクリックします)。

ACL エントリが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。ACL エントリが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

---

### 追加情報

[P.14-4 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [着信 ACL エントリの検索 \(P.14-1\)](#)
- [着信 ACL の設定 \(P.14-3\)](#)
- [着信 ACL エントリの削除 \(P.14-4\)](#)



## 発信 ACL

発信アクセス コントロール リスト (ACL) を使用すると、Cisco Unified Presence からネットワークへアクセスできる発信ホストおよびドメインを制御するパターンを設定できます。

### 発信 ACL エントリの検索

ネットワークに ACL エントリが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の発信 ACL エントリを検索することができます。特定の ACL エントリを検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Presence ] > [ プロキシサーバ ] > [ 発信 ACL ] の順に選択します。

[ 許可されている宛先ホストの検索と一覧表示 (Find and List Allowed Destination Hosts) ] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- ドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注)

検索条件を追加するには、[ + ] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[ - ] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[ フィルタのクリア ] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



(注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択]をクリックしてから[選択項目の削除]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.15-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 発信 ACL の設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースで発信 ACL 情報を追加または更新する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- 発信 ACL エントリを追加するには、[ Cisco Unified Presence ] > [ プロキシサーバ ] > [ 発信 ACL ] の順に選択し、[ 新規追加 ] をクリックします。
- 発信 ACL エントリを更新するには、P.15-1 の「[発信 ACL エントリの検索](#)」の手順に従い ACL エントリを検索します。

[ 発信アクセスコントロールリストの設定 (Outgoing Access Control List Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [表 15-1](#) の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 保存 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 保存 ] ボタンをクリックします)。

### 追加情報

[P.15-4](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 発信 ACL の設定値

[表 15-1](#) で、発信 ACL の設定値について説明します。関連する手順については、[P.15-4](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

**表 15-1 発信 ACL の設定値**

フィールド	説明
説明 (Description)	このパラメータは、発信 ACL エントリの一般的な説明を指定します。
アドレスパターン (Address Pattern)	このパラメータは、発信ホストまたはドメインのアドレスやパターンを、IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名のいずれかで指定します。

## 発信 ACL エントリの削除

この項では、発信 ACL エントリの削除方法について説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.15-1 の「[発信 ACL エントリの検索](#)」の手順に従い ACL エントリを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する ACL エントリを選択します。
- ステップ 3** ACL エントリを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ [選択項目の削除](#) ] アイコンをクリックします（または、ウィンドウの下部に表示される [ [選択項目の削除](#) ] ボタンをクリックします）。

ACL エントリが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。ACL エントリが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

---

### 追加情報

P.15-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [発信 ACL エントリの検索](#) (P.15-1)
- [発信 ACL の設定](#) (P.15-3)
- [発信 ACL エントリの削除](#) (P.15-4)





## TLS コンテキストの設定

トランスポート リスナーには、単一のトランスポート レイヤ セキュリティ (TLS) コンテキストを個別に関連付けることができます。また、各 TLS コンテキストに複数の暗号とピア サブジェクトを持たせることができます。

TLS コンテキスト設定により、暗号とピア サブジェクトをトランスポート リスナーにマッピングできます。

### TLS コンテキストの検索

ネットワークに複数の TLS コンテキストが存在する可能性があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の TLS コンテキストを検索することができます。特定の TLS コンテキストを検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Presence ] > [ セキュリティ ] > [ TLS コンテキスト設定 ] の順に選択します。

[ TLS コンテキストの検索と一覧表示 (Find and List TLS Contexts) ] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- ドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



(注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択]をクリックしてから[選択項目の削除]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.16-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## TLS コンテキストの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースで TLS コンテキストを追加または更新する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- TLS コンテキストを追加するには、[ Cisco Unified Presence ] > [ セキュリティ ] > [ TLS コンテキスト設定 ] の順に選択し、[ 新規追加 ] をクリックします。
- TLS コンテキストを更新するには、P.16-1 の「[TLS コンテキストの検索](#)」の手順に従って TLS コンテキストを検索します。

[ TLS コンテキスト設定 (TLS Context Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [表 16-1](#) の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** 適切な TLS 暗号を選択するには、上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

**ステップ 4** 適切な TLS ピア サブジェクトを選択するには、上向きまたは下向きの矢印をクリックします。



**(注)** TLS コンテキストに対する変更を有効にするには、SIP プロキシ サーバを再起動する必要があります。プロキシ サーバを再起動するには、[ Cisco Unified Presence ] > [ プロキシサーバ ] > [ 設定 ] の順にクリックします。詳細については、[第 11 章「プロキシサーバの設定」](#)を参照してください。

**ステップ 5** データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 保存 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 保存 ] ボタンをクリックします)。


### 追加情報

[P.16-5 の「関連項目」](#)を参照してください。

## TLS コンテキストの設定値

表 16-1 で、TLS コンテキストの設定値について説明します。関連する手順については、P.16-5 の「関連項目」を参照してください。

表 16-1 TLS コンテキストの設定値

フィールド	説明
名前 (Name)	このパラメータは、関連付けられているトランスポート リスナーの一意の名前を指定します。
説明 (Description)	このパラメータは、TLS コンテキストの説明を指定します。
承認ポリシー (Authorization Policy)	このパラメータは、特定の TLS コンテキストに対する認証の種類を指定します。ドロップダウン リストから、 <b>SERVER</b> または <b>PEER</b> (デフォルト) を選択します。
TLS 暗号のマッピング (TLS Cipher Mapping)	これらのフィールドには、選択した TLS 暗号と使用可能な TLS 暗号が表示されます。
TLS ピアサブジェクトのマッピング (TLS Peer Subject Mapping)	これらのフィールドには、選択した TLS ピア サブジェクトの中から使用可能な TLS ピア サブジェクトが表示されます。
	 <p><b>(注)</b> TLS ピア サブジェクトは、TLS ピア サブジェクトのウィンドウで定義できます。</p>

## TLS コンテキストの削除

この項では、TLS コンテキストの削除方法を説明します。

### 手順

**ステップ 1** P.16-1 の「[TLS コンテキストの検索](#)」の手順に従い TLS コンテキストを検索します。

**ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する TLS コンテキストを選択します。



**(注)** TLS コンテキストに対する変更を有効にするには、SIP プロキシ サーバを再起動する必要があります。プロキシ サーバを再起動するには、[ Cisco Unified Presence ] > [ [プロキシサーバ](#) ] > [ [設定](#) ] の順にクリックします。詳細については、[第 11 章「プロキシサーバの設定」](#) を参照してください。

**ステップ 3** TLS コンテキストを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ [選択項目の削除](#) ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ [選択項目の削除](#) ] ボタンをクリックします)。

TLS コンテキストが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。TLS コンテキストが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

### 追加情報

[P.16-5 の「関連項目」](#) を参照してください。

## 関連項目

- [TLS コンテキストの検索 \(P.16-1\)](#)
- [TLS コンテキストの設定 \(P.16-3\)](#)
- [TLS コンテキストの削除 \(P.16-5\)](#)





## TLS ピア サブジェクト

TLS ピア サブジェクトのウィンドウにより、トランスポート リスナーに関連付けることのできるピア サブジェクトを作成および変更できます。

### TLS ピア サブジェクトの検索

ネットワークに複数の TLS ピア サブジェクトが存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件で特定の TLS ピア サブジェクトを検索することができます。特定の TLS ピア サブジェクトを検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Presence ] > [ セキュリティ ] > [ TLS ピアサブジェクト ] の順に選択します。

[ TLS ピアサブジェクトの検索と一覧表示 (Find and List TLS Peer Subjects) ] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- ドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注)

検索条件を追加するには、[ + ] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[ - ] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[ フィルタのクリア ] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



(注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択]をクリックしてから[選択項目の削除]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.17-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。



## TLS ピア サブジェクトの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースで TLS ピア サブジェクトを追加または更新する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- TLS ピア サブジェクトを追加するには、[ Cisco Unified Presence ] > [ セキュリティ ] > [ TLS ピアサブジェクト ] の順に選択し、[ 新規追加 ] をクリックします。
- TLS ピア サブジェクトを更新するには、P.17-1 の「TLS ピア サブジェクトの検索」の手順に従って TLS ピア サブジェクトを検索します。

[ TLS ピアサブジェクトの設定 (TLS Peer Subject Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 表 17-1 の説明に従って適切な設定を入力します。



**(注)** TLS ピア サブジェクトに対する変更を有効にするには、SIP プロキシ サーバを再起動する必要があります。プロキシ サーバを再起動するには、[ Cisco Unified Presence ] > [ プロキシサーバ ] > [ 設定 ] の順にクリックします。詳細については、第 11 章「プロキシサーバの設定」を参照してください。

**ステップ 3** データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 保存 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 保存 ] ボタンをクリックします)。

### 追加情報

P.17-4 の「関連項目」を参照してください。

## TLS ピア サブジェクトの設定値

表 17-1 で、TLS ピア サブジェクトの設定値について説明します。関連する手順については、P.17-4 の「関連項目」を参照してください。

表 17-1 TLS ピア サブジェクトの設定値

フィールド	説明
ピアサブジェクト名	このパラメータは、関連付けられる TLS ピア サブジェクトの一意の名前を指定します。
説明	このパラメータは、TLS ピア サブジェクトの説明を指定します。

## TLS ピア サブジェクトの削除

この項では、TLS ピア サブジェクトの削除方法を説明します。

### 手順

**ステップ 1** P.17-1 の「[TLS ピア サブジェクトの検索](#)」の手順に従い TLS ピア サブジェクトを検索します。

**ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する TLS ピア サブジェクトを選択します。



**(注)** TLS ピア サブジェクトに対する変更を有効にするには、SIP プロキシ サーバを再起動する必要があります。プロキシ サーバを再起動するには、[ Cisco Unified Presence ] > [ [プロキシ サーバ](#) ] > [ [設定](#) ] の順にクリックします。詳細については、[第 11 章「プロキシ サーバの設定」](#)を参照してください。

**ステップ 3** TLS ピア サブジェクトを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ [選択項目の削除](#) ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ [選択項目の削除](#) ] ボタンをクリックします)。

TLS ピア サブジェクトが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。TLS ピア サブジェクトが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

### 追加情報

[P.17-4 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [TLS ピア サブジェクトの検索 \(P.17-1\)](#)
- [TLS ピア サブジェクトの設定 \(P.17-3\)](#)
- [TLS ピア サブジェクトの削除 \(P.17-4\)](#)



## AXL 設定

---

AXL 設定のウィンドウを使用して、AXL のアプリケーション プログラミング インターフェイス (API) へアクセスするためのユーザ名とパスワードを設定します。[ AXL 設定 (AXL Configuration) ] ウィンドウを使用すると、インストール時に入力した AXL のユーザ名とパスワードを変更できます。

### AXL 設定値の設定

この項では、AXL のユーザ名とパスワードを設定する方法について説明します。



#### 注意

関連付けられている Cisco Unified Communications Manager の最初のノードで、Standard AXL API Access 権限が割り当てられているアプリケーション ユーザのユーザ名とパスワードを入力する必要があります。デフォルトでは、CCMAAdministrator というユーザ ID に Standard AXL API Access 権限が割り当てられています。

---

#### 手順

- ステップ 1** [ Cisco Unified Presence ] > [ セキュリティ ] > [ AXL 設定 ] の順に選択します。  
[ AXL 設定 (AXL Configuration) ] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** AXL のユーザ名とパスワードを入力します。
  - ステップ 3** 確認のため、AXL パスワードを再度入力します。
  - ステップ 4** 設定を保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 保存 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 保存 ] ボタンをクリックします)。
-





## トランスポート リスナー

SIP プロキシ サーバ、プレゼンス エンジン、およびプロファイル エージェントのトランスポート リスナーを設定できます。各トランスポート リスナーは、特定のアドレスとポートの組み合わせにバインドされます。TLS プロトコルを選択する場合、TLS コンテキストも選択する必要があります。

### トランスポート リスナーの検索

ネットワークにトランスポート リスナーが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のトランスポート リスナーを検索することができます。トランスポート リスナーを特定するには、次の手順を実行します。



**(注)** ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Presence ] > [ トランスポートリスナー ] の順に選択します。

[ トランスポートリスナーの検索と一覧表示 (Find and List Transport Listeners) ] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



(注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択] をクリックしてから [選択項目の削除] をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.19-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## トランスポートリスナーの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースでトランスポートリスナーを追加または更新する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

トランスポートリスナーを追加するには、[ Cisco Unified Presence ] > [ トランスポートリスナー ] の順に選択し、[ 新規追加 ] をクリックします。

- トランスポートリスナーを更新する場合、P.19-1 の「トランスポートリスナーの検索」の手順に従ってトランスポートリスナーを検索します。

[ トランスポートリスナーの設定 (Transport Listener Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 表 19-1 の説明に従って適切な設定を入力します。



**(注)** トランスポートリスナーに対する変更を有効にするには、SIP プロキシサーバを再起動する必要があります。プロキシサーバを再起動するには、[ Cisco Unified Presence ] > [ プロキシサーバ ] > [ 設定 ] の順にクリックします。詳細については、第 11 章「プロキシサーバの設定」を参照してください。

**ステップ 3** データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 保存 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 保存 ] ボタンをクリックします)。


### 追加情報

P.19-5 の「関連項目」を参照してください。

## トランスポート リスナーの設定値

表 19-1 で、トランスポート リスナーの設定値について説明します。関連する手順については、P.19-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 19-1 トランスポート リスナーの設定値

フィールド	説明
名前	このパラメータは、トランスポート リスナーの一意の名前を指定します。
ポート	このパラメータは、SIP トランスポートに対して設定されるポート番号を指定します。
プロトコルタイプ (Protocol Type)	このパラメータは、この SIP トランスポートに対するプロトコルタイプ (TCP、UDP、または TLS) を指定します。
サービスタイプ (Service Type)	このパラメータは、トランスポート リスナーのサービス タイプを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Proxy Server</li> <li>• Cisco Presence</li> <li>• Cisco Unified Client Profile Agent</li> </ul>
TLS コンテキスト (TLS Context)	このパラメータは、このトランスポート リスナーに関連付けられている TLS コンテキストを指定します。TLS プロトコルタイプを選択した場合に限り、このパラメータが適用されます。  <b>(注)</b> 使用可能な TLS コンテキストは、TLS コンテキスト設定のウィンドウで設定できます。



## トランスポートリスナーの削除

この項では、トランスポートリスナーの削除方法を説明します。

### 手順

**ステップ 1** P.19-1 の「[トランスポートリスナーの検索](#)」の手順に従いトランスポートリスナーを検索します。

**ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するトランスポートリスナーを選択します。



**(注)** トランスポートリスナーに対する変更を有効にするには、SIP プロキシサーバを再起動する必要があります。プロキシサーバを再起動するには、[ Cisco Unified Presence ] > [ [プロキシサーバ](#) ] > [ [設定](#) ] の順にクリックします。詳細については、[第 11 章「プロキシサーバの設定」](#)を参照してください。

**ステップ 3** トランスポートリスナーを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ [選択項目の削除](#) ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ [選択項目の削除](#) ] ボタンをクリックします)。

トランスポートリスナーが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。トランスポートリスナーが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

### 追加情報

[P.19-5 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [トランスポートリスナーの検索 \(P.19-1\)](#)
- [トランスポートリスナーの設定 \(P.19-3\)](#)
- [トランスポートリスナーの削除 \(P.19-5\)](#)





## クラスタ間ピア

---

1 つ以上の外部 Cisco Unified Presence クラスタ(ピア)を関連付けることにより、複数の Cisco Unified Presence クラスタ間でインスタントメッセージとプレゼンスステータスを送受信できるようになります。

### クラスタ間ピアの検索

ネットワークに複数のクラスタ間ピアが存在する可能性があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件で特定のクラスタ間ピアを検索することができます。特定のクラスタ間ピアを検索するには、次の手順を実行します。



**(注)** ブラウザセッションでの作業中、クライアントマシンの cookie により、検索/一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

---

**ステップ 1** [ Cisco Unified Presence ] > [ クラスタ間設定 ] の順に選択します。

[ クラスタ間ピアの検索と一覧表示 (Find and List Intercluster Peers) ] ウィンドウが表示されます。アクティブ(優先)クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#)に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウンリストボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウンリストボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



(注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択]をクリックしてから[選択項目の削除]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.20-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## クラスタ間ピアの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースでクラスタ間ピアを追加または更新する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

クラスタ間ピアを追加するには、[ Cisco Unified Presence ] > [ クラスタ間設定 ] の順に選択し、[ 新規追加 ] をクリックします。

- クラスタ間ピアを更新するには、P.20-1 の「クラスタ間ピアの検索」の手順に従ってクラスタ間ピアを検索します。

[ クラスタ間ピア設定 (Intercluster Peer Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 表 20-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 保存 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 保存 ] ボタンをクリックします)。


### 追加情報

P.20-4 の「関連項目」を参照してください。

## クラスタ間ピア設定の設定値

表 20-1 で、クラスタ間ピア設定の設定値について説明します。関連する手順については、P.20-4 の「関連項目」を参照してください。

表 20-1 クラスタ間ピア設定の設定値

フィールド	説明
ピアアドレス	ピアの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
ユーザ名	関連付けられている Cisco Unified Presence ピアの [ アプリケーションユーザ (Application User) ] のユーザ名を入力します。
パスワード	関連付けられている Cisco Unified Presence ピアの [ アプリケーションユーザ (Application User) ] のパスワードを入力します。
パスワードの確認	関連付けられている Cisco Unified Presence ピアの [ アプリケーションユーザ (Application User) ] のパスワードを再入力します。
強制同期	[ 強制同期 ] をクリックすると、Cisco Unified Presence をこのピアと強制的にデータ同期します。
	 <p>(注) このボタンは、クラスタ間ピアの正常な作成後にのみ表示されます。</p>

## クラスタ間ピアの削除

この項では、クラスタ間ピアを削除する方法について説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.20-1 の「[クラスタ間ピアの検索](#)」の手順に従いクラスタ間ピアを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するクラスタ間ピアを選択します。
- ステップ 3** クラスタ間ピアを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される[ [選択項目の削除](#) ] アイコンをクリックします（または、ウィンドウの下部に表示される [ [選択項目の削除](#) ] ボタンをクリックします）。

クラスタ間ピアが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。クラスタ間ピアが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

---

### 追加情報

P.20-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [クラスタ間ピアの検索](#) (P.20-1)
- [クラスタ間ピアの設定](#) (P.20-3)
- [クラスタ間ピア設定の設定値](#) (P.20-3)
- [クラスタ間ピアの削除](#) (P.20-4)



## **PART 4**

### **アプリケーションの設定**







# Cisco Unified Personal Communicator の設定

---

Cisco Unified Personal Communicator 設定のウィンドウを使用して、Cisco Unified Personal Communicator のすべてのユーザに適用する設定値を設定します。

## Cisco Unified Personal Communicator の設定値の設定

Cisco Unified Personal Communicator の設定値を設定するには、次の手順に従います。

### 手順

**ステップ 1** [アプリケーション]>[Cisco Unified Personal Communicator]>[ユーザ設定]の順に選択します。

Cisco Unified Personal Communicator の設定ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 表 21-1 の説明に従って適切な設定値を入力します。

**ステップ 3** [ディレクトリサーバタイプ (Directory Server Type)] ドロップダウン リストから、該当するディレクトリサーバタイプを選択します。

**ステップ 4** Cisco Unified Personal Communicator のアトリビュート名にマッピングする、自分の環境に適切な LDAP アトリビュート名を入力します。Cisco Unified Personal Communicator のアトリビュート名とそれに対応するデフォルトの LDAP 名のリストについては、表 21-2 を参照してください。



**(注)** 選択したディレクトリサーバタイプのアトリビュートマッピングフィールドをデフォルトにリセットするには、[デフォルトに戻す]をクリックします。

**ステップ 5** データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

---

表 21-1 Cisco Unified Personal Communicator の設定値


フィールド	説明
プライマリ TFTP サーバ (Primary TFTP Server)	このパラメータは、プライマリ TFTP サーバのアドレスを、完全修飾ドメイン名または IP アドレスのいずれかで指定します。 最大文字数：128
バックアップ TFTP サーバ (Backup TFTP Server)	このパラメータは、バックアップ TFTP サーバのアドレスを、完全修飾ドメイン名または IP アドレスのいずれかで指定します。 最大文字数：128
ディレクトリサーバタイプ (Directory Server Type)	このパラメータは、次のディレクトリ サーバのタイプから該当するタイプを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Microsoft Active Directory</li> <li>• Netscape または Sun ONE LDAP サーバ</li> </ul>  <b>(注)</b> 該当するディレクトリ サーバ タイプを選択すると、Cisco Unified Presence の管理ページに該当するパラメータ マッピング フィールドが表示されます。

表 21-2 デフォルトの LDAP アトリビュート マッピング

Cisco Unified Personal Communicator の [ ユーザ (User) ] フィールド	Microsoft Active Directory のデフォルトの LDAP マッピング名	Netscape または Sun ONE のデフォルトの LDAP マッピング名
UserID	sAMAccountName	uid
FirstName	givenName	givenName
LastName	sn	sn
MiddleName	middleName	initials
Nickname	Nickname	Nickname
Photo		jpegPhoto
Title	title	title
DisplayName	displayName	displayName
NamePrefix	namePrefix	namePrefix
NameSuffix		
Gender	gender	gender
BusinessEMail	mail	mail
BusinessPhoneNumber	telephoneNumber	telephoneNumber
BusinessVoiceMail		voicemail
BusinessMobilePhone	mobile	mobile
BusinessPager	pager	pager
BusinessFax	facsimileTelephoneNumber	facsimileTelephoneNumber
BusinessOtherPhone	otherTelephone	
HomeEMail		
HomeMobilePhone		
HomeFax	pager	
URL	url	labeledURI



## ユーザ設定

---

ユーザ設定のウィンドウを使用して、Cisco Unified Personal Communicator のさまざまなユーザ単位の設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のユーザを検索し、個々の設定値を変更できます。

### ユーザの検索

ネットワークにユーザが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のユーザを検索することができます。特定のユーザを検索するには、次の手順を実行します。



**(注)** ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [アプリケーション]>[Cisco Unified Personal Communicator]>[ユーザ設定]の順に選択します。

[Unified Personal Communicator のユーザ設定の検索と一覧表示 (Unified Personal Communicator User Settings Find and List)] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#)に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

### ステップ 3 [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



(注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンしてから[選択項目の削除]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択]をクリックしてから[選択項目の削除]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

### ステップ 4 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



ヒント [Unified Personal Communicator のユーザ設定の検索と一覧表示 (Unified Personal Communicator User Settings Find and List)] ウィンドウに、ユーザ単位の Cisco Unified Personal Communicator のクライアントバージョンが表示されます。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

### 追加情報

P.22-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースでユーザを追加または更新する方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** 次のタスクを実行します。

- ユーザを更新するには、P.22-1 の「[ユーザの検索](#)」の手順に従ってユーザを検索します。

[ Unified Personal Communicator のユーザ設定 (Unified Personal Communicator User Settings) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [表 22-1](#) の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** データを保存してユーザをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 保存 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 保存 ] ボタンをクリックします)。

---

### 追加情報

P.22-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザの設定値

表 22-1 で、ユーザ設定のパラメータについて説明します。関連する手順については、P.22-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 22-1 ユーザ設定のパラメータ

フィールド	説明
優先 CTI デバイス (Preferred CTI Device)	このパラメータは、ユーザが制御する使用可能なデバイスのドロップダウン リストを構成します。
Unity プロファイル (Unity Profile)	このパラメータは、使用可能な Cisco Unity プロファイルのドロップダウン リストを構成します。リストが空の場合は、Cisco Unified Personal Communicator の Cisco Unity プロファイルを設定する必要があります。
MeetingPlace プロファイル (MeetingPlace Profile)	このパラメータは、使用可能な Cisco MeetingPlace プロファイルのドロップダウン リストを構成します。リストが空の場合は、Cisco Unified Personal Communicator の Cisco MeetingPlace プロファイルを設定する必要があります。
CTI ゲートウェイプロファイル (CTI Gateway Profile)	このパラメータは、使用可能な Cisco CTI ゲートウェイ プロファイルのドロップダウン リストを構成します。リストが空の場合は、Cisco Unified Personal Communicator の Cisco CTI ゲートウェイ プロファイルを設定する必要があります。
LDAP プロファイル (LDAP Profile)	このパラメータは、使用可能な Cisco LDAP プロファイルのドロップダウン リストを構成します。リストが空の場合は、Cisco Unified Personal Communicator の Cisco LDAP プロファイルを設定する必要があります。
SIP プロキシプロファイル (SIP Proxy Profile)	このパラメータは、SIP プロキシ プロファイルのドロップダウン リストを構成しますが、空の場合もあります。

## ユーザの削除

この項では、ユーザの削除方法を説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.22-1 の「[ユーザの検索](#)」の手順に従いユーザを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するユーザを選択します。
- ステップ 3** ユーザを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ [選択項目の削除](#) ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ [選択項目の削除](#) ] ボタンをクリックします)。

ユーザが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。ユーザが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

---

### 追加情報

P.22-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [ユーザの検索](#) ( P.22-1 )
- [ユーザの設定](#) ( P.22-3 )
- [ユーザの削除](#) ( P.22-5 )







## Unity サーバ

---

Cisco Unity サーバのウィンドウを使用して、Cisco Unity に関連する設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のサーバを検索し、個々の設定値を変更できます。

### Cisco Unity サーバの検索

ネットワークに Cisco Unity サーバが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の Cisco Unity サーバを検索することができます。

特定の Cisco Unity サーバを検索するには、次の手順を実行します。



**(注)** ブラウザセッションでの作業中、クライアントマシンの cookie により、検索/一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

---

#### 手順

---

**ステップ 1** [アプリケーション]>[Cisco Unified Personal Communicator]>[Unity サーバ]の順に選択します。

[Unity ホストの検索と一覧表示 (Find and List Unity Hosts)]ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#)に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

### ステップ 3 [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



(注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択]をクリックしてから[選択項目の削除]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

### ステップ 4 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.23-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco Unity ホストの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースで Cisco Unity ホストを追加または更新する方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- ホストを追加するには、[ **アプリケーション** ]>[ **Cisco Unified Personal Communicator** ]>[ **Unity サーバ** ] の順に選択し、[ **新規追加** ] をクリックします。
- Cisco Unity ホストを更新するには、P.23-1 の「**Cisco Unity サーバの検索**」の手順に従ってホストを検索します。

[ **Unity ホストの設定 (Unity Host Configuration)** ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 表 23-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** データを保存して Cisco Unity ホストをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ **保存** ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ **保存** ] ボタンをクリックします)。

---

### 追加情報

P.23-5 の「**関連項目**」を参照してください。

## Cisco Unity サーバの設定値

表 23-1 で、Unity サーバの設定パラメータについて説明します。関連する手順については、P.23-5 の「関連項目」を参照してください。

表 23-1 Cisco Unity サーバの設定パラメータ

フィールド	説明
名前	このパラメータは、Cisco Unity ホストの名前を指定します。 最大文字数：128
説明	このパラメータは、Cisco Unity サーバの一般的な説明を示します。
ホスト名 /IP アドレス	このパラメータは、Cisco Unity ホストのホスト名または IP アドレスを指定します。
ポート	このパラメータは、Cisco Unity サーバに対して設定されるポート番号を指定します。 デフォルト：143
プロトコルタイプ (Protocol Type)	このパラメータは、Cisco Unity サーバへ接続する場合に使用するプロトコルを指定します。次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• TCP</li> <li>• UDP</li> <li>• TLS</li> <li>• SSL</li> </ul> デフォルト：UDP

## Cisco Unity サーバの削除

この項では、Cisco Unity サーバの削除方法を説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.23-1 の「[Cisco Unity サーバの検索](#)」の手順に従いサーバを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する Cisco Unity サーバを選択します。
- ステップ 3** Cisco Unity サーバを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 選択項目の削除 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 選択項目の削除 ] ボタンをクリックします)。

Cisco Unity サーバが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。Cisco Unity サーバが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

---

### 追加情報

[P.23-5 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [Cisco Unity サーバの検索 \(P.23-1\)](#)
- [Cisco Unity ホストの設定 \(P.23-3\)](#)
- [Cisco Unity サーバの削除 \(P.23-5\)](#)





## Unity プロファイル

Cisco Unity プロファイルのウィンドウを使用して、プライマリ サーバ、スタンバイ サーバ、プロファイルに関連付けられているユーザなど、Cisco Unity に関連する設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のプロファイルを検索し、個々の設定値を変更できます。

### Cisco Unity プロファイルの検索

ネットワークに Cisco Unity プロファイルが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて、特定の Cisco Unity プロファイルを検索することができます。特定の Cisco Unity プロファイルを検索するには、次の手順を実行します。



**(注)** ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [Unity プロファイル] の順に選択します。

[Unity プロファイルの設定 (Unity Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#)に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



(注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択]をクリックしてから[選択項目の削除]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.24-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。



## Cisco Unity プロファイルの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースで Cisco Unity プロファイルを追加または更新する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- Cisco Unity プロファイルを追加するには、[ **アプリケーション** ] > [ **Cisco Unified Personal Communicator** ] > [ **Unity プロファイル** ] の順に選択し、[ **新規追加** ] をクリックします。
- Cisco Unity プロファイルを更新するには、P.24-1 の「Cisco Unity プロファイルの検索」の手順に従ってプロファイルを検索します。

[ **Unity プロファイルの設定 (Unity Profile Configuration)** ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 表 24-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** ユーザと Cisco Unity プロファイルを関連付けるには、[ **プロファイルにユーザを追加** ] をクリックします。

[ **ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)** ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、**ステップ 5** に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



**(注)** 検索条件を追加するには、[ **+** ] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[ **-** ] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[ **フィルタのクリア** ] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 5** [ **検索** ] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ **ページあたりの行数** ] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。

**ステップ 6** レコードのリストから、Cisco Unity プロファイルに追加するユーザをクリックするか、または [ **すべてを選択** ] をクリックします。

**ステップ 7** ユーザを Cisco Unity プロファイルへ追加するには、[ **選択項目の追加** ] をクリックします。

**ステップ 8** [ **ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)** ] ウィンドウで、[ **閉じる** ] をクリックします。

- ステップ 9** データを保存して Cisco Unity プロファイルをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

### 追加情報

P.24-5 の「関連項目」を参照してください。

## Cisco Unity プロファイルの設定値

表 24-1 で、Unity プロファイルの設定パラメータについて説明します。関連する手順については、P.24-5 の「関連項目」を参照してください。

表 24-1 Cisco Unity プロファイルの設定パラメータ

フィールド	説明
名前 (Name)	このパラメータは、Cisco Unity プロファイルの名前を指定します。 最大文字数：128
説明 (Description)	このパラメータは、Cisco Unity プロファイルの一般的な説明を示します。 最大文字数：128
音声メッセージングパイロット (Voice Messaging Pilot)	このパラメータは、Cisco Unity プロファイルに関連付ける音声メッセージングパイロットを指定します。ドロップダウンリストから No Voice Mail を選択することもできます。
プライマリ Unity サーバ (Primary Unity Server)	このパラメータは、プライマリ Cisco Unity サーバを指定します。ドロップダウンリストで、定義済の Cisco Unity サーバから選択できます。
バックアップ Unity サーバ (Backup Unity Server)	このパラメータは、バックアップ Cisco Unity サーバを指定します。ドロップダウンリストで、定義済の Cisco Unity サーバから選択できます。バックアップ Cisco Unity サーバは 2 つ指定できます。

## Cisco Unity プロファイルの削除

この項では、Cisco Unity プロファイルの削除方法を説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.24-1 の「[Cisco Unity プロファイルの検索](#)」の手順に従い Cisco Unity プロファイルを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する Cisco Unity プロファイルを選択します。
- ステップ 3** Cisco Unity プロファイルを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ **選択項目の削除** ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ **選択項目の削除** ] ボタンをクリックします)。

Cisco Unity プロファイルが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。Cisco Unity プロファイルが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

---

### 追加情報

P.24-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [Cisco Unity プロファイルの検索 \(P.24-1\)](#)
- [Cisco Unity プロファイルの設定 \(P.24-3\)](#)
- [Cisco Unity プロファイルの削除 \(P.24-5\)](#)





## MeetingPlace サーバ

Cisco MeetingPlace サーバのウィンドウを使用して、Cisco MeetingPlace に関連する設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のサーバを検索し、個々の設定値を変更できます。

### Cisco MeetingPlace サーバの検索

ネットワークに Cisco MeetingPlace サーバが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の Cisco MeetingPlace サーバを検索することができます。特定の Cisco MeetingPlace サーバを検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザセッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [MeetingPlace サーバ] の順に選択します。

[MeetingPlace ホストの検索と一覧表示 (Find and List MeetingPlace Hosts)] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#)に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [ 検索 ] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ ページあたりの行数 ] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



**(注)** 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[ 選択項目の削除 ]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[ すべてを選択 ]をクリックしてから[ 選択項目の削除 ]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。

**(注)** ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

**追加情報**

P.25-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco MeetingPlace サーバの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースで Cisco MeetingPlace ホストを追加または更新する方法について説明します。

**手順****ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- Cisco MeetingPlace サーバを追加するには、[ アプリケーション ] > [ Cisco Unified Personal Communicator ] > [ MeetingPlace サーバ ] の順に選択し、[ 新規追加 ] をクリックします。
- Cisco MeetingPlace サーバを更新するには、P.25-1 の「[Cisco MeetingPlace サーバの検索](#)」の手順に従ってホストを検索します。

[ MeetingPlace ホストの設定 (MeetingPlace Host Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [表 25-1](#) の説明に従って適切な設定を入力します。**ステップ 3** データを保存して Cisco MeetingPlace サーバをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 保存 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 保存 ] ボタンをクリックします)。**追加情報**

P.25-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco MeetingPlace サーバの設定値

表 25-1 で、Cisco MeetingPlace サーバの設定パラメータについて説明します。関連する手順については、P.25-4 の「関連項目」を参照してください。

表 25-1 Cisco MeetingPlace サーバの設定パラメータ

フィールド	説明
名前	このパラメータは、Cisco MeetingPlace サーバの名前を指定します。 最大文字数：128
説明	このパラメータは、Cisco MeetingPlace サーバの一般的な説明を示します。 最大文字数：128
ホスト名/IP アドレス	このパラメータは、Cisco MeetingPlace ホストのホスト名または IP アドレスを指定します。
ポート	このパラメータは、Cisco MeetingPlace サーバに対して設定されるポート番号を指定します。 デフォルト：80
プロトコル (Protocol)	このパラメータは、Cisco MeetingPlace サーバへ接続する場合に使用するプロトコルを指定します。次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>HTTP</li> <li>HTTPS</li> </ul> デフォルト：HTTP

## Cisco MeetingPlace サーバの削除

この項では、Cisco MeetingPlace サーバの削除方法を説明します。

### 手順

- ステップ 1** P.25-1 の「Cisco MeetingPlace サーバの検索」の手順に従い、Cisco MeetingPlace サーバを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する Cisco MeetingPlace サーバを選択します。
- ステップ 3** Cisco MeetingPlace サーバを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 選択項目の削除 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 選択項目の削除 ] ボタンをクリックします)。

Cisco MeetingPlace サーバが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。Cisco MeetingPlace サーバが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

### 追加情報

P.25-4 の「関連項目」を参照してください。

## 関連項目

- [Cisco MeetingPlace サーバの検索 \( P.25-1 \)](#)
- [Cisco MeetingPlace サーバの設定 \( P.25-2 \)](#)
- [Cisco MeetingPlace サーバの削除 \( P.25-3 \)](#)





## MeetingPlace プロファイル

Cisco MeetingPlace プロファイルのウィンドウを使用して、プライマリ サーバ、スタンバイ サーバ、プロファイルに関連付けられているユーザなど、Cisco MeetingPlace に関連する設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のプロファイルを検索し、個々の設定値を変更できます。

### Cisco MeetingPlace プロファイルの検索

ネットワークに Cisco MeetingPlace プロファイルが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の Cisco MeetingPlace プロファイルを検索することができます。特定の Cisco MeetingPlace プロファイルを検索するには、次の手順を実行します。



**(注)** ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [MeetingPlace プロファイル] の順に選択します。

[MeetingPlace プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List MeetingPlace Profiles)] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#)に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



- (注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

### ステップ 3 [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



- (注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択]をクリックしてから[選択項目の削除]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

### ステップ 4 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



- (注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.26-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco MeetingPlace プロファイルの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースで Cisco MeetingPlace プロファイルを追加または更新する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- Cisco MeetingPlace プロファイルを追加するには、[ **アプリケーション** ]>[ **Cisco Unified Personal Communicator** ]>[ **MeetingPlace プロファイル** ]の順に選択し、[ **新規追加** ]をクリックします。
- Cisco MeetingPlace プロファイルを更新する場合、P.26-1 の「**Cisco MeetingPlace プロファイルの検索**」の手順に従ってプロファイルを検索します。

[ **MeetingPlace プロファイルの設定 (MeetingPlace Profile Configuration)** ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 表 26-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** ユーザと Cisco MeetingPlace プロファイルを関連付けるには、[ **プロファイルにユーザを追加** ]をクリックします。

[ **ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)** ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、**ステップ 5** に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



**(注)** 検索条件を追加するには、[ **+** ] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[ **-** ] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[ **フィルタのクリア** ] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 5** [ **検索** ] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ **ページあたりの行数** ] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。

**ステップ 6** レコードのリストから、Cisco MeetingPlace プロファイルに追加するユーザをクリックするか、または [ **すべてを選択** ] をクリックします。

**ステップ 7** ユーザを Cisco MeetingPlace プロファイルへ追加するには、[ **選択項目の追加** ] をクリックします。

**ステップ 8** [ **ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)** ] ウィンドウで、[ **閉じる** ] をクリックします。

- ステップ 9** データを保存して Cisco MeetingPlace プロファイルをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

#### 追加情報

P.26-5 の「関連項目」を参照してください。

## Cisco MeetingPlace プロファイルの設定値

表 26-1 で、Cisco MeetingPlace プロファイルの設定パラメータについて説明します。関連する手順については、P.26-5 の「関連項目」を参照してください。

表 26-1 Cisco MeetingPlace プロファイルの設定パラメータ

フィールド	説明
名前	このパラメータは、Cisco MeetingPlace プロファイルの名前を指定します。 最大文字数：128
説明	このパラメータは、Cisco MeetingPlace プロファイルの一般的な説明を示します。 最大文字数：128
プライマリ MeetingPlace サーバ (Primary MeetingPlace Server)	このパラメータは、プライマリ Cisco MeetingPlace サーバを指定します。ドロップダウン リストで、定義済の Cisco MeetingPlace サーバから選択できます。
バックアップ MeetingPlace サーバ (Backup MeetingPlace Server)	このパラメータは、バックアップ Cisco MeetingPlace サーバを指定します。ドロップダウン リストで、定義済の Cisco MeetingPlace サーバから選択できます。バックアップ Cisco MeetingPlace サーバは 2 つ指定できます。

## Cisco MeetingPlace プロファイルの削除

この項では、Cisco MeetingPlace プロファイルの削除方法を説明します。

### 手順

- ステップ 1** P.26-1 の「[Cisco MeetingPlace プロファイルの検索](#)」の手順に従い Cisco MeetingPlace プロファイルを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する Cisco MeetingPlace プロファイルを選択します。
- ステップ 3** プロファイルを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ [選択項目の削除](#) ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ [選択項目の削除](#) ] ボタンをクリックします)。

Cisco MeetingPlace プロファイルが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。Cisco MeetingPlace プロファイルが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

### 追加情報

P.26-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [Cisco MeetingPlace プロファイルの検索 \(P.26-1\)](#)
- [Cisco MeetingPlace プロファイルの設定 \(P.26-3\)](#)
- [Cisco MeetingPlace プロファイルの削除 \(P.26-5\)](#)





## CTI ゲートウェイ サーバ

CTI ゲートウェイ サーバのウィンドウを使用して、CTI ゲートウェイに関連する設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のサーバを検索し、個々の設定値を変更できます。

### CTI ゲートウェイ サーバの検索

ネットワークに CTI ゲートウェイ サーバが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の CTI ゲートウェイ サーバを検索することができます。特定の CTI ゲートウェイ サーバを検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザセッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイサーバ] の順に選択します。

[CTI ゲートウェイホストの検索と一覧表示 (Find and List CTI Gateway Hosts)] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#)に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



(注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択]をクリックしてから[選択項目の削除]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.27-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。



## CTI ゲートウェイ サーバの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースで CTI ゲートウェイ サーバを追加または更新する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- CTI ゲートウェイを追加するには、[ **アプリケーション** ] > [ **Cisco Unified Personal Communicator** ] > [ **CTI ゲートウェイサーバ** ] の順に選択し、[ **新規追加** ] をクリックします。
- CTI ゲートウェイ ホストを更新する場合、P.27-1 の「**CTI ゲートウェイ サーバの検索**」の手順に従ってホストを検索します。

[ **CTI ゲートウェイホストの設定 (CTI Gateway Host Configuration)** ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 表 27-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** データを保存して CTI ゲートウェイ ホストをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ **保存** ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下に表示される [ **保存** ] ボタンをクリックします)。

### 追加情報

P.27-4 の「**関連項目**」を参照してください。

## CTI ゲートウェイ サーバの設定値

表 27-1 で、CTI ゲートウェイの設定パラメータについて説明します。関連する手順については、P.27-4 の「**関連項目**」を参照してください。

表 27-1 CTI ゲートウェイ サーバの設定パラメータ

フィールド	説明
名前	このパラメータは、CTI ゲートウェイ サーバの名前を指定します。
説明	このパラメータは、CTI ゲートウェイ サーバの一般的な説明を示します。
ホスト名 /IP アドレス	このパラメータは、CTI ゲートウェイ ホストのホスト名または IP アドレスを指定します。
ポート	このパラメータは、CTI ゲートウェイ サーバに対して設定されるポート番号を指定します。 デフォルト：2748
プロトコルタイプ (Protocol Type)	このパラメータは、CTI ゲートウェイ サーバへ接続する場合に使用するプロトコルを指定します。次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• TCP</li> <li>• TLS</li> </ul> デフォルト：TCP

## CTI ゲートウェイ サーバの削除

この項では、CTI ゲートウェイ サーバの削除方法を説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [P.27-1 の「CTI ゲートウェイ サーバの検索」](#)の手順に従い CTI ゲートウェイ サーバを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する CTI ゲートウェイ サーバを選択します。
- ステップ 3** CTI ゲートウェイを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 選択項目の削除 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 選択項目の削除 ] ボタンをクリックします)。

CTI ゲートウェイ サーバが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。CTI ゲートウェイ サーバが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

---

### 追加情報

[P.27-4 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [CTI ゲートウェイ サーバの検索 \( P.27-1 \)](#)
- [CTI ゲートウェイ サーバの設定 \( P.27-3 \)](#)
- [CTI ゲートウェイ サーバの削除 \( P.27-4 \)](#)



## CTI ゲートウェイ プロファイル

CTI ゲートウェイ プロファイルのウィンドウを使用して、プライマリ サーバ、スタンバイ サーバ、プロファイルに関連付けられているユーザなど、CTI ゲートウェイ に関連する設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のプロファイルを検索し、個々の設定値を変更できます。

### CTI ゲートウェイ プロファイルの検索

ネットワークに CTI ゲートウェイ プロファイルが複数存在する場合があります。Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の CTI ゲートウェイ プロファイルを検索することができます。特定の CTI ゲートウェイ プロファイルを検索するには、次の手順を実行します。



**(注)** ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [CTI ゲートウェイプロファイル] の順に選択します。

[CTI ゲートウェイプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List CTI Gateway Profiles)] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



- (注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

### ステップ 3 [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



- (注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択]をクリックしてから[選択項目の削除]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

### ステップ 4 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



- (注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.28-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## CTI ゲートウェイ プロファイルの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースで CTI ゲートウェイ プロファイルを追加または更新する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- CTI ゲートウェイ プロファイルを追加するには、[ **アプリケーション** ] > [ **Cisco Unified Personal Communicator** ] > [ **CTI ゲートウェイプロファイル** ] の順に選択し、[ **新規追加** ] をクリックします。
- CTI ゲートウェイ プロファイルを更新するには、P.28-1 の「**CTI ゲートウェイ プロファイルの検索**」の手順に従ってプロファイルを検索します。

[ **CTI ゲートウェイプロファイルの設定 (CTI Gateway Profile Configuration)** ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 表 28-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** ユーザと CTI ゲートウェイ プロファイルを関連付けるには、[ **プロファイルにユーザを追加** ] をクリックします。

[ **ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)** ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、**ステップ 5** に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



**(注)** 検索条件を追加するには、[ **+** ] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[ **-** ] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[ **フィルタのクリア** ] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 5** [ **検索** ] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ **ページあたりの行数** ] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。

**ステップ 6** レコードのリストから、CTI ゲートウェイ プロファイルに追加するユーザをクリックするか、または [ **すべてを選択** ] をクリックします。

**ステップ 7** ユーザを CTI ゲートウェイ プロファイルへ追加するには、[ **選択項目の追加** ] をクリックします。

**ステップ 8** [ **ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)** ] ウィンドウで、[ **閉じる** ] をクリックします。

- ステップ 9** データを保存して CTI ゲートウェイ プロファイルをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

#### 追加情報

P.28-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## CTI ゲートウェイ プロファイルの設定値

表 28-1 で、CTI ゲートウェイ プロファイルの設定パラメータについて説明します。関連する手順については、P.28-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 28-1 CTI ゲートウェイ プロファイルの設定パラメータ

フィールド	説明
名前	このパラメータは、CTI ゲートウェイ プロファイルの名前を指定します。
説明	このパラメータは、CTI ゲートウェイ プロファイルの一般的な説明を示します。
プライマリ CTI ゲートウェイサーバ (Primary CTI Gateway Server)	このパラメータは、プライマリ CTI ゲートウェイ サーバを指定します。ドロップダウン リストで、定義済の CTI ゲートウェイ サーバから選択できます。
バックアップ CTI ゲートウェイサーバ (Backup CTI Gateway Server)	このパラメータは、バックアップ CTI ゲートウェイ サーバを指定します。ドロップダウン リストで、定義済の CTI ゲートウェイ サーバから選択できます。バックアップ CTI ゲートウェイ サーバは 2 つ指定できます。

## CTI ゲートウェイ プロファイルの削除

この項では、CTI ゲートウェイ プロファイルの削除方法を説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.28-1 の「[CTI ゲートウェイ プロファイルの検索](#)」の手順に従い CTI ゲートウェイ プロファイルを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する CTI ゲートウェイ プロファイルを選択します。
- ステップ 3** CTI ゲートウェイ プロファイルを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ [選択項目の削除](#) ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ [選択項目の削除](#) ] ボタンをクリックします)。

CTI ゲートウェイ プロファイルが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。CTI ゲートウェイ プロファイルが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

---

### 追加情報

P.28-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [CTI ゲートウェイ プロファイルの検索 \(P.28-1\)](#)
- [CTI ゲートウェイ プロファイルの設定 \(P.28-3\)](#)
- [CTI ゲートウェイ プロファイルの削除 \(P.28-5\)](#)







## LDAP サーバ

LDAP サーバのウィンドウを使用して、LDAP サーバに関する設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のサーバを検索し、個々の設定値を変更できます。

### LDAP サーバの検索

ネットワークに複数の LDAP サーバが存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の LDAP サーバを検索することができます。特定の LDAP サーバを検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザセッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [LDAP サーバ] の順に選択します。

[LDAP ホストの検索と一覧表示 (Find and List Ldap Hosts)] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [ 検索 ] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ ページあたりの行数 ] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



(注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[ 選択項目の削除 ] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[ すべてを選択 ] をクリックしてから [ 選択項目の削除 ] をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.29-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## LDAP サーバの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースで LDAP ホストを追加または更新する方法について説明します。

#### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- LDAP サーバを追加するには、[ アプリケーション ] > [ Cisco Unified Personal Communicator ] > [ LDAP サーバ ] の順に選択し、[ 新規追加 ] をクリックします。
- LDAP ホストを更新するには、P.29-1 の「[LDAP サーバの検索](#)」の手順に従ってホストを検索します。

[ LDAP ホストの設定 (Ldap Host Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [表 29-1](#) の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** データを保存して LDAP ホストをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 保存 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 保存 ] ボタンをクリックします)。

#### 追加情報

P.29-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## LDAP サーバの設定値

表 29-1 で、LDAP の設定パラメータについて説明します。関連する手順については、P.29-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 29-1 LDAP サーバの設定パラメータ

フィールド	説明
名前	このパラメータは、LDAP サーバの名前を指定します。
説明	このパラメータは、LDAP サーバの一般的な説明を示します。
ホスト名/IP アドレス	このパラメータは、LDAP サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
ポート	このパラメータは、LDAP サーバに対して設定されるポート番号を指定します。 デフォルトのポート番号：389
プロトコルタイプ (Protocol Type)	このパラメータは、LDAP サーバへ接続する場合に使用するプロトコルを指定します。次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• TCP</li> <li>• UDP</li> <li>• TLS</li> </ul> デフォルト：TCP

## LDAP サーバの削除

この項では、LDAP サーバの削除方法を説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.29-1 の「[LDAP サーバの検索](#)」の手順に従い LDAP サーバを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する LDAP サーバを選択します。
- ステップ 3** LDAP サーバを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ [選択項目の削除](#) ] アイコンをクリックします（または、ウィンドウの下部に表示される [ [選択項目の削除](#) ] ボタンをクリックします）。

LDAP サーバが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。LDAP サーバが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

---

### 追加情報

P.29-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [LDAP サーバの検索 \(P.29-1\)](#)
- [LDAP サーバの設定 \(P.29-2\)](#)
- [LDAP サーバの削除 \(P.29-3\)](#)



## LDAP プロファイル

LDAP プロファイルのウィンドウを使用して、LDAP のディレクトリ情報、LDAP の検索コンテキスト情報、LDAP サーバの情報、およびプロファイルに関連付けられるユーザなどを設定します。このウィンドウを使用して特定のプロファイルを検索し、個々の設定値を変更できます。

### LDAP プロファイルの検索

ネットワークに複数の LDAP プロファイルが存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の LDAP プロファイルを検索することができます。特定の LDAP プロファイルを検索するには、次の手順を実行します。



**(注)** ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [LDAP プロファイル] の順に選択します。

[LDAP プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Ldap Profiles)] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



(注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択]をクリックしてから[選択項目の削除]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.30-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## LDAP プロファイルの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースで LDAP プロファイルを追加または更新する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- LDAP プロファイルを追加するには、[ **アプリケーション** ] > [ **Cisco Unified Personal Communicator** ] > [ **LDAP プロファイル** ] の順に選択し、[ **新規追加** ] をクリックします。
- LDAP プロファイルを更新するには、P.30-1 の「**LDAP プロファイルの検索**」の手順に従ってプロファイルを検索します。

[ LDAP プロファイルの設定 (LDAP Profile Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 表 30-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** ユーザと LDAP プロファイルを関連付けるには、[ **プロファイルにユーザを追加** ] をクリックします。

[ ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、**ステップ 5** に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



**(注)** 検索条件を追加するには、[ **+** ] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[ **-** ] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[ **フィルタのクリア** ] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 5** [ **検索** ] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ ページあたりの行数 ] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。

**ステップ 6** レコードのリストから、LDAP プロファイルに追加するユーザをクリックするか、または [ **すべてを選択** ] をクリックします。

**ステップ 7** ユーザを LDAP プロファイルへ追加するには、[ **選択項目の追加** ] をクリックします。

**ステップ 8** [ ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users) ] ウィンドウで [ **閉じる** ] をクリックします。

- ステップ 9** データを保存して LDAP プロファイルをデータベース プロファイルに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

### 追加情報

P.30-5 の「関連項目」を参照してください。

## LDAP プロファイルの設定値

表 30-1 で、LDAP プロファイルの設定パラメータについて説明します。関連する手順については、P.30-5 の「関連項目」を参照してください。

表 30-1 LDAP プロファイルの設定パラメータ

フィールド	説明
<b>LDAP プロファイル情報 (LDAP Profile Information)</b>	
名前	このパラメータは、LDAP プロファイルの名前を指定します。 最大文字数：128
説明	このパラメータは、LDAP プロファイルの一般的な説明を示します。 最大文字数：128
識別名 (DN) をバインド (Bind Distinguished Name(DN))	このパラメータは、管理者レベルのアカウント情報を <i>useraccount@domain.com</i> の形式で指定します。これは、認証済バインドに対する識別名 (DN) を表します。 最大文字数：128
パスワード (Password)	このパラメータは、LDAP 管理者のユーザ名に対するパスワードを指定します。 最大文字数：128
パスワードの確認 (Confirm Password、半角英数のみ)	このパラメータは、LDAP 管理者のユーザ名に対するパスワードを確認します。 最大文字数：128
Anonymous バインド (Anonymous Bind)	[ Anonymous バインド (Anonymous Bind) ] チェックボックスをオンにすると、ユーザはこの LDAP サーバに読み取り専用アクセスで匿名ログインできます。ユーザの資格情報を使用して LDAP サーバにログインするには、このチェックボックスをオフにします。
検索コンテキスト (Search Context)	このパラメータは、すべての LDAP ユーザが存在する場所を、コンテナまたはディレクトリで指定します。 最大文字数：128
再帰検索 (Recursive Search)	検索ベースで始まるディレクトリの再帰検索を実行するには、[ 再帰検索 (Recursive Search) ] チェックボックスをオンにします。
プライマリ LDAP サーバ (Primary Ldap Server)	このパラメータは、プライマリ LDAP サーバを指定します。ドロップダウン リストで、定義済の LDAP サーバから選択できます。
バックアップ LDAP サーバ (Backup Ldap Server)	このパラメータは、バックアップ LDAP サーバを指定します。ドロップダウン リストで、定義済の LDAP サーバから選択できます。バックアップ LDAP サーバは 2 つ指定できます。



## LDAP プロファイルの削除

この項では、LDAP プロファイルの削除方法を説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.30-1 の「LDAP プロファイルの検索」の手順に従い LDAP プロファイルを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する LDAP プロファイルを選択します。
- ステップ 3** プロファイルを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 選択項目の削除 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 選択項目の削除 ] ボタンをクリックします)。

LDAP プロファイルが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。LDAP プロファイルが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

---

### 追加情報

P.30-5 の「関連項目」を参照してください。

## 関連項目

- LDAP プロファイルの検索 ( P.30-1 )
- LDAP プロファイルの設定 ( P.30-3 )
- LDAP プロファイルの削除 ( P.30-5 )





## プロキシ プロファイル

プロキシ プロファイルのウィンドウを使用して、プライマリ サーバ、スタンバイ サーバ、プロファイルに関連付けられているユーザなど、SIP プロキシ サーバに関連する設定値を設定します。このウィンドウを使用して特定のプロファイルを検索し、個々の設定値を変更できます。

### プロキシ プロファイルの検索

ネットワークに複数のプロキシ プロファイルが存在する可能性があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のプロキシ プロファイルを検索することができます。特定のプロキシ プロファイルを検索するには、次の手順を実行します。



**(注)** ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [アプリケーション] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [プロキシプロファイル] の順に選択します。

[プロキシプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Proxy Profiles)] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



(注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択]をクリックしてから[選択項目の削除]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.31-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## プロキシ プロファイルの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースでプロキシ プロファイルを追加または更新する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- プロキシ プロファイルを追加するには、[ **アプリケーション** ] > [ **Cisco Unified Personal Communicator** ] > [ **プロキシプロファイル** ] の順に選択し、[ **新規追加** ] をクリックします。
- プロキシ プロファイルを更新する場合、P.31-1 の「**プロキシ プロファイルの検索**」の手順に従ってプロファイルを検索します。

[ **プロキシプロファイルの設定 (Proxy Profile Configuration)** ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 表 31-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** ユーザとプロキシ プロファイルを関連付けるには、[ **プロファイルにユーザを追加** ] をクリックします。

[ **ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)** ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、**ステップ 5** に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



**(注)** 検索条件を追加するには、[ **+** ] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[ **-** ] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[ **フィルタのクリア** ] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 5** [ **検索** ] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ **ページあたりの行数** ] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。

**ステップ 6** レコードのリストから、プロキシ プロファイルに追加するユーザをクリックするか、または[ **すべてを選択** ] をクリックします。

**ステップ 7** ユーザをプロキシ プロファイルへ追加するには、[ **選択項目の追加** ] をクリックします。

**ステップ 8** [ **ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)** ] ウィンドウで、[ **閉じる** ] をクリックします。

- ステップ 9** データを保存してプロキシ プロファイルをデータベースに追加するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

### 追加情報

P.31-5 の「関連項目」を参照してください。

## プロキシ プロファイルの設定値

表 31-1 で、プロキシ プロファイルの設定パラメータについて説明します。関連する手順については、P.31-5 の「関連項目」を参照してください。

表 31-1 プロキシ プロファイルの設定パラメータ

フィールド	説明
名前	このパラメータは、プロキシ プロファイルの名前を指定します。
説明	このパラメータは、プロキシ プロファイルの一般的な説明を示します。
プロキシリスナー (Proxy Listener)	このパラメータは、プロキシ リスナーを指定します。ドロップダウン メニューから、次のプロキシ リスナーのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Default Cisco SIP Proxy TCP Listener</li> <li>Default Cisco SIP Proxy TLS Listener-Peer Auth</li> <li>Default Cisco SIP Proxy TLS Listener-Server Auth</li> <li>Default Cisco SIP Proxy UDP Listener</li> </ul>
プライマリプロキシサーバ (Primary Proxy Server)	このパラメータは、プライマリ プロキシ サーバを指定します。ドロップダウン リストで、定義済みのプロキシ サーバから選択できます。
バックアッププロキシサーバ (Backup Proxy Server)	このパラメータは、バックアップ プロキシ サーバを指定します。ドロップダウン リストで、定義済みのプロキシ サーバから選択できます。バックアップ プロキシ サーバは 2 つ指定できます。

## プロキシ プロファイルの削除

この項では、プロキシ プロファイルの削除方法を説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.31-1 の「[プロキシ プロファイルの検索](#)」の手順に従いプロキシ プロファイルを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するプロキシ プロファイルを選択します。
- ステップ 3** プロファイルを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ [選択項目の削除](#) ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ [選択項目の削除](#) ] ボタンをクリックします)。

プロキシ プロファイルが使用中でない場合は、Cisco Unified Presence により削除されます。プロキシ プロファイルが使用中の場合は、メッセージが表示されます。

---

### 追加情報

[P.31-5 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [プロキシ プロファイルの検索 \(P.31-1\)](#)
- [プロキシ プロファイルの設定 \(P.31-3\)](#)
- [プロキシ プロファイルの削除 \(P.31-5\)](#)







## CTI ゲートウェイの設定

CTI (Computer Telephony Interface) ゲートウェイの設定のウィンドウを使用して、CTI ゲートウェイに適用する設定値を設定します。

### CTI ゲートウェイの設定値の設定

CTI ゲートウェイの設定値を設定するには、次の手順に従います。

#### 手順

**ステップ 1** [アプリケーション] > [CTI ゲートウェイ] > [設定] の順に選択します。

[CTI ゲートウェイ設定 (CTI Gateway Settings)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 表 32-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

表 32-1 IP Phone Messenger の設定値




フィールド	説明
アプリケーションのステータス (Application Status)	CTI ゲートウェイ アプリケーションのオンとオフを切り替えるには、ドロップダウン リスト ボックスから [オン] または [オフ] を選択します。
アプリケーションユーザ名 (Application Username)	このパラメータは、CTI ゲートウェイ アプリケーションのユーザ名を指定します。  <b>(注)</b> このユーザ名は、Cisco Unified Communications Manager クラスタで設定したアプリケーション ユーザ名と一致する必要があります。

表 32-1 IP Phone Messenger の設定値 (続き)

フィールド	説明
アプリケーションパスワード (Application Password)	このパラメータは、CTI ゲートウェイ アプリケーションのパスワードを指定します。   <b>(注)</b> このパスワードは、Cisco Unified Communications Manager クラスタで設定したアプリケーションのパスワードと一致する必要があります。
ハートビート間隔 (Heartbeat Interval、秒)	このパラメータは、ハートビート間隔を秒単位で指定します。 範囲：5 ~ 20 秒 デフォルト：8 秒
セッションタイマー (Session Timer、秒)	このパラメータは、セッション タイマーの値を秒単位で指定します。 範囲：1810 ~ 2000 秒 デフォルト：1810 秒
Cisco Unified Communications Manager アドレス (1-8)	このパラメータは、接続する Cisco Unified Communications Manager サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。   <b>(注)</b> CTI ゲートウェイに接続する Cisco Unified Communication Manager サーバは、最大 8 台設定できます。

## 関連項目

[CTI ゲートウェイの設定値の設定 \(P.32-1\)](#)



## MOC 割り当て

MOC 割り当てのウィンドウを使用して、Microsoft Office Communicator (MOC) の機能を持つ Cisco Unified Presence ユーザを表示します。MOC 機能は、ユーザ単位で、または一括割り当ての機能を使用して、有効または無効にできます。

### MOC 割り当ての検索および設定

ネットワークに MOC 機能を持つユーザが複数存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のユーザを検索することができます。MOC 機能を持つユーザを検索するには、次の手順を実行します。



**(注)** ブラウザセッションでの作業中、クライアントマシンの cookie により、検索/一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [アプリケーション] > [CTI ゲートウェイ] > [MOC 割り当て] の順に選択します。

[MOC 割り当ての検索と一覧表示 (Find and List MOC Assignments)] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



- (注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



- (注) 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択]をクリックしてから[選択項目の削除]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



- (注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

**ステップ 5** MOC 機能を割り当てるには、[MOC(Microsoft Office Communicator) を有効にする] チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** [保存] をクリックします。

---

**追加情報**

P.33-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 一括割り当ての使用

複数ユーザの MOC 機能を有効または無効にするには、次の手順に従います。

### 手順

**ステップ 1** [アプリケーション] > [CTI ゲートウェイ] > [MOC 割り当て] の順に選択します。

[MOC 割り当ての検索と一覧表示 (Find and List MOC Assignments)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



**(注)** 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



**(注)** 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択]をクリックしてから[選択項目の削除]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件に一致するユーザのチェックボックスをオンにするか、または[すべてを選択]をクリックします。

**ステップ 5** [一括割り当て] をクリックします。

**ステップ 6** 選択したユーザの MOC 割り当てを有効または無効にするには、表示されるウィンドウで[MOC を有効化 (Microsoft Office Communicator)] チェックボックスをオンまたはオフにします。

**ステップ 7** [保存] をクリックするか、または選択したユーザの MOC 割り当てをそのままにする場合は[閉じる] をクリックします。

### 追加情報

[P.33-4 の「関連項目」](#) を参照してください。

## 関連項目

- [MOC 割り当ての検索および設定 \(P.33-1\)](#)
- [一括割り当ての使用 \(P.33-3\)](#)



## IP Phone Messenger のステータス

IP Phone Messenger ( IPPM ) のステータスのウィンドウを使用して、エンド ユーザのログイン ステータスの表示、ブロードキャスト メッセージの送信、単独または複数のエンドユーザに対する IPPM からの強制的なログアウトなどを実行します。

### IP Phone Messenger のエンドユーザ ステータスの検索

ネットワークに複数の IPPM ユーザが存在する場合があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の IPPM ユーザを検索することができます。特定の IPPM ユーザを検索し、ログイン ステータスを表示するには、次の手順に従います。



**(注)** ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [ アプリケーション ] > [ IP Phone Messenger ] > [ ステータス ] の順に選択します。

アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、**ステップ 3** に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



**(注)** 検索条件を追加するには、[ + ] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[ - ] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[ フィルタのクリア ] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [ 検索 ] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ ページあたりの行数 ] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



**(注)** 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[ 選択項目の削除 ]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[ すべてを選択 ] をクリックしてから [ 選択項目の削除 ] をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



**(注)** ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.34-3 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## IPPM エンドユーザのログアウト

この項では、IPPM エンド ユーザのログアウト方法について説明します。

#### 手順

**ステップ 1** IPPM エンド ユーザをログアウトさせるには、P.34-1 の「[IP Phone Messenger のエンドユーザ ステータスの検索](#)」の手順に従い IPPM エンドユーザを検索します。

**ステップ 2** ログアウトさせるエンド ユーザを選択するか、または [ すべてを選択 ] をクリックします。

**ステップ 3** [ ログアウト ] をクリックします。

ユーザをログアウトさせるかどうか確認するプロンプトが表示されます。

**ステップ 4** [ OK ] をクリックしてユーザをログアウトさせるか、または [ キャンセル ] をクリックしてユーザをログアウトさせずに終了します。



## ブロードキャストメッセージの送信

この項では、単独または複数の IPPM エンド ユーザにブロードキャスト メッセージを送信する方法について説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1** 単独または複数の IPPM エンド ユーザにブロードキャスト メッセージを送信するには、[P.34-1 の「IP Phone Messenger のエンドユーザ ステータスの検索」](#)の手順に従って IPPM エンド ユーザを検索します。
- ステップ 2** ブロードキャスト メッセージを送信する IPPM エンド ユーザを選択するか、または **[すべてを選択]** をクリックします。
- ステップ 3** Msg ボックスに、ブロードキャスト メッセージのテキストを入力します。
- ステップ 4** **[ブロードキャスト]** をクリックします。
- ブロードキャスト メッセージを送信するかどうか確認するプロンプトが表示されます。
- ステップ 5** **[OK]** をクリックしてメッセージを送信するか、**[キャンセル]** をクリックしてメッセージを送信せずに終了します。
- 

### 追加情報

[P.34-3 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [IP Phone Messenger のエンドユーザ ステータスの検索 \(P.34-1\)](#)
- [IPPM エンドユーザのログアウト \(P.34-2\)](#)
- [ブロードキャストメッセージの送信 \(P.34-3\)](#)





## IP Phone Messenger の設定

---

IP Phone Messenger ( IPPM ) の設定のウィンドウを使用して、すべての IPPM ユーザに適用する設定値を設定します。

### IPPM 設定値の設定

IPPM 設定値を設定するには、次の手順に従います。

#### 手順

---

**ステップ 1** [ アプリケーション ] > [ IP Phone Messenger ] > [ 設定 ] の順に選択します。

[ IP Phone Messenger の設定 (IP Phone Messenger Settings) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 表 35-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 保存 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 保存 ] ボタンをクリックします)。

---

表 35-1 IP Phone Messenger の設定値

フィールド	説明
IPPM アプリケーションステータス (IPPM Application Status)	このパラメータは、アプリケーションのオンとオフを切り替えます。
アプリケーションユーザ名 (Application Username)	このパラメータは、デフォルトのアプリケーション ユーザ名を指定します。
アプリケーションパスワード (Application Password)	このパラメータは、デフォルトのアプリケーション パスワードを指定します。
最大連絡先リストサイズ (Max Contact List Size)	このパラメータは、連絡先リストの最大サイズを指定します。 範囲 : 0 ~ 100 件
最大インスタントメッセージ履歴サイズ (Max Instant Message History Size)	このパラメータは、履歴メッセージの最大数を指定します。 範囲 : 1 ~ 1000 件
サブスクリプションのタイムアウト (Subscription timeout、秒)	このパラメータは、サブスクリプションのタイムアウトを指定します。 範囲 : 100 ~ 86400 秒
パブリッシュのタイムアウト (Publish timeout、秒)	このパラメータは、パブリッシュのタイムアウトを指定します。 範囲 : 300 ~ 86400 秒
SIP 登録イベントパッケージ	このパラメータは、SIP 登録イベント パッケージのコンテンツを指定します。 デフォルト値 : プレゼンス
SIP 登録アクセプトヘッダー	このパラメータは、SIP 登録イベント ヘッダーのコンテンツを指定します。 デフォルト値 : アプリケーション /pidf+xml



## IP Phone 応答メッセージ

カスタム メッセージの追加やメッセージの表示順序の変更など、IP Phone Messenger に表示される応答メッセージを設定できます。

### 応答メッセージの検索

応答メッセージを検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザ セッションでの作業中、クライアント マシンの cookie により、検索 / 一覧表示の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻るか、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開くと、検索の設定を変更するまで、Cisco Unified Presence の検索の設定がシステムで維持されます。

#### 手順

**ステップ 1** [アプリケーション] > [IP Phone Messenger] > [応答メッセージ] の順に選択します。

[応答メッセージの検索と一覧表示 (Find and List Response Messages)] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#)に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- ドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注)

検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



**(注)** 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択]をクリックしてから[選択項目の削除]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



**(注)** ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.36-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 応答メッセージの設定

この項では、Cisco Unified Presence データベースで応答メッセージを追加または更新する方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** 次のいずれかのタスクを実行します。

- 応答メッセージを追加するには、[ **アプリケーション** ] > [ **IP Phone Messenger** ] > [ **応答メッセージ** ] の順に選択し、[ **新規追加** ] をクリックします。
- 応答メッセージを更新するには、P.36-1 の「**応答メッセージの検索**」の手順に従って応答メッセージを検索し、更新する応答メッセージをクリックします。

[ 応答メッセージの設定 (Response Message Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** メッセージのテキストを入力または変更します。

**ステップ 3** メッセージの表示順序を変更するには、メッセージの隣にある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

**ステップ 4** データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ **保存** ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ **保存** ] ボタンをクリックします)。

---

### 追加情報

P.36-4 の「**関連項目**」を参照してください。

## 応答メッセージの削除

この項では、応答メッセージの削除方法を説明します。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.36-1 の「[応答メッセージの検索](#)」の手順に従い応答メッセージを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する応答メッセージを選択します。
- ステップ 3** 応答メッセージを削除するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される[ [選択項目の削除](#) ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下に表示される[ [選択項目の削除](#) ] ボタンをクリックします)。
- 

### 追加情報

P.36-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [応答メッセージの検索 \(P.36-1\)](#)
- [応答メッセージの設定 \(P.36-3\)](#)
- [応答メッセージの削除 \(P.36-4\)](#)





## 会議通知の設定

---

会議通知の設定のウィンドウを使用して、会議通知機能を設定します。会議通知を Cisco IP Phone Messenger と連携することにより、ユーザの Cisco Unified IP Phone に Microsoft Outlook の会議の招待状を送信できます。

### 会議通知の設定値の設定

会議通知の設定値を設定するには、次の手順に従います。

#### 手順

---

**ステップ 1** [アプリケーション] > [会議通知] > [設定] の順に選択します。


[会議通知の設定 (Meeting Notification Settings)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 表 37-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 3** データを保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [保存] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックします)。

---

表 37-1 会議通知の設定値

フィールド	説明
MeetingPlace アドレス (MeetingPlace Address)	Cisco MeetingPlace サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
MeetingPlace ポート (MeetingPlace Port)	Cisco MeetingPlace のポート番号を入力します。 デフォルト：80 (SSL は無効) または 443 (SSL は有効)
信頼証明書件名 CN(Trust Certificate Subject CN)	信頼証明書件名 Common Name を入力します。
[ SSL を使用 (Use SSL) ] チェックボックス	[ SSL を使用 (Use SSL) ] チェックボックスをオンにすると、Cisco MeetingPlace との接続でトランスポート レイヤ セキュリティ (TLS) を使用するように指定されます。   <b>(注)</b> SSL を有効にすると [ 信頼証明書件名 CN(Trust Certificate Subject CN) ] フィールドがアクティブになり、[ MeetingPlace ポート (MeetingPlace Port) ] フィールドはデフォルトで 443 に指定されます。SSL を無効にすると、[ 信頼証明書件名 CN(Trust Certificate Subject CN) ] フィールドは非アクティブになり、[ MeetingPlace ポート (MeetingPlace Port) ] フィールドはデフォルトで 80 に指定されます。
[ 電子メール ID と同じユーザ ID ] チェックボックス	[ 電子メール ID と同じユーザ ID ] をオンにすると、Cisco Unified Communications Manager と Microsoft Outlook 予定表の両方で同じユーザ ID が指定されます。



## プラグインの設定

---

アプリケーションのプラグインにより、Cisco Unified Presence の機能を拡張できます。

この項では、次のトピックについて説明します。

- [プラグインのインストール \(P.38-1\)](#)
- [プラグインの URL の更新 \(P.38-3\)](#)
- [プラグイン URL の更新の設定値 \(P.38-3\)](#)

### プラグインのインストール



#### ヒント

プラグインをインストールする前に、プラグインのインストール先となるサーバで実行されている、侵入検知やアンチウイルスなどのサービスをすべて無効にしてください。

プラグインをインストールするには、次の手順に従います。

#### 手順

**ステップ 1** [アプリケーション]>[プラグイン]の順に選択します。

[プラグインの検索と一覧表示 (Find and List Plugins)] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#)に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [検索] をクリックします。

**ステップ 4** インストールするプラグイン名をクリックします。

**ステップ 5** プラグインをダウンロードするには、[ダウンロード] リンクをクリックします。

**ステップ 6** インストール ウィザードの指示に従ってインストールを完了します。

---

#### 関連項目

- [プラグインの設定 \(P.38-1\)](#)
- [プラグインの URL の更新 \(P.38-3\)](#)

## プラグインの URL の更新

Cisco Unified Presence のインストール プロセス中、プラグイン テーブルに追加されるレコードにより、管理アプリケーションで [ アプリケーション ] ドロップダウン メニューを作成するために使用する URL が決まります。ドメイン ネーム サーバ (DNS) は、インストール時に作成される URL の基盤を提供します。DNS が変更されると、URL が更新されなくなります。

次の手順に従い、プラグインの URL を更新します。

### 手順

**ステップ 1** [ アプリケーション ] > [ プラグイン ] の順に選択します。

[ プラグインの検索と一覧表示 (Find and List Plugins) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから、プラグインの名前と種類を選択します。

**ステップ 3** 更新するプラグイン名をクリックします。

[ プラグイン URL の更新 (Update Plugin URL) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** [ カスタム URL(Custom URL) ] フィールドに URL を入力します。

**ステップ 5** URL を更新して保存するには、ウィンドウの左上隅のツールバーに表示される [ 保存 ] アイコンをクリックします (または、ウィンドウの下部に表示される [ 保存 ] ボタンをクリックします)。

### 関連項目

- [プラグインの設定 \(P.38-1\)](#)
- [プラグインのインストール \(P.38-1\)](#)

## プラグイン URL の更新の設定値

表 38-1 で、プラグイン URL の更新の設定値について説明します。

表 38-1 プラグイン URL の更新の設定値

フィールド	説明
プラグイン名	ドロップダウン リスト ボックスから、URL の変更対象となるプラグイン名を選択します。
プラグインタイプ	ドロップダウン リスト ボックスから、URL の変更対象となるプラグイン タイプ (アプリケーションやインストールなど) を選択します。
URL	URL が自動的に表示されます。
カスタム URL(Custom URL)	カスタム URL に使用できるのは、英数字だけです。
プラグインをユーザオプション ページに表示する (Show Plugin on User Option Pages)	このチェックボックスをオンにすると、ユーザ オプション ウィンドウにプラグインが表示されます。

## ■ プラグイン URL の更新の設定値



## **PART 5**

### **ユーザ管理**







## アプリケーション ユーザの設定

---

Cisco Unified Presence の管理ページにある [アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウを使用すると、管理者は、Cisco Unified Presence アプリケーション ユーザに関する情報の追加、検索、表示、および保守を行うことができます。

次のトピックには、アプリケーション ユーザ情報の管理に関する情報が含まれています。

- [アプリケーション ユーザの検索 \(P.39-2\)](#)
- [アプリケーション ユーザの設定 \(P.39-3\)](#)
- [アプリケーション ユーザの設定値 \(P.39-4\)](#)
- [アプリケーション ユーザパスワードの変更 \(P.39-6\)](#)
- [アプリケーション ユーザの信用証明書情報の管理 \(P.39-7\)](#)
- [アプリケーション ユーザの信用証明書の設定値およびフィールド \(P.39-8\)](#)

### 追加情報

P.39-9 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## アプリケーション ユーザの検索

ネットワークにアプリケーション ユーザが複数存在する場合があります。Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のアプリケーション ユーザを検索することができます。特定のアプリケーション ユーザを検索するには、次の手順を実行します。



**(注)** ブラウザ セッションでの作業中、Cisco Unified Presence の管理ページにより、アプリケーション ユーザ検索の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻ると、検索の設定を変更するか、またはブラウザを閉じるまで、アプリケーション ユーザ検索の設定が維持されます。

### 手順

**ステップ 1** [ ユーザ管理 ] > [ アプリケーションユーザ ] の順に選択します。

[ アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users) ] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



**(注)** 検索条件を追加するには、[ + ] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[ - ] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[ フィルタのクリア ] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [ 検索 ] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ ページあたりの行数 ] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



**(注)** 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから [ 選択項目の削除 ] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[ すべてを選択 ] をクリックしてから [ 選択項目の削除 ] をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.39-9 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## アプリケーション ユーザの設定

ユーザを追加するには、次の手順に従います。

#### 手順

**ステップ 1** [ユーザ管理] > [アプリケーションユーザ] の順に選択します。

[アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用してアプリケーション ユーザを検索します。

**ステップ 2** [新規追加] をクリックします。

[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** [表 39-1](#) の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 4** このアプリケーション ユーザのユーザ特権レポートを表示するには、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [ユーザ特権レポート] を選択し、[移動] をクリックします。

このアプリケーション ユーザのユーザ特権レポートを表示した後は、このユーザの [アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウに戻ることができます。[ユーザ特権 (User Privilege)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから、[アプリケーションユーザに戻る] を選択し、[移動] をクリックします。

**ステップ 5** ユーザ情報を入力したら、[保存] をクリックして変更を保存し、ユーザを追加します。

#### 追加情報

P.39-9 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## アプリケーション ユーザの設定値

表 39-1 で、アプリケーション ユーザの設定値について説明します。関連する手順については、P.39-9 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 39-1 アプリケーション ユーザの設定値

フィールド	説明
<b>アプリケーションユーザ情報 (Application User Information)</b>	
ユーザ ID ( User ID )	アプリケーション ユーザの識別名を入力します。使用できる特殊文字は、ダッシュ (-)、アンダースコア (_)、二重引用符 (") および空白文字です。
パスワード (Password)	英数字または特殊文字を使ってアプリケーション ユーザのパスワードを入力します。割り当てられている信用証明書ポリシーに指定されている文字数以上を入力する必要があります。
パスワードの確認 (Confirm Password)	ユーザパスワードを再入力します。
ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)	ダイジェスト認証中に Cisco Unified Presence を UAS として動作させる場合、このフィールドで指定するダイジェスト信用証明書をチャレンジに使用します。英数字の文字列を入力します。
ダイジェスト信用証明書の確認 (Confirm Digest Credentials)	ダイジェスト信用証明書の入力が正しいことを確認するために、このフィールドに再度信用証明書をを入力します。
クレデンシャルの編集 (Edit Credential)	ユーザをデータベースに追加すると、[ クレデンシャルの編集 ] ボタンが表示されます。  このボタンをクリックして、このユーザの信用証明書情報を管理します。P.39-7 の「 <a href="#">アプリケーション ユーザの信用証明書情報の管理</a> 」を参照してください。
プレゼンスグループ (Presence Group)	ドロップダウン リスト ボックスから、アプリケーション ユーザの[ プレゼンスグループ (Presence Group) ] を選択します。  インストール時は、Standard Presence Group が設定されています。Cisco Unified Presence の管理ページで設定したプレゼンス グループも、ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。

表 39-1 アプリケーション ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>権限情報 (Permissions Information)</b>	
グループ (Groups)	<p>このリスト ボックスは、アプリケーション ユーザのレコードが保存された後に表示されます。このリスト ボックスには、アプリケーション ユーザが属するグループが表示されます。</p> <p>ユーザを 1 つ以上のユーザ グループに追加するには、[ <b>ユーザグループに追加</b> ] ボタンをクリックします。[ ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups) ] ウィンドウが別のウィンドウとして表示されます。ユーザを追加するグループを特定し、それらのグループの隣のチェックボックスをオンにしてから、ウィンドウの下部にある [ <b>選択項目の追加</b> ] をクリックします。[ ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups) ] ウィンドウが閉じ、[ <b>アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)</b> ] ウィンドウが表示され、選択したグループが [ <b>グループ (Groups)</b> ] リスト ボックスに表示されます。</p> <p>グループからユーザを削除するには、[ <b>グループ (Groups)</b> ] リスト ボックスで対象のグループを強調表示し、[ <b>ユーザグループから削除</b> ] ボタンをクリックします。</p> <p>グループを表示または更新するには、グループ名をダブルクリックするか、グループ名をクリックして強調表示してから [ <b>詳細の表示</b> ] をクリックします。現在の設定で [ <b>ユーザグループの設定 (User Group Configuration)</b> ] ウィンドウが表示されます。</p> <p>ユーザグループの検索と設定の詳細については、<a href="#">P.41-1 の「ユーザグループの設定」</a>を参照してください。</p>
権限 (Roles)	<p>このリスト ボックスは、アプリケーション ユーザを追加した後、[ <b>グループ (Groups)</b> ] リスト ボックスに値を読み込んだ後、およびユーザレコードを削除した後に表示されます。このリスト ボックスには、アプリケーション ユーザに割り当てられる権限が表示されます。</p> <p>権限を表示または更新するには、権限名をダブルクリックするか、権限名をクリックして強調表示してから [ <b>詳細の表示</b> ] をクリックします。現在の設定で [ <b>権限の設定 (Role Configuration)</b> ] ウィンドウが表示されます。</p> <p>権限の設定の詳細については、<a href="#">P.40-1 の「権限の設定」</a>を参照してください。</p>

**追加情報**

[P.39-9 の「関連項目」](#)を参照してください。

## アプリケーション ユーザ パスワードの変更

アプリケーション ユーザ パスワードを変更するには、次の手順に従います。

### 手順

---

**ステップ 1** P.39-2 の「[アプリケーション ユーザの検索](#)」の手順に従い、パスワードを変更するアプリケーション ユーザを検索します。

[ アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration) ] ウィンドウに、選択したアプリケーション ユーザに関する情報が表示されます。

**ステップ 2** [ パスワード (Password) ] フィールドで、暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードを入力します。

**ステップ 3** [ パスワードの確認 (Confirm Password) ] フィールドで、暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードを再入力します。

**ステップ 4** [ 保存 ] をクリックします。

---

### 追加情報

P.39-9 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## アプリケーション ユーザの信用証明書情報の管理

関連付けられた認証ルール、関連付けられた信用証明書ポリシー、アプリケーション ユーザの直前のパスワード変更の時刻など、信用証明書の情報を変更または表示するには、次の手順を実行します。ユーザの信用証明書は、データベースにユーザが存在している場合のみ編集できます。

ユーザの [ クレデンシャル設定 ] ウィンドウで割り当てられた信用証明書ポリシーと競合する設定は保存できません。たとえば、ポリシーで [ 無期限 (Never Expires) ] チェックボックスがオンになっている場合は、[ クレデンシャル設定 ] ウィンドウで [ 無期限にする (Does Not Expire) ] チェックボックスをオフにして保存することはできません。ただし、[ 無期限にする (Does Not Expire) ] を含む、別の信用証明書をユーザに設定することはできません。ポリシーの [ 無期限にする (Never Expires) ] の設定がオンになっていないと、ポリシーの設定はユーザの設定により上書きされます。

ユーザの [ クレデンシャル設定 ] ウィンドウで、他の設定と競合する設定は変更できません。たとえば、[ ユーザは変更不可 (User Cannot Change) ] チェックボックスがオンの場合、[ ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login) ] チェックボックスをオンにすることはできません。

信用証明書の設定のウィンドウで報告されるイベント時間は、おおよその時間と考えてください。システムでは、次の認証クエリーまたはイベントの時点でこのフォームが更新されます。

### 開始する前に

データベースにアプリケーション ユーザを作成します。P.39-3 の「[アプリケーション ユーザの設定](#)」を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** P.39-2 の「[アプリケーション ユーザの検索](#)」の手順に従って、アプリケーション ユーザの設定を検索します。

[ アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration) ] ウィンドウに設定情報が表示されます。

**ステップ 2** パスワード情報を変更または表示するには、[ パスワード (Password) ] フィールドの隣にある [ **クレデンシャルの編集 (Edit Credential)** ] ボタンをクリックします。ユーザの [ クレデンシャル設定 ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** ユーザの信用証明書のデータを表示するか、[表 39-2](#) の該当する設定を入力します。

**ステップ 4** 設定を変更した場合は、[ **保存** ] をクリックします。

### 追加情報

P.39-9 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## アプリケーション ユーザの信用証明書の設定値およびフィールド

表 39-2 で、アプリケーション ユーザの信用証明書の設定値について説明します。これらの設定は、アプリケーション ユーザのダイジェスト信用証明書には適用されません。関連する手順については、P.39-9 の「関連項目」を参照してください。

表 39-2 アプリケーション ユーザの信用証明書の設定値およびフィールド

フィールド	説明
管理者によるロック (Locked By Administrator)	<p>このチェックボックスをオンにすると、このアカウントはロックされ、このユーザへのアクセスが拒否されます。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、アカウントのロックが解除され、このユーザへのアクセスが許可されます。</p> <p>このチェックボックスは、このアカウントタイプに対し、アカウントのロックアウト後に [ 管理者がロック解除を行う (Administrator Must Unlock) ] を信用証明書のポリシーで指定する場合に使用します。</p>
ユーザは変更不可 (User Cannot Change)	<p>このチェックボックスをオンにすると、このユーザによるこの信用証明書の変更が拒否されます。このオプションはグループアカウントに使用します。</p> <p>[ ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login) ] がオンになっていると、このチェックボックスをオンにできません。</p>
ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login)	<p>このチェックボックスをオンにすると、ユーザは次回のログイン時にこの信用証明書を変更する必要があります。このオプションは、一時信用証明書を割り当てた後に使用してください。</p> <p>[ ユーザは変更不可 (User Cannot Change) ] がオンの場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>
無期限にする (Does Not Expire)	<p>このチェックボックスをオンにすると、システムユーザに対するこの信用証明書の変更要求が拒否されます。このオプションは、低セキュリティ ユーザまたはグループ ユーザに使用できます。</p> <p>このチェックボックスをオンにしても、ユーザはこの信用証明書をいつでも変更できます。チェックボックスをオフにした場合、関連付けられている信用証明書ポリシーの期限設定が適用されます。</p> <p>ポリシー設定で [ 無期限 (Does Not Expire) ] を指定している場合は、このチェックボックスをオフにできません。</p>
ハック数のリセット (Reset Hack Count)	<p>このチェックボックスをオンにすると、このユーザのハック カウントがリセットされ、[ 失敗したログイン試行によりロックされた時間 (Time Locked Due to Failed Login Attempts) ] フィールドがクリアされます。</p> <p>ハック カウントは、不正な信用証明書により認証が失敗するたびに増えていきます。</p> <p>ポリシーに [ ログイン失敗無制限 (No Limit for Failed Logons) ] が指定されている場合、ハック カウントは常に 0 になります。</p>



表 39-2 アプリケーション ユーザの信用証明書の設定値およびフィールド (続き)

フィールド	説明
認証ルール (Authentication Rule)	このユーザ信用証明書を適用するための信用証明書ポリシーを選択します。
最終変更時間 (Time Last Changed)	このフィールドには、このユーザの信用証明書が最後に変更された日付と時刻が表示されます。
失敗したログイン試行 (Failed Logon Attempts)	このフィールドには、最後の正常なログイン以降、管理者がこのユーザの信用証明書のハック カウントをリセットしたとき以降、または失敗したログイン試行の有効期限が切れてリセットされたとき以降、ログインが失敗した回数が表示されます。
失敗した最後のログイン試行時間 (Time of Last Failed Logon Attempt)	このフィールドには、このユーザの信用証明書で最後にログインに失敗した日付と時刻が表示されます。
管理者によりロックされた時間 (Time Locked by Administrator)	このフィールドには、管理者がこのユーザ アカウントをロックした日付と時刻が表示されます。管理者が信用証明書のロックを解除したら、このフィールドは空白になります。
失敗したログイン試行によりロックされた時間 (Time Locked Due to Failed Logon Attempts)	このフィールドには、ログイン試行に失敗したためにシステムが最後にこのユーザ アカウントをロックした日付と時刻が表示されます。失敗したログイン試行が、適用される信用証明書ポリシーで設定されているしきい値を超過するたびに、ハック ロックアウトの時間が設定されます。

## 関連項目

- [アプリケーション ユーザの検索 \(P.39-2\)](#)
- [アプリケーション ユーザの設定 \(P.39-3\)](#)
- [アプリケーション ユーザの設定値 \(P.39-4\)](#)
- [アプリケーション ユーザ パスワードの変更 \(P.39-6\)](#)
- [アプリケーション ユーザの信用証明書情報の管理 \(P.39-7\)](#)
- [アプリケーション ユーザの信用証明書の設定値およびフィールド \(P.39-8\)](#)





## 権限の設定

権限を使用すると、完全な管理特権（アクセス権）を持つ Cisco Unified Presence 管理者は、エンドユーザやアプリケーション ユーザに対してさまざまなレベルの特権を設定できます。完全な管理特権を持つ管理者が、権限とユーザグループを設定します。また、一般に、フルアクセス権を持つ管理ユーザが、Cisco Unified Presence の管理プログラムやその他のアプリケーションに対する他の管理ユーザおよびエンドユーザの特権を設定します。

さまざまなレベルの特権がアプリケーションごとに存在します。Cisco Unified Presence の管理アプリケーションの場合、読み取り特権と更新特権の 2 つのレベルの特権があります。これらの特権レベルの違いは、次のとおりです。

- 更新特権を持つユーザは、そのユーザのユーザグループが更新特権を持つ [ Cisco Unified Presence の管理 ] ウィンドウを表示および変更できます。
- 読み取り特権を持つユーザの場合、そのユーザのユーザグループが読み取り特権を持つ権限に属する [ Cisco Unified Presence の管理 ] ウィンドウを表示できます。ただし、ウィンドウの読み取り特権を持つユーザは、読み取り特権だけを持つこれらの管理ウィンドウに変更を加えることはできません。読み取り特権を持つユーザの場合、Cisco Unified Presence の管理アプリケーションに、更新を行うためのボタンやアイコンが表示されません。

権限は、アプリケーションの一連のリソースからなります。インストール時に、さまざまな管理機能に対してデフォルトの標準権限が作成されます。ただし、アプリケーションのリソースのグループ分けをカスタマイズしたカスタム権限を作成することも可能です。



(注)

アプリケーションとリソースのいずれも関連付けられていない標準権限もあります。これらの権限は、さまざまなアプリケーションのログイン認証を行います。

権限を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [権限の検索 \(P.40-2\)](#)
- [権限の設定 \(P.40-3\)](#)
- [権限の削除 \(P.40-4\)](#)
- [権限の設定値 \(P.40-5\)](#)

### 追加情報

P.40-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 権限の検索

ネットワークに権限が複数存在する場合があります。Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定の権限を検索することができます。権限を検索するには、次の手順を実行します。



**(注)** ブラウザセッションでの作業中、Cisco Unified Presence の管理ページにより、権限の検索の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻ると、検索の設定を変更するか、またはブラウザを閉じるまで、この権限の検索の設定がこのページに維持されます。

### 手順

**ステップ 1** [ ユーザ管理 ] > [ 権限 ] の順に選択します。

[ 権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles) ] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



**(注)** 検索条件を追加するには、[ + ] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[ - ] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[ フィルタのクリア ] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [ 検索 ] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ ページあたりの行数 ] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



**(注)** 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから [ 選択項目の削除 ] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[ すべてを選択 ] をクリックしてから [ 選択項目の削除 ] をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



**(注)** ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

### 追加情報

P.40-6 の「関連項目」を参照してください。

## 権限の設定

この項では、Cisco Unified Presence の管理ページに権限を追加する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ ユーザ管理 ] > [ 権限 ] の順に選択します。

[ 権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかのタスクを実行します。

- 既存の権限をコピーするには、P.40-2 の「権限の検索」の説明に従って対象の権限を検索し、コピーする権限の隣にある [ コピー ] ボタンをクリックします。表示されるポップアップウィンドウで、新しい権限の名前を入力し、[ OK ] をクリックします。ステップ 4 に進みます。



**(注)** 権限をコピーすると、その権限に関連付けられている特権もコピーされます。

- 新しい権限を追加するには、[ 新規追加 ] ボタンをクリックし、ステップ 3 へ進みます。
- 既存の権限を更新するには、P.40-2 の「権限の検索」の説明に従って対象の権限を検索し、ステップ 4 へ進みます。

**ステップ 3** 新しい権限を追加する場合は、[ アプリケーション (Application) ] ドロップダウン リスト ボックスからアプリケーションを選択し、[ 次へ ] をクリックします。

**ステップ 4** 表示される [ 権限の設定 (Role Configuration) ] ウィンドウで、表 40-1 の説明に従って適切な設定を入力します。

**ステップ 5** 権限を追加するには、[ 保存 ] をクリックします。

新しい権限が Cisco Unified Presence のデータベースに追加されます。

### 追加情報

P.40-6 の「関連項目」を参照してください。

## 権限の削除

この項では、Cisco Unified Presence の管理ページから権限を削除する方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** [ ユーザ管理 ] > [ 権限 ] の順に選択します。

[ 権限の設定 (Role Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 左側の権限のリストから、削除する権限の名前をクリックします。



---

**(注)** 標準の権限を削除することはできません。

---

選択した権限が表示されます。

**ステップ 3** [ 削除 ] をクリックします。

削除するかどうか確認するメッセージが表示されます。

**ステップ 4** OK をクリックします。

ウィンドウが更新され、権限がデータベースから削除されます。

---




### 追加情報

P.40-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 権限の設定値

表 40-1 で、権限の設定値について説明します。関連する手順については、P.40-6 の「関連項目」を参照してください。

表 40-1 権限の設定値

フィールド	説明
<b>権限情報 (Role Information)</b>	
アプリケーション (Application)	ドロップダウン リスト ボックスから、この権限を関連付けるアプリケーションを選択します。
名前 (Name)	権限の名前を入力します。名前は 50 文字以内にする必要があります。
説明 (Description)	権限の説明を入力します。説明は 50 文字以内にする必要があります。
<b>リソースアクセス情報 (Resource Access Information)</b>	
( 選択したアプリケーションの リソース名のリスト )	<p>[ リソースアクセス情報 (Resource Access Information) ] ペインで、この権限を追加するリソースの隣にあるチェックボックス ( 複数も可 ) をクリックします。</p> <p> (注) 各リソースにチェックボックスが 1 つしかないアプリケーションもあります。Cisco Unified Presence の管理アプリケーションでは、読み取りと更新のチェックボックスがリソースごと割り当てられています。</p>
すべてのアクセスを許可	<p>このボタンをクリックすると、この権限について、このウィンドウに表示されるすべてのリソースの特権が許可されます。</p> <p> (注) リソースのリストが複数のウィンドウにわたって表示される場合、このボタンは、現在のウィンドウに表示されるリソースに限り適用されます。他のウィンドウのリストにあるリソースのアクセス権を変更するには、それらのウィンドウを表示してからそのウィンドウでこのボタンを使用する必要があります。</p>
すべてのアクセスを拒否	<p>このボタンをクリックすると、この権限について、このページに表示されるすべてのリソースの特権が削除されます。</p> <p> (注) リソースのリストが複数のウィンドウにわたって表示される場合、このボタンは、現在のウィンドウに表示されるリソースに限り適用されます。他のウィンドウのリストにあるリソースのアクセス権を変更するには、それらのウィンドウを表示してからそのウィンドウでこのボタンを使用する必要があります。</p>

## 関連項目

- [権限の検索 \( P.40-2 \)](#)
- [権限の設定 \( P.40-3 \)](#)
- [権限の削除 \( P.40-4 \)](#)
- [権限の設定値 \( P.40-5 \)](#)





## ユーザグループの設定

---

Cisco Unified Presence の管理ページの [ ユーザ管理 ] メニューにある権限とユーザグループに関するメニュー オプションを使用すると、完全なアクセス権を持つユーザは、Cisco Unified Presence 管理者のさまざまなレベルのウィンドウ アクセス権を設定できます。完全なアクセス権を持つユーザは、権限、ユーザグループ、および権限に対するアクセス特権を設定できます。一般に、完全なアクセス権を持つユーザが、他のユーザの Cisco Unified Presence の管理ページへのアクセス権を設定します。

ユーザグループは、アプリケーション ユーザとエンド ユーザのリストで構成されます。ユーザは複数のユーザグループに属することができます。ユーザグループの追加後、ユーザをユーザグループに追加できます。その後に、権限をユーザグループに割り当てることができます。ユーザが複数のユーザグループに属する場合、MLA アクセス権のエンタープライズパラメータにより、ユーザの有効な特権が決まります。

ユーザグループを設定する、ユーザグループにユーザを割り当てる、あるいはユーザの権限、ユーザグループ、およびアクセス権を表示するには、次の手順に従います。

- [ユーザグループの検索 \(P.41-2\)](#)
- [ユーザグループの設定 \(P.41-4\)](#)
- [ユーザグループの削除 \(P.41-5\)](#)
- [ユーザグループへのアプリケーション ユーザの追加 \(P.41-6\)](#)
- [ユーザグループからのユーザの削除 \(P.41-7\)](#)
- [ユーザグループへの権限の割り当て \(P.41-8\)](#)
- [ユーザの権限、ユーザグループ、およびユーザのアクセス権の表示 \(P.41-10\)](#)

## ユーザグループの検索

ネットワークに複数のユーザグループが存在する可能性があるため、Cisco Unified Presence では、具体的な検索条件に基づいて特定のユーザグループを検索することができます。ユーザグループを検索するには、次の手順を実行します。



**(注)** ブラウザセッションでの作業中、Cisco Unified Presence の管理ページにより、ユーザグループ検索の設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニューに戻ると、検索の設定を変更するか、またはブラウザを閉じるまで、ユーザグループ検索の設定が維持されます。

### 手順

**ステップ 1** [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。アクティブ (優先) クエリーのレコードもウィンドウに表示される場合があります。

**ステップ 2** データベースのすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認して、[ステップ 3](#) に進みます。

レコードをフィルタリングするかまたは検索します。

- 最初のドロップダウン リストボックスから検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リストボックスから検索パターンを選択します。
- 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



**(注)** 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。検索条件を追加すると、指定したすべての検索条件に一致するレコードが検索されます。検索条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した検索条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして追加したすべての検索条件を削除します。

**ステップ 3** [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リストボックスで異なる値を選択すると、各ウィンドウに表示する項目の数を変更できます。



**(注)** 対象のレコードの隣にあるチェックボックスをオンにしてから[選択項目の削除]をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択]をクリックしてから[選択項目の削除]をクリックすると、この選択で設定可能なすべてのレコードを削除できます。

**ステップ 4** 表示されるレコードのリストから、表示対象となるレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順序を逆にするには、必要に応じて、リストのヘッダーにある上向きまたは下向きの矢印をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.41-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザグループの設定

この項では、Cisco Unified Presence の管理ページでユーザグループを追加、コピー、および更新する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかのタスクを実行します。

- 既存のユーザグループをコピーするには、P.41-2 の「[ユーザグループの検索](#)」の説明に従って、該当するユーザグループを検索し、コピーするユーザグループの隣にある [コピー] ボタンをクリックします。表示されるポップアップウィンドウで、新しいユーザグループの名前を入力し、[OK] をクリックします。ステップ 3 に進みます。
- 新しいユーザグループを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックします。新しいユーザグループの名前を入力して [OK] をクリックします。ステップ 3 に進みます。



(注) ユーザグループの名前は最大 50 の英数字で、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (\_) を使用できます。ユーザグループの名前が一意であることを確認してください。

- 既存のユーザグループを更新するには、P.41-2 の「[ユーザグループの検索](#)」の手順に従って該当するユーザグループを検索します。更新するユーザグループの名前をクリックします。選択したユーザグループが表示されます。適切な設定を更新します。ステップ 3 に進みます。



(注) 標準のユーザグループは削除できませんが、標準のユーザグループのユーザメンバシップを更新することは可能です。

**ステップ 3** [保存] をクリックします。

**ステップ 4** ユーザをこのユーザグループに追加する作業を進めます。P.41-6 の「[ユーザグループへのアプリケーションユーザの追加](#)」を参照してください。

**ステップ 5** 権限をユーザグループに割り当てる作業を進めます。P.41-8 の「[ユーザグループへの権限の割り当て](#)」を参照してください。

### 追加情報

P.41-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザグループの削除

この項では、Cisco Unified Presence の管理ページからユーザグループを削除する方法について説明します。ユーザグループ全体を削除するには、次の手順に従います。特定のユーザだけをユーザグループから削除する場合は、P.41-7 の「[ユーザグループからのユーザの削除](#)」を参照してください。

### 開始する前に

ユーザグループを削除すると、Cisco Unified Presence により、データベースからすべてのユーザグループデータが削除されます。ユーザグループにどの権限が割り当てられているかを調べるには、[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク] ドロップダウンリスト ボックスから [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。システムで依存関係レコードが有効でない場合、[依存関係レコード要約] ウィンドウにメッセージが表示されます。

### 手順

---

**ステップ 1** [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** P.41-2 の「[ユーザグループの検索](#)」の手順に従って、削除するユーザグループを検索します。

**ステップ 3** 削除するユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。リストにこのユーザグループのユーザがアルファベット順に表示されます。

**ステップ 4** グループ全体を削除する場合は、[削除] をクリックします。

ダイアログボックスに、ユーザグループを削除すると、元に戻すことができないという内容の警告が表示されます。

**ステップ 5** [OK] をクリックしてユーザグループを削除するか、[キャンセル] をクリックして操作を取り消します。[OK] をクリックすると、Cisco Unified Presence により、データベースからユーザグループが削除されます。

---

### 追加情報

P.41-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザグループへのアプリケーション ユーザの追加

この項では、Cisco Unified Presence の管理ページでアプリケーション ユーザをユーザグループに追加する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ユーザの追加先となるユーザグループを検索します。P.41-2 の「ユーザグループの検索」の手順に従います。

**ステップ 3** 更新するユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。[ユーザ] リストに、現在このユーザグループに属しているユーザが表示されます。

**ステップ 4** アプリケーション ユーザを追加するには、[グループにアプリケーションユーザを追加] をクリックします。

[アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 5** [アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスを使用して追加するアプリケーション ユーザを検索し、[検索] をクリックします。



(注) アプリケーション ユーザの検索は、ユーザ ID を検索することにより実行できます。また、フィールドを空白のままにしておくと、すべてのアプリケーション ユーザが表示されます。

検索条件に一致するアプリケーション ユーザのリストが表示されます。

**ステップ 6** 検索結果のリストで、このユーザグループに追加するアプリケーション ユーザの隣にあるチェックボックスをオンにします。リストが複数のウィンドウにわたっている場合、下部のリンクをクリックすると、さらに検索結果を表示できます。



(注) 検索結果のリストには、すでにそのユーザグループに属しているアプリケーション ユーザは表示されません。

**ステップ 7** [選択項目の追加] をクリックします。

[グループ内のユーザ (Users in Group)] ペインの一覧にユーザが追加された状態で、[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが再表示されます。



(注) アプリケーション ユーザの追加後、そのユーザの [ 権限 (Permission) ] 列で [ i ] アイコンをクリックすると、そのユーザの権限を表示できます。

**ステップ 8** このユーザグループへの変更を保存するには、[ 保存 ] をクリックします。

#### 追加情報

P.41-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザグループからのユーザの削除

この項では、Cisco Unified Presence の管理ページで、ユーザグループからユーザを削除する方法について説明します。

#### 手順

**ステップ 1** [ ユーザ管理 ] > [ ユーザグループ ] の順に選択します。

[ ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ユーザを削除するユーザグループを検索します。P.41-2 の「[ユーザグループの検索](#)」の手順に従います。

**ステップ 3** 更新するユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。[ グループ内のユーザ (Users in Group) ] リストに、現在のこのユーザグループに属しているユーザが表示されます。

**ステップ 4** このユーザグループから削除するユーザの名前の隣にあるチェックボックスをオンにします。

**ステップ 5** [ 選択項目の削除 ] をクリックします。

削除の確認をするメッセージが表示されます。

**ステップ 6** [ OK ] をクリックして選択したユーザグループのメンバーを削除するか、または [ キャンセル ] をクリックしてこのウィンドウを閉じます。

[ グループ内のユーザ (Users in Group) ] ペインからこのユーザが削除された状態で、[ ユーザグループの設定 (User Group Configuration) ] ウィンドウが再表示されます。

#### 追加情報

P.41-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザグループへの権限の割り当て

完全なアクセス権を持つユーザは、ユーザグループに権限を割り当てることができます。権限を割り当てられたユーザグループは、権限を持つリソースへアクセスできます。

この項では、Cisco Unified Presence の管理ページで、ユーザグループに権限を割り当てる方法について説明します。



(注)

権限をユーザグループに割り当てる場合、管理者はそのユーザグループに Standard Unified CM Admin Users 権限を割り当てる必要があります。この権限により、ユーザは Cisco Unified Presence の管理ページにログインできます。

### 手順

**ステップ 1** [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 権限を割り当てるユーザグループを検索します。P.41-2 の「ユーザグループの検索」の手順に従います。

**ステップ 3** 権限を割り当てるユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。[グループ内のユーザ (Users in Group)] リストに、現在このユーザグループに属しているユーザが表示されます。

**ステップ 4** [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから、[ユーザグループに権限を割り当て] を選択して [移動] をクリックします。

[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが変更され、[権限の割り当て (Role Assignment)] ペインが表示されます。選択したユーザグループに割り当てられている権限のリストが表示されます。次のいずれかのオプションを選択します。

- ユーザグループに権限を割り当てるには、[ステップ 5](#) へ進みます。
- ユーザグループから権限を削除するには、[ステップ 9](#) へ進みます。

**ステップ 5** ユーザグループに権限を追加するには、[グループに権限を割り当て] をクリックします。

[権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。

**ステップ 6** 必要に応じて、権限の検索条件を使用して権限のリストを絞り込みます。

**ステップ 7** 権限名の隣にあるチェックボックスをオンにして、このユーザグループに割り当てる権限を選択します。このユーザグループに権限を割り当てずにそのまま [権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ポップアップ ウィンドウを閉じるには、[閉じる] をクリックします。



**ステップ 8** [ 選択項目の追加 ] をクリックします。

[ 権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles) ] ポップアップ ウィンドウが閉じられます。このユーザグループの [ 権限の割り当て (Role Assignment) ] ペインに、選択した権限が追加されます。このユーザグループに割り当てられている権限を削除しない場合は、[ステップ 10](#) へ進みます。

**ステップ 9** 割り当てられている権限をユーザグループから削除するには、[ 権限の割り当て (Role Assignment) ] ペインにある権限を選択し、[ 権限の割り当ての削除 ] をクリックします。このユーザグループから削除する権限ごとに、この手順を繰り返します。

**ステップ 10** [ 保存 ] をクリックします。

データベース内で、ユーザグループへの権限割り当ての追加と削除が実行されます。

---

#### 追加情報

[P.41-11](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザの権限、ユーザグループ、およびユーザのアクセス権の表示

この項では、指定したユーザグループに属するユーザの権限、ユーザグループ、およびアクセス権を表示する方法について説明します。ユーザグループのユーザに割り当てられた権限、ユーザグループ、およびアクセス権を表示するには、次の手順に従います。



(注) [ユーザ管理] > [アプリケーションユーザ] (アプリケーションユーザの場合) または [ユーザ管理] > [エンドユーザ] (エンドユーザの場合) の順に選択し、特定のユーザを表示してからそのユーザの権限を表示することもできます。

### 手順

**ステップ 1** [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 割り当てられている権限を表示するユーザが属するユーザグループを検索します。P.41-2 の「[ユーザグループの検索](#)」の手順に従います。

**ステップ 3** ユーザに割り当てられている権限を表示するユーザグループの名前をクリックします。

[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウに、選択したユーザグループが表示されます。[グループ内のユーザ (Users in Group)] ペインに、このユーザグループに属しているユーザが表示されます。

**ステップ 4** 特定のユーザの [権限 (Permission)] 列で [i] アイコンをクリックします。

[ユーザ特権 (User Privilege)] ウィンドウが表示されます。選択したユーザに関して次の情報が表示されます。

- ユーザが所属しているユーザグループ (User Groups the user belongs to)。
- ユーザに割り当てられている権限 (Roles assigned to user)。
- ユーザがアクセスできるリソース (Resources the user has access to)。各リソースに関して次の情報が表示されます。
  - アプリケーション (Application)
  - リソース (Resource)
  - 権限 (Permission) (読み取りと更新の一方または両方)

**ステップ 5** ユーザの設定に戻るには、[関連リンク] ドロップダウン リストボックスの [ユーザの設定に戻る] を選択して [移動] をクリックします。

### 追加情報

P.41-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [ユーザグループの検索 \(P.41-2\)](#)
- [ユーザグループの設定 \(P.41-4\)](#)
- [ユーザグループの削除 \(P.41-5\)](#)
- [ユーザグループへのアプリケーション ユーザの追加 \(P.41-6\)](#)
- [ユーザグループからのユーザの削除 \(P.41-7\)](#)
- [ユーザグループへの権限の割り当て \(P.41-8\)](#)
- [ユーザの権限、ユーザグループ、およびユーザのアクセス権の表示 \(P.41-10\)](#)





## **PART 6**

### **Bulk Administration (一括管理)**





# ファイルのアップロードとダウンロード

この章では、Cisco Unified Presence の Bulk Administration (一括管理) の概要、Cisco Unified Presence の最初のノードをアップロードする方法、およびこれらのファイルをローカルマシンにダウンロードする方法について説明します。

この章には、次の項があります。

- [概要 \(P.42-1\)](#)
- [ファイルの検索 \(P.42-2\)](#)
- [ファイルのダウンロード \(P.42-3\)](#)
- [ファイルのアップロード \(P.42-4\)](#)
- [ファイルの削除 \(P.42-5\)](#)

## 概要

Bulk Administration (一括管理) は、Cisco Unified Presence と Cisco Unified Communications Manager の両方で使用できます。この機能を使用して、Cisco Unified Presence のさまざまな機能を設定できます。

### Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Tool

Cisco Unified Communications Manager の Bulk Administration Tool で設定できる機能は、次のとおりです。

- Cisco Unified Presence ユーザおよび Cisco Unified Personal Communicator ユーザへのエンドユーザライセンスの割り当て。
- ユーザへのライン アピアランスのマッピング。Cisco Unified Presence サーバを Cisco Unified Communications Manager Release 6.0(1) に関連付けると、ライン アピアランスに基づいてプレゼンス情報が渡されます。

Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Tool の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド*』を参照してください。

### Cisco Unified Presence Bulk Administration Tool

Cisco Unified Presence Bulk Administration Tool で設定できる機能は、次のとおりです。

- Cisco Unified Personal Communicator ユーザのユーザ プロファイルの設定。
- Cisco Unified Presence ユーザへの Microsoft Office Communicator の機能の割り当て。

## ファイルの検索

Cisco Unified Presence サーバからダウンロードできるファイルを検索するには、次の手順に従います。

### 手順

**ステップ 1** [一括管理] > [ファイルのアップロード / ダウンロード] の順に選択します。

[ファイルの検索と一覧表示 (Find and List Files)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ファイルの検索と一覧表示 (Find and List Files)] ウィンドウの最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。

- 名前
- タイプ

**ステップ 3** [ファイルの検索と一覧表示 (Find and List Files)] ウィンドウの 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。

- ステップ 2 で [名前] を選択した場合、次のいずれかのオプションを選択してステップ 4 へ進みます。
  - が次の文字列で始まる
  - が次の文字列を含む
  - が次の文字列と等しい
  - が次の文字列で終わる
  - が空である
  - が空ではない
- 手順 2 で [タイプ] を選択した場合は、手順 4 に進みます。

**ステップ 4** 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



### ヒント

データベースに登録されているすべてのファイルを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

**ステップ 5** さらにクエリーを定義して複数のフィルタを追加するには、[次を使用した拡張検索] チェックボックスをオンにして、ドロップダウン リスト ボックスから AND または OR を選択し、ステップ 2 ~ 4 を繰り返します。

**ステップ 6** ステップ 2 で [タイプ] を選択した場合、[項目を選択するか、検索テキストを入力してください] ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。

- Insert Files
- Export Files
- Report Files
- Custom Files
- Log Files



- BAT Excel Template

**ステップ 7** [ 検索 ] をクリックします。

検出されたファイルのリストが次の条件で表示されます。

- ファイル名 (File Name)
- 機能タイプ (Function Type)

手順 2 で [ タイプ ] を選択した場合は、検索されたファイルのリストが次の条件で表示されます。

- ファイル名 (File Name)
- 起動日時 (Launch Date and Time)

#### 追加情報

P.42-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ファイルのダウンロード

Cisco Unified Presence からファイルをダウンロードするには、次の手順に従います。

#### 手順

**ステップ 1** P.42-2 の「[ファイルの検索](#)」の手順に従ってダウンロードするファイルを検索します。

**ステップ 2** ダウンロードするファイルに対応するチェックボックスをオンにして、[ [選択項目のダウンロード](#) ] をクリックします。



(注) [ [すべてを選択](#) ] をクリックしてから [ [選択項目のダウンロード](#) ] をクリックすると、すべてのファイルをダウンロードできます。



(注) 複数のファイルを同時に選択してダウンロードすると、それらのファイルが同じ ZIP ファイルにダウンロードされます。

**ステップ 3** [ ファイルのダウンロード ] ポップアップ ウィンドウが表示されます。[ [保存](#) ] をクリックします。

**ステップ 4** [ [名前を付けて保存](#) ] ポップアップ ウィンドウで、ファイルの保存先を選択して [ [保存](#) ] をクリックします。

**ステップ 5** [ [ダウンロードの完了](#) ] ポップアップ ウィンドウが表示されます。[ [ファイルを開く](#) ] をクリックしてダウンロードしたファイルを開くか、または [ [閉じる](#) ] をクリックして後でファイルを開きます。

#### 追加情報

P.42-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ファイルのアップロード

Cisco Unified Presence へファイルをアップロードするには、次の手順に従います。

### 手順

- 
- ステップ 1** [一括管理]>[ファイルのアップロード/ダウンロード]の順に選択します。[ファイルの検索と一覧表示 (Find and List Files)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** [新規追加]をクリックします。[ファイルのアップロードの設定 (File Upload Configuration)] ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 3** [ファイル (File)] テキスト ボックスでアップロードするファイルのフル パスを入力するか、または [参照] をクリックしてファイルを探します。
  - ステップ 4** [ターゲットの選択 (Select The Target)] ドロップダウン リスト ボックスから、ファイルを使用するターゲットを選択します。
  - ステップ 5** [トランザクションタイプの選択 (Select Transaction Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、ファイルを定義するトランザクション タイプを選択します。
  - ステップ 6** 既存のファイルを同じ名前で上書きするには、[ファイルが存在する場合は上書きする。(Overwrite File if it exists.)] チェックボックスをオンにします。
  - ステップ 7** [保存] をクリックします。ステータスでアップロードが完了したことがわかります。
- 

### 追加情報

P.42-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ファイルの削除

ファイルを削除するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** P.42-2 の「[ファイルの検索](#)」の手順に従って削除するファイルを検索します。

**ステップ 2** [ 検索結果 (Search Results) ] エリアで、削除するファイルに対応するチェックボックスをオンにします。

**ステップ 3** [ 選択項目の削除 ] をクリックします。



(注) [ 検索結果 (Search Results) ] エリアに表示されるファイルをすべて削除するには、[ **すべてを選択** ] および [ **選択項目の削除** ] をクリックします。

**ステップ 4** 作業を続けるには、[ **OK** ] をクリックします。

**ステップ 5** サーバからファイルが削除されます。



(注) 削除しようとして選択したファイルが何らかのジョブの実行に使用されている場合、これらのファイルは削除されません。

### 追加情報

P.42-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [ファイルの検索](#) ( P.42-2 )
- [ファイルのダウンロード](#) ( P.42-3 )
- [ファイルのアップロード](#) ( P.42-4 )
- [ファイルの削除](#) ( P.42-5 )





## ジョブのスケジューリング

---

一括トランザクションをスケジュールして、トランザクションを開始する時刻を指定できます。

[一括管理]メニューから送信されるすべてのジョブは、Bulk Provisioning Service (BPS) のキューに入れられます。ジョブに対して指定した開始時刻により、トランザクションの実行が開始されます。開始時刻が指定されていない場合、トランザクションは受信した順序で実行されます。

BPS をアクティブにしてジョブをスケジュールする方法については、次のトピックを参照してください。

- [Bulk Provisioning Service のアクティブ化 \(P.43-2\)](#)
- [BPS の開始 / 停止 / 再起動 \(P.43-3\)](#)
- [BPS の無効化 \(P.43-4\)](#)
- [ジョブの検索 \(P.43-5\)](#)
- [ジョブのスケジューリング \(P.43-7\)](#)

## Bulk Provisioning Service のアクティブ化

ジョブを送信して実行する前に、BPS がアクティブになっていることを確認してください。

BPS をアクティブ化するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Presence Serviceability ]ウィンドウで、[ **Tools** ][ **Service Activation** ]の順に選択します。

[ Service Activation ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Server ] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Presence を実行するサーバを選択します。

**ステップ 3** Database and Admin Services エリアで、CiscoBulk Provisioning Service に対応するチェックボックスをオンにします。



(注) サービスがすでに有効になっている場合は、Activation Status に Activated と表示されていません。

**ステップ 4** [ Update ] をクリックします。

**ステップ 5** ウィンドウが更新され、Bulk Provisioning Service に対応する Activation Status に **Activated** と表示されます。



(注) BPS は、有効にすると自動的に開始します。サービスの開始、停止、および再起動については、[P.43-3 の「BPS の開始 / 停止 / 再起動」](#)を参照してください。



(注) BPS を開始すると、その都度 Cisco Unified Presence データベースとの同期が実行されます。

## BPS の開始 / 停止 / 再起動

BPS を有効にした後に自動的に開始するには、Cisco Unified Presence Serviceability を使用します。この項では、BPS を停止または再起動する手順について説明します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco Unified Presence Serviceability で、[ Tools ] > [ Control Center - Feature Services ] の順に選択します。

[ Control Center - Feature Services ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Servers ] ドロップダウン リスト ボックスから Cisco Unified Presence を選択します。

Cisco Bulk Provisioning Service が Database and Admin Services エリアの Service Name 列のリストに表示されます。



**(注)** P.43-2 の「Bulk Provisioning Service のアクティブ化」の手順に従い BPS を有効にすると、ステータスに Activated と表示されます。

**ステップ 3** BPS に対応するチェックボックスをオンにします。

**ステップ 4** BPS を再起動するには、[ Restart ] をクリックします。

サービスが再起動され、Service Successfully Restarted というメッセージが表示されます。

**ステップ 5** BPS を停止するには、[ Stop ] をクリックします。

サービスが停止し、Service Successfully Stopped というメッセージが表示されます。

**ステップ 6** 停止した BPS を開始するには、[ Start ] をクリックします。

サービスが開始され、Service Successfully Started というメッセージが表示されます。

## BPS の無効化

BPS が不要な場合は無効にすることができます。この項では、BPS サービスを無効にしてツールからログアウトする方法について説明します。

### 手順

---

**ステップ 1** Cisco Unified Presence Serviceability で、[ Tools ] > [ Service Activation ] の順に選択します。

[ Service Activation ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ Servers ] ドロップダウン リスト ボックスから Cisco Unified Presence を選択します。

CiscoBulk Provisioning Service が Database and Admin Services エリアの Service Name 列のリストに表示されます。

**ステップ 3** Cisco Bulk Provisioning Service に対応するチェックボックスをオフにして、[ Update ] をクリックします。

サービスが無効になり、Status 列に Deactivated と表示されます。

---



## ジョブの検索

[一括管理] メニューから BPS へ送信済のジョブを検索するには、次の手順に従います。

### 手順

**ステップ 1** [一括管理] > [ジョブスケジューラ] の順に選択します。[ジョブの検索と一覧表示 (Find and List Jobs)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ジョブの検索と一覧表示 (Find and List Jobs)] ウィンドウの最初のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。

- ユーザ
- ステータス
- ジョブ ID
- 説明 (Description)
- スケジュール日時 (Scheduled Date Time)

**ステップ 3** [ファイルの検索と一覧表示 (Find and List Files)] ウィンドウの 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

**ステップ 4** 3 番目のドロップダウン リスト ボックスから [表示] を選択して、完了したジョブを表示します。

**ステップ 5** 必要に応じて適切な検索テキストを指定します。



**ヒント** データベースに登録されているすべてのジョブを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

**ステップ 6** クエリーをさらに定義するには、AND または OR を選択して複数のフィルタを追加し、ステップ 2 ~ 5 を繰り返します。

**ステップ 7** [検索] をクリックします。

検出されたジョブのリストが次の基準で表示されます。

- ジョブ ID (Job id)
- スケジュール日時 (Scheduled Date Time)
- 送信日時 (Submit Date Time)
- 順序 (Sequence)
- 説明 (Description)

- ステータス (Status)
- 最後のユーザ (Last User)



**(注)** ジョブのスケジューリング時に [ 後で実行 ( このジョブをスケジュールして有効にするには、[ ジョブスケジューラ ] ページを使用します。 ) ] オプション ボタンをクリックした場合は、[ ステータス (Status) ] に Hold と表示されます。[ 今すぐ実行 ] オプション ボタンをクリックした場合は、[ ステータス (Status) ] に Pending と表示されます。ジョブが完了している場合は、[ ステータス (Status) ] に Completed と表示されます。また、エラーが発生して完了できないジョブの場合は、Incomplete と表示されます。

**ステップ 8** 処理中のジョブ、またはスケジュールおよびアクティブ化する保留中のジョブについて、ジョブ ID をクリックします。

[ ジョブスケジューラ (Job Scheduler) ] ウィンドウが表示されます。

選択したジョブのステータスと要約の結果を表示できます。

#### 追加情報

P.43-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ジョブのスケジューリング

送信済のジョブをスケジュールするには、次の手順に従います。

### 手順

- ステップ 1** P.43-5 の「**ジョブの検索**」の手順に従ってスケジュールするジョブを検索します。
- ステップ 2** 表 43-1 の手順に従い、[ **ジョブスケジューラ (Job Scheduler)** ] ウィンドウで、ジョブのスケジューリングとアクティブ化の設定を入力します。

表 43-1 ジョブの設定値


フィールド	説明
ジョブ ID(Job id)	このフィールドには、ジョブの送信時に作成されたジョブ ID が表示されます。
ジョブのステータス (Job Status)	このフィールドには、次のいずれかのジョブ ステータスが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Hold</li> <li>• Pending</li> <li>• Completed</li> <li>• Incomplete</li> </ul>
スケジュール日時 (Scheduled Date Time)	ドロップダウン リスト ボックスから月、日、年を選択します。ジョブをスケジュールする時刻を入力します。
送信日時 (Submit Date Time)	このフィールドには、ジョブが送信された日時が表示されます。
順序 (Sequence)	ドロップダウン リスト ボックスから、ジョブの実行順序を選択します。選択できる数値は 1 ~ 20 です。   <p><b>(注)</b> 複数のジョブで同じ日時がスケジュールされている場合、この順序の数値に従ってそれらのジョブが BPS のキューに入れられます。スケジュールされた日時と [ 順序 (Sequence) ] が同じである場合は、送信された日時に応じてジョブがキューに入れられます。</p>
ジョブ説明 (Job Description)	このフィールドには、ジョブの作成時に入力した説明が表示されます。
頻度 (Frequency)	次のオプションの中から、トランザクションの頻度を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 度</li> <li>• 月次</li> <li>• 週次</li> <li>• 日次</li> <li>• 毎時</li> </ul> <p>たとえば、[ 日次 ] を選択すると、トランザクションは、[ スケジュール日時 (Scheduled Date Time) ] フィールドで入力した時刻に毎日実行されます。</p>

表 43-1 ジョブの設定値 (続き)

フィールド	説明
ジョブの終了時刻(Job End Time)	このフィールドには、反復的な (頻度の高い) ジョブの終了時刻が表示されます。
最終変更者 (Last Modified By)	このフィールドには、最後にこのジョブを変更した管理者のユーザ ID が表示されます。

**ステップ 3** スケジュールした時刻にジョブをアクティブ化するには [ **ジョブのアクティブ化** ] をクリックします。設定を保存して後でジョブをアクティブ化するには [ **保存** ] をクリックします。

[ **ジョブの検索と一覧表示 (Find and List Jobs)** ] ウィンドウが表示されます。



**(注)** ジョブが保存されていてアクティブ化されていない場合、そのジョブのステータスは Hold と表示されます。これらのジョブがアクティブ化されるまで、BPS ではこれらのジョブは処理されません。

**ステップ 4** アクティブ化したジョブのジョブ ID をクリックします。[ **ジョブスケジューラ (Job Scheduler)** ] ウィンドウの [ **ジョブの結果 (Job Results)** ] エリアに、完了、未完了、停止要求中、または処理中のすべてのジョブに関する次の情報が表示されます。

- ジョブの実行日時 (Job Launched Date Time)
- ジョブの結果の状況 (Job Result Status)
- 処理されたレコードの数 (Number Of Records Processed)
- 失敗したレコードの数 (Number Of Records Failed)
- レコードの総数 (Total Number Of Records)
- ログファイル名 (Log File Name)



**(注)** このトランザクションのログ ファイルを表示するには、[ **ログファイル名 (Log File Name)** ] 列のリンクをクリックします。

**ステップ 5** ジョブのリストに戻るには、[ **関連リンク** ] ドロップダウン リスト ボックスから [ **検索 / リストに戻る** ] を選択し、[ **移動** ] をクリックします。

## 関連項目

- [Bulk Provisioning Service のアクティブ化 \(P.43-2\)](#)
- [BPS の開始 / 停止 / 再起動 \(P.43-3\)](#)
- [BPS の無効化 \(P.43-4\)](#)
- [ジョブの検索 \(P.43-5\)](#)
- [ジョブのスケジューリング \(P.43-7\)](#)



## CUP ユーザの更新

Cisco Unified Presence Bulk Administration (BAT、一括管理) を使用すると、Cisco Unified Presence ディレクトリ内にあるユーザグループを更新できます。

### Cisco Unified Presence のユーザの更新

Cisco Unified Presence ディレクトリのユーザグループを更新するには、次の手順に従います。

#### 開始する前に

ユーザ名、制御されるデバイス名、およびディレクトリ番号を含む CSV データ ファイルが必要です。次のいずれかの方法を使用して、CSV データ ファイルを作成できます。

- CSV 形式に変換される BAT スプレッドシート
- ユーザデータのエクスポート ファイルを生成するエクスポートユーティリティ

エクスポートユーティリティにより生成されるファイルを更新する場合は、接尾辞 `_MgrLevel#` に基づいてファイルを降順で挿入します。# は 1 ~ 20 の数字です。ファイルの末尾に `_user` という接尾辞を挿入し、マネージャのユーザレコードが存在することを確認してから、[ マネージャのユーザ (Manager User ID) ] フィールドにあるマネージャのユーザ ID を使用します。

#### 手順

**ステップ 1** [一括管理] > [CUP] > [CUP ユーザの更新] の順に選択します。

[CUP ユーザの更新 (Update Users Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この一括トランザクションに対して作成した CSV データファイルを選択します。

**ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] エリアで、ジョブの説明を入力します。

**ステップ 4** ただちにユーザレコードを挿入する場合は、[今すぐ実行] オプション ボタンをクリックします。後でユーザレコードを挿入する場合は、[後で実行 (このジョブをスケジュールして有効にするには [ジョブスケジューラ] ページを使用します。)] をクリックします。

**ステップ 5** ユーザレコードを挿入するジョブを作成するには、[送信] をクリックします。

## ■ 関連項目

**ステップ 6** [一括管理]メニューの[ジョブスケジューラ]オプションを使用して、このジョブをスケジュールおよびアクティブ化します。

---

## 関連項目

- [Cisco Unified Presence のユーザの更新 \(P.44-1\)](#)



# Cisco Unified Presence ユーザのエクスポート

---

Cisco Unified Presence の Bulk Administration (一括管理) を使用してユーザのレコードをエクスポートすると、エクスポートユーティリティにより、データベースの組織階層に従ってユーザがソートされます。

## ユーザレコードのエクスポート

Cisco Unified Presence からユーザレコードをエクスポートするには、次の手順に従います。

### 手順

**ステップ 1** [一括管理] > [CUP] > [CUP ユーザのエクスポート] の順に選択します。

[ユーザエクスポートのクエリー (Export Users Query)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ユーザエクスポートのクエリー (Export Users Query)] ウィンドウの最初のドロップダウンリストボックスで、クエリーを実行するフィールドを選択します。

- ユーザ ID
- 名
- ミドルネーム
- 姓
- マネージャ
- 部署名

**ステップ 3** [ユーザエクスポートのクエリー (Export Users Query)] ウィンドウの 2 番目のドロップダウンリストボックスで、次のオプションの中から選択します。

- が次の文字列で始まる
- が次の文字列を含む
- が次の文字列と等しい
- が次の文字列で終わる
- が空である
- が空ではない

**ステップ 4** 検索フィールドのリスト ボックスで、特定の名前またはユーザ ID などの、検索する値を入力します。



(注) 複数の部署からユーザを選択するには、このフィールドで複数の部署名を入力します。たとえば、部署名 12 と 34 のユーザを選択するには、3 番目のボックスに 12, 34 と入力すれば、処理を 2 度行う必要がありません。

**ステップ 5** [次を使用した拡張検索] チェックボックスをオンにして、AND または OR を選択して複数のフィルタを追加し、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 4](#) の手順を繰り返してさらにクエリーを定義します。

**ステップ 6** [検索] をクリックします。検索結果が表示されます。



(注) データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

**ステップ 7** [次へ] をクリックします。

**ステップ 8** [ファイル名 (File Name)] テキスト ボックスに、ユーザ エクスポートのファイル名を入力します。

**ステップ 9** [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスからファイル形式を選択します。

**ステップ 10** [ジョブ情報 (Job Information)] エリアに、ジョブの説明を入力します。

**ステップ 11** ただちにユーザ レコードをエクスポートする場合は、[今すぐ実行] オプション ボタンをクリックします。後でエクスポートする場合は、[後で実行 (このジョブをスケジュールして有効にするには [ジョブスケジューラ] ページを使用します。)] をクリックします。

**ステップ 12** ユーザ レコードをエクスポートするジョブを作成するには、[送信] をクリックします。

**ステップ 13** [一括管理] メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブをスケジュールおよびアクティブ化します。

[一括管理] メニューの [ファイルのアップロード / ダウンロード] オプションを使用すると、エクスポート済ファイルを検索してダウンロードできます。

## 関連項目

- [ユーザレコードのエクスポート \(P.45-1\)](#)





## INDEX

- A
  - ACL
    - 着信
      - エントリの検索 14-1
      - エントリの削除 14-4
      - 関連項目 14-4
      - 設定 14-3
      - 設定値（表） 14-3
      - 説明 14-1
    - プライバシ
      - エントリの検索 15-1
      - エントリの削除 15-4
      - 関連項目 15-4
      - 設定 15-3
      - 設定値（表） 15-3
      - 説明 15-1
  - AXL
    - 設定 18-1
    - 設定値の設定 18-1
- B
  - BPS
    - アクティブ化 43-2
    - 開始 / 停止 / 再起動 43-3
    - 無効化 43-4
  - Bulk Provisioning Service
    - 「BPS」を参照
- C
  - Cisco MeetingPlace
    - サーバ
      - 概要 25-1
      - 関連項目 25-4
      - 検索 25-1
      - 削除 25-3
      - 設定 25-2
    - 設定値（表） 25-3
    - プロファイル
      - 概要 26-1
      - 関連項目 26-5
      - 検索 26-1
      - 削除 26-5
      - 設定 26-3
      - 設定値（表） 26-4
    - Cisco Unified Presence
      - サーバの設定 2-1
      - Cisco Unified Presence Server
        - ユーザ 44-1
        - ユーザのエクスポート 45-1
        - ユーザの更新 44-1
      - Cisco Unified Presence の管理ページ
        - 概要 1-1
        - 関連項目 1-11
        - 参考情報 1-11
        - 参照 1-4
        - 紹介 1-1
        - ナビゲーション（図） 1-9
        - ナビゲート 1-9
      - Cisco Unity
        - ホストの設定 23-3
        - Cisco Unity サーバ
          - 概要 23-1
          - 関連項目 23-5
          - 検索 23-1
          - 削除 23-5
          - 設定値（表） 23-4
        - Cisco Unity プロファイル
          - 概要 24-1
          - 関連項目 24-5
          - 検索 24-1
          - 削除 24-5
          - 設定 24-3
          - 設定値（表） 24-4

## CTI

## ゲートウェイ サーバ

- 概要 27-1
- 関連項目 27-4
- 検索 27-1
- 削除 27-4
- 設定 27-3
- 設定値 (表) 27-3

## ゲートウェイ プロファイル

- 概要 28-1
- 関連項目 28-5
- 検索 28-1
- 削除 28-5
- 設定 28-3
- 設定値 (表) 28-4

## H

## HTTPS

- HTTP over Secure Socket Layer 1-5
- IE
  - 使用、Cisco Unified Presence の管理ページでの  
1-6
- Netscape
  - 使用、Cisco Unified Presence の管理ページでの  
1-7

## I

## IE および HTTPS

- 使用、Cisco Unified Presence の管理ページでの  
1-6

## Internet Explorer および HTTPS

- 使用、Cisco Unified Presence の管理ページでの  
1-6

## IP Phone Messenger

「IPPM」を参照

## IP アドレス 2-1

## IPPM

- エンド ユーザのログアウト 34-2
- 応答メッセージ
  - 概要 36-1
  - 関連項目 36-4
  - 検索 36-1
  - 削除 36-4
  - 設定 36-3

関連項目 33-4, 34-3

## ステータス

- 概要 34-1
- 検索 34-1

## 設定値

- 概要 35-1, 37-1
- 設定 35-1, 37-1
- 設定値 (表) 35-2, 37-2

## L

## LDAP

## サーバ

- 概要 29-1
- 関連項目 29-4
- 検索 29-1
- 削除 29-3
- 設定 29-2
- 設定値 (表) 29-3

## プロファイル

- 概要 30-1
- 関連項目 30-5
- 検索 30-1
- 削除 30-5
- 設定 30-3
- 設定値 (表) 30-4

## N

## Netscape および HTTPS

- 使用、Cisco Unified Presence の管理ページでの  
1-7

## T

## TLS

## コンテキスト

- 関連項目 16-5
- 検索 16-1
- 削除 16-5
- 設定 16-3
- 設定値 (表) 16-4
- 設定の概要 16-1

## ピア サブジェクト

- 概要 17-1
- 関連項目 17-4

検索 17-1  
 削除 17-4  
 設定 17-3  
 設定値 (表) 17-3

## U

## Unified Personal Communicator

LDAP アトリビュート マッピング (表) 21-2  
 関連項目 22-5  
 設定値  
 概要 21-1  
 設定 21-1  
 設定値 (表) 21-2  
 ユーザ設定 22-1  
 ユーザの検索 22-1  
 ユーザの削除 22-5  
 ユーザの設定 22-3  
 ユーザの設定値 (表) 22-4

## W

Web ブラウザ 1-4

## あ

アクセシビリティ  
 ボタンおよびアイコンへのアクセス 1-11  
 アクセス コントロール リスト  
 「ACL」を参照  
 アプリケーション ユーザ  
 関連項目 39-9  
 検索 39-2  
 信用証明書情報の管理 39-7  
 信用証明書の設定値 (表) 39-8  
 設定 39-1  
 設定値 (表) 39-4  
 追加 39-3  
 パスワードの変更 39-6

## け

## 権限

概要 40-1  
 関連項目 40-6

検索 40-2  
 削除 40-4  
 設定 40-3  
 設定値 (表) 40-5  
 ユーザ グループおよびアクセス権の表示  
 41-10  
 ユーザ グループへの割り当て 41-8

## さ

## サーバ

関連項目 2-6  
 検索 2-2  
 削除 2-5  
 設定 2-1, 2-4  
 設定値 (表) 2-6  
 サービス パラメータ  
 関連項目 3-5  
 サービスの設定 3-2  
 サービスの表示 3-4  
 設定 3-1  
 設定ウィンドウ (図) 3-3

## サービスのアクティブ化

BPS 43-2

## 参照

Cisco Unified Presence 1-4  
 セキュリティ  
 ハイパーテキスト転送プロトコル 1-5

## し

## ジョブ

BPS のアクティブ化 43-2  
 BPS の開始 / 停止 / 再起動 43-3  
 BPS の無効化 43-4  
 検索 43-5  
 スケジューリング 43-1, 43-7  
 ログ ファイルの表示 43-8  
 ジョブの検索 43-5  
 ジョブのスケジューリング 43-1, 43-7

## す

## スタティック ルート

概要 12-1  
 関連項目 12-5

- 検索 12-1
- 削除 12-5
- 設定 12-3
- 設定値 (表) 12-4
- ステータス
  - 同期 6-1
  - パラメータ (表) 6-2
  - 表示 6-1
- と
- 同期ステータス 6-1
  - パラメータ (表) 6-2
  - 表示 6-1
- ドメイン ネーム システム (DNS) 2-1
- トランスポート レイヤ セキュリティ  
「TLS」を参照
- な
- ナビゲート
  - Cisco Unified Presence の管理ページ 1-9
- は
- パラメータ
  - 関連項目 3-5
  - サービスの設定 3-2
  - サービスの表示 3-4
  - 設定 3-1
  - 設定ウィンドウ (図) 3-3
- ふ
- ファイル
  - アップロード 42-4
  - 関連項目 42-5
  - 検索 42-2
  - 削除 42-5
  - ダウンロード 42-3
- ファイルのアップロード
  - 概要 42-1
  - 関連項目 42-5
  - 手順 42-4
- ファイルの削除 42-5
- ファイルのダウンロード
  - 概要 42-1
  - 関連項目 42-5
  - 手順 42-3
- ブラウザ 1-4
- プラグイン
  - URL の更新 38-3
  - URL の設定値 (表) 38-3
  - インストール 38-1
  - 設定 38-1
- プレゼンス エンジン
  - トランスポート リスナー
    - 概要 19-1
    - 関連項目 19-5, 20-4
    - 検索 19-1
    - 削除 19-5
    - 設定 19-3
    - 設定値 (表) 19-4, 20-3
  - プレゼンス ゲートウェイ 9-1
- プレゼンス ゲートウェイ
  - 関連項目 9-4, 10-5
  - 検索 9-1
  - 削除 9-4, 10-4
  - 設定 9-2, 10-3
  - 設定値 (表) 9-3, 10-3
- プロキシ サーバ
  - 関連項目 8-3, 11-2
  - 設定 11-1
  - 設定値 (表) 11-2
- プロキシ サービス
  - 再起動 11-2
- プロキシ プロファイル
  - 概要 31-1
  - 関連項目 31-5
  - 検索 31-1
  - 削除 31-5
  - 設定 31-3
  - 設定値 (表) 31-4
- め
- メソッド / イベント ルート
  - 概要 13-1
  - 関連項目 13-5
  - 検索 13-1
  - 削除 13-4

設定 13-3  
設定値 (表) 13-4

## ゆ

### ユーザ

#### アプリケーション

関連項目 39-9  
検索 39-2  
信用証明書情報の管理 39-7  
信用証明書の設定値 (表) 39-8  
設定 39-1  
設定値 (表) 39-4  
追加 39-3  
パスワードの変更 39-6

エクスポート 45-1

関連項目 44-2, 45-2

更新 44-1

レコードのエクスポート 45-1

### ユーザグループ

概要 41-1

関連項目 41-11

権限の割り当て 41-8

検索 41-2

削除 41-5

設定 41-4

ユーザの権限、ユーザグループ、およびアクセス権の表示 41-10

ユーザの削除 41-7

ユーザの追加 41-6

ユーザレコードのエクスポート 45-1

ユーザ設定 22-1

## ら

### ライセンス

#### ライセンスファイル

アップロード 4-1, 4-6

関連項目 4-7

内容 4-4

ライセンスファイルのサンプル 4-4

ライセンスファイルの取得 4-2

#### ライセンスユニットレポート

概要 5-1

関連項目 5-1

生成 5-1

## ろ

### ログファイル

ジョブのログファイルの表示 43-8